科　目　名	メディアコミュニケーション論		
担当教員名	田総　恵子、安達　一寿、小野　裕次郎、鹿又　伸夫 他		
ナンバリング	KJa101		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	選択,必修＊,選必
授 業 形 態		単　位　数	2
資 格 関 係	上級情報処理士		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格：メディアコミュニケーション学科の学位授与方針１、２に該当する。
メディアコミュニケーション学科必修専門科目で、４年間学修する学科の専門科目の内容を総括的に学修するものである。

科目の概要：メディアコミュニケーション学科での学びのイントロダクションとして、メディア社会、メディア文化、メディアデザイン、メディアプロデュースの各分野の概要と知識、問題や課題について総括的に学修します。各テーマの1回目は、該当分野に関する理解、動向などの解説、調査事項や課題の提示、2回目は、提示された課題に関する討議や発表などをおこないます。

③授業の方法（ALを含む）

④到達目標
・メディア社会、メディア文化、メディアデザイン、メディアプロデュースの各分野の概要の理解と知識の修得ができる。
・分野での課題や諸問題に関心を持ち、問題意識を持つことができる。
・大学で主体的に学ぶ態度を身につける。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係
この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

内容

1	オリエンテーション、メディアコミュニケーションの概要(安達)
2	現代社会でのメディアの役割と課題（安達）
3	地域社会におけるメディアの概況（石野）
4	地域メディアの役割と活用（石野）
5	メディア社会-インターネットの利活用（川口）
6	メディア社会-インターネットの影響と問題（川口）
7	メディア文化：メディアによって広がる文化（田総）
8	メディア文化：メディアによって変化する文化（田総）
9	メディアデザイン～メディアとデザインの関係とリテラシー（川瀬）
10	メディアデザイン～コミュニケーションツールとしてのデザイン（川瀬）

11	現代メディアビジネス総論1(加藤)
12	現代メディアビジネス総論2(加藤)
13	音楽、または音響メディアとテクノロジー１（棚谷）
14	音楽、または音響メディアとテクノロジー２（棚谷）
15	まとめ（全員）

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】メディアの動きに関心を持ち、世の中の動向を調べる。　(60分)

【事後学修】授業で習ったことを整理し、自らの課題をまとめる。(60分)

評価方法および評価の基準

各テーマごとに小レポートを課します(7回×10点=70点）。平常点を30点とします。

総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

特に指定しない。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	**生活とメディア**		
担当教員名	安達　一寿		
ナンバリング	KJa102		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	必修＊,選必,選択
授 業 形 態		単　位　数	2
資 格 関 係	上級情報処理士／ウェブデザイン実務士		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

メディアコミュニケーション学科の学位授与方針１、２に該当する。

メディアコミュニケーション専門必修科目である。

②科目の概要

情報がネットワーク化され、情報の量と速度は飛躍的に増大している。そして、情報はメディアを通して、我々の生活の中にも浸透している。主体的に情報を取り扱うためには、メディアリテラシーを身につけると共に、生活の中でのメディアの役割や特徴を理解する必要がある。本科目では、メディアは生活をどのように変えたかをテーマに、ソーシャルメディアなどの新しい活用と影響などについて理解を深める。

③授業の方法（ALを含む）

④到達目標

・メディアに対する基礎的な知識を修得し、メディアと生活の関心や理解を深める。

・メディアの特性を理解し、社会や生活との関係を理解する。

・現代社会や生活でのメディアに関する課題に関して情報収集・分析を行い、その問題解決を通して、総合的なメディアリテラシーを身につける。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

内容

講義による解説とグループ活動での課題解決、発表活動を行う。

1	情報社会・メディア社会の現状と課題
2	生活や地域におけるメディアの利活用
3	メディアのパーソナル化
4	コミュニティーとしてのメディア
5	演習
6	課題発表（コミュニティー）
7	モバイルメディアの発展

8	メディアとビジネス
9	課題発表（ビジネス）
10	教育とメディア
11	娯楽・エンターテイメントとメディア
12	メディアの将来への企画
13	課題発表(エンターテイメント)
14	社会の中でのメディアの役割
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】授業で利用する資料を事前にポータルサイトから提供するので、それを利用しての予習(60分)

【事後学修】ふり返りシートを利用しての授業のまとめ(60分)

評価方法および評価の基準

授業への参加度 10%、ふり返りシートの活用 20%、レポート試験 70%とし、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】青木他,日常生活のデジタルメディア,NHK出版,2300

土橋他,デジタルメディアの社会学,北樹出版,2100

東京情報大学編,情報学の楽しさ,東京農業大学出版会,1600

【参考図書】授業時に紹介する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	情報倫理と法		
担当教員名	石野　榮一		
ナンバリング	KJa203		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	選必,選択,必修＊
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係	上級情報処理士／ウェブデザイン実務士／高等学校教諭一種免許状（情報）		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

有　新聞社での取材、編集業務を経験。自治体の情報公開・個人情報保護審議会委員情報発信・受信に当っての倫理的な視点、情報公開・個人情報保護の論点を解説しながら指導できる。

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

本学科では専門科目で情報、メディアに関する分野を学ぶが、それらの基礎となる「情報」の意味について法的・制度的な面も含め理解を深めることが目的である。情報社会に生きる上で身に付けるべき情報との接し方（倫理的対応）を考える機会とする。

②科目の概要

普段、意識せずに接する情報だが、情報が持つ社会的意味を憲法が保障する表現の自由からとらえ直す機会とする。また、情報には送る側と受け取る側が存在するが、双方における情報の接し方を倫理的に考察しながら、メディアリテラシーを涵養する。特に著しい進化を見せるネット社会における情報の扱い方を具体例を交えながら学ぶ。情報公開・個人情報保護の動向を理解する。

③授業の方法（ALを含む）

講義による解説が中心とするが、テーマごとにレポート課題を設定し、理解と定着を図る。【レポート（知識・表現）】

④到達目標

１．情報について、表現の自由を出発点に法的、制度的な側面から理解を深め、情報の自由な流通が個人の尊重、民主主義社会に不可欠であることを説明することができる。

２．ネット社会において情報の賢い「受け手」と「送り手」になるために、倫理的な対応を具体例を使って説明することができる。

３．情報公開の必要性と留意点、個人情報保護の動向を解説できる。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

①－１メディアの役割・利用法　②－２現代文化の評価・判断　③－３コミュニケーションへの関与・意欲

内容

インターネットを取り巻く情報に詳しい弁護士をゲスト講師に招く予定である。日程調整によっては回数が入れ替わる可能性がある。

1	授業ガイダンス、情報に関するアンケート（１回目）、倫理（応用倫理）の解説
2	情報の定義、情報倫理の意味、表現の自由の歴史・社会的意味
3	日本国憲法における「表現の自由」の保障　１

4	同　2
5	表現の自由の限界・制約　1
6	同　2
7	具体的な報道事例を基にした表現の自由の保障と制約事例
8	課題提示によるレポート作成
9	ネット社会における情報の意味
10	ネット社会における情報の受け止め方　1
11	同　2
12	ネット社会における情報発信の留意点（法的規制の意味も含め）1　　弁護士による講義①
13	同　2　　弁護士による講義②
14	情報公開、個人情報保護に関する理解
15	課題提示によるレポート作成、情報に関するアンケート（2回目）

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】日々のニュースのチェック、提示した資料の事前学習。（概ね60分）

【事後学修】授業で取り上げたテーマを新聞などを参考に再確認する。（概ね60分）

評価方法および評価の基準

各授業回で指示する課題（主にレポート作成）への取り組み（70点）、中間課題（情報に関する理解）・最終課題（情報の賢い受け手・送り手になる）の内容各15点とし、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない。毎回の授業で資料として使えるレジュメを配布する。

【推薦書】必要に応じて指示、教室にて紹介する。

【参考図書】新聞、テレビなどマスメディアのニュース、インターネットのニュースを日常的に読む姿勢が望ましい。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	**社会とニュース**		
担当教員名	荻　太		
ナンバリング	KJa204		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	必修＊
授 業 形 態	講義・演習	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有り

実務経験および科目との関連性

新聞記者、編集者、出版社代表、ニュース検定協会役員などを経験。yahooニュースでも時事問題を発信。教科書の監修者の一員。

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

１年次で基礎知識の絶えざる補給の重要さを学びました。この講座では、その部分を深めていきます。

文章の上達には洞察力やボキャブラリー、観察力といった能力が欠かせません。ではそれをどこへ向けるかというと今起きている出来事が主になるはずです。何を書きたいかと選択を迫られた場合に社会現象の基礎知識がないと身近な経験でしか語れません。そうならないように客観的な「社会のありよう」をニュースを通じて知り、より深い洞察へとつなげていきます

②科目の概要

ニュース検定テキストを教科書としながら時事問題を広範囲に学び、問題演習で知識を固めていく

③授業の方法（ALを含む）

主に講義と問題演習の繰り返し。リアクションシートを毎回配布して質問に次週お答えする

④到達目標

ニュース検定公式テキストを用いて以下を目指す。

１　今、社会で何が起きているのかを具体的に把握する

２　ニュースとは何かを知る。賛否両論の意見を学びながら知見を広げる

３　その上で自分の意見を確立させていく

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

内容

1	政治１（三権分立の仕組みと意義。国会と選挙など）
2	政治２（日本国憲法の内容・日本の外交など）
3	政治３（地方自治の仕組みなど）
4	経済１（財政の仕組みと近年の日本財政）

5	経済２（産業とエネルギーなど）
6	暮らし１（少子高齢化と社会保障のあり方など）
7	暮らし２（引き続き社会保障と働き方について）
8	社会環境１（共生社会と情報社会のあり方など）
9	社会環境２（司法の果たす役割など）
10	社会環境３（生命倫理など）
11	社会環境４（自然災害や復興について）
12	社会環境５（地球温暖化に代表される国際的取り組み）
13	国際１（アメリカと中国）
14	国際２（分断と統合の行方）
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業はテキスト20テーマを毎回１・２テーマ解説する。該当個所を授業後に指示するので熟読してくる。約30分。

【事後学修】主に２つ。１つは授業内で説ききれなかった問題が６～10問発生するので解いてくる。約20分。もう１つは授業時に配布するミニテストを解いて次回までに提出する。約15分。

評価方法および評価の基準

平常点として授業への参加度40%、レポートとして小テストやリアクションペーパー等20%、筆記試験40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習内容を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

2020年度版ニュース検定公式テキスト＆問題集「時事力」基礎編（３・４級対応）

編者「ニュース検定公式テキスト編集委員会」

毎日新聞出版

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	メディア産業論		
担当教員名	石野　榮一		
ナンバリング	KJa305		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	必修＊,選必
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係	上級情報処理士		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

新聞社で取材、編集業務、および管理職として経営部門を経験。メディア業界の現状、歴史、将来像を実務経験を活かし解説できる。

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

メディア旧４媒体（新聞、出版、テレビ、ラジオ）のビジネスモデルを軸とし、これと密接に絡む新たなメディア（インターネット、電子媒体）も俯瞰しながらメディアビジネスを概観し、その理解に努める。メディアから発信されるコンテンツの重要性を押さえつつ、各メディア企業の良質のコンテンツ、さらに「広告」の役割も見つめて、メディア業界の今後を展望する。

②科目の概要

新聞、テレビ、雑誌、ラジオという既存メディアの厳しいビジネス環境を広告、メディア接触時間から考える。新たなメディアであるインターネット、ＳＡＮにかかわるビジネスモデルを解説する。新旧のメディア企業の生命線である広告ビジネスについても認識を深める。

③授業の方法（ALを含む）

講義による解説を中心とするが、テーマごとに課題を設定し、理解と定着を図る。【レポート（知識・表現】

また、メディアに関する各種調査データを読み解く。

④到達目標

１．情報社会といわれる現代社会で湯水のように接する情報をメディアのビジネス構造の視点から理解し、ビジネス的観点からメディアリテラシーを高めることができる。

２．メディアビジネスの現場で働く人の現実を的確に把握し、メディアへの就職を目指すモチベーションを高める。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

②－３メディア選択・活用　③－１社会問題への関心・意識　②－１情報収集・情報選択、集約

内容

1	ガイダンス（メディア業界の概観）
2	メディア業界の今を各種統計（主にメディア接触時間）から理解する
3	メディアと広告の関係
4	新聞業界の今　1
5	新聞業界の今　2

6	出版業界の今
7	テレビ業界の今　1
8	テレビ業界の今　2
9	ラジオ業界の今
10	通信社の役割
11	インターネット業界の今　1
12	インターネット業界の今　2
13	映画・音楽業界の今
14	ＰＲ会社の役割
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】次回授業で取り上げるメディア業界の特徴を指示に従って整理しておく。（各授業に対して60分ほど）
【事後学修】授業で取り上げたメディア業界の課題をレジュメや新聞、書籍などを使って自分なりのノートにまとめる。科目終了時には1冊のレポートに仕上がるようにする。（各授業に対して60分ほど）

評価方法および評価の基準

各授業回で指示する課題（主にレポート作成）の理解度80点、最終課題の理解度20点で評価し、総合評価60点以上を合格とする。
【フィードバック】毎授業ごとに前回授業の内容を確認し、学生の質問を受けながら理解を深める。提出されたレポートが翌週以降にコメントを付して返却する。最終課題は時間内にポイントを解説する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用しない。毎回配布するレジュメと指示した資料を検索・分析しながら授業を進める。必要な書籍等は授業時に紹介する。
【参考図書】「メディア産業論」（共著、有斐閣）「日本のマスメディア」（春原明彦ほか、日本評論社）

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	プレゼンテーション技法		
担当教員名	安達　一寿		
ナンバリング	KJb106		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	選択,選必,必修＊
授 業 形 態		単　位　数	2
資 格 関 係	上級情報処理士		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

メディアコミュニケーション学科の学位授与方針１、２に該当する。

効果的なプレゼンテーションスキルの習得と自分のメディア力を高めることを目指します。

②科目の概要

・Power Pointを使える武器として使えるように実践的なスキルを、各自のコンテンツのプレゼンテーションをおこなうことを通して学びます。文字のレイアウト、音声、画像、動画の処理など高度なテクニックも取り入れたCoolなプレゼンテーションのTipsを習得しましょう。

・この授業は、アクティブラーニング（学生が自ら正解を探す「能動的学習スタイル」）による参加型授業ですすめます。

・授業内の実習だけでは技術は向上しません、課題などハードなハードルも乗り越え、より高いもの達成したいという学生の受講を期待します。

③授業の方法（ALを含む）

④到達目標

・プレゼンテーションの基本的な考え方や技能を理解する。

・Power Pointの実践的な活用スキルを身につける。

・テーマに沿ったプレゼンテーションの準備ができる。

・実際に効果的なプレゼンテーションを行うことができる。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

内容

・『PowerPoint』の基本操作

・プレゼンテーションのプランニングと構成

・スライドの作成

・人前で話すための基本姿勢

・プレゼンテーション演習

1	コミュニケーションツールとしてのプレゼン技術
2	プレゼンテーションの基本概念

3	プレゼンテーションマインドを高める
4	プレゼンテーションの設計
5	プレゼンテーションの極意
6	プレゼンテーションの評価
7	ビジュアルプレゼンテーション演習
8	グループプレゼンテーション課題１
9	グループプレゼンテーション課題２
10	グループプレゼンテーション課題３
11	プレゼンテーション制作１
12	プレゼンテーション制作２
13	プレゼンテーション制作３
14	発表・評価
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】制作発表における事前課題の実施(60分)

【事後学修】授業に関する事後評価の実施(60分)

評価方法および評価の基準

・パワーポイント演習課題 20%

・グループプレゼン課題制作・発表 40%

・プレゼン制作・発表 40%

とし、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】PowerPoint ビジネス問題集 [2013対応] ,日経ＢＰ

【参考図書】中澤務・森貴史・本村康哲編,『知のナヴィゲーター』, くろしお出版(入門ゼミナールと同じ)

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	クリエイティブライティングⅠ		
担当教員名	安達　一寿		
ナンバリング	KJb107		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	選必,必修＊
授 業 形 態		単　位　数	2
資 格 関 係	上級情報処理士		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

メディアコミュニケーション学科の学位授与方針１に該当しつつ２も展望する。

人の心をとらえる文章はどう書くか。「読み、書き、聞き、話す」トータルな常識と文章のスタイルを押さえて、説得力を持つ文章を書けるように指導する。

②意思伝達の基本として、手紙の書き方、敬語の使い方等の文章作法から入り、さまざまな文章スタイルを認識したうえで、内容があり、相手を引きつける文章が書けるように努める。

③授業の方法（ALを含む）

④到達目標

１　文章への苦手意識を克服し、日常の各場面で文章を活かす発想を身に付けてもらう。

２　文章を書くことの楽しさを味わい、文章を作りながら事象に対する見方を深める。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

内容

1	敬語の使い方1（概略を知る）
2	敬語の使い方２（実際に使ってみる）
3	魔法の言葉「５Ｗ１Ｈ」とは何かを解説し応用してみる
4	「５Ｗ１Ｈ」を用いた自分の行動を書いてみる
5	より面白く「５Ｗ１Ｈ」を使い込むために書き直す
6	他者へインタビューして人物像を聞き出す
7	聞き出した人物像を逆三角形で表現する
8	ボキャブラリー充実をさらに（通常毎回行っているボキャブラリーテスト拡大版）
9	見出しをつけてから文章を書き始める訓練を実践する
10	見出しの次に重要なリード作成を行う
11	詩の意味を類推しつつ想像力を高める
12	時事問題へ取り組んでみよう（45問４択問題に取り組む）

13	誤字・脱字・思い込み等を避けるため校正の実務を学ぶ
14	さまざまな表現方法。比喩表現などの紹介と実践
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業終了前に次回までにやっておくべき内容を指示する。

【事後学修】復習することを必須とする。配布した資料をまとめられるファイルを準備し、内容を深められるようにするとともに授業内で行ったメモや下書きを書き留めるノートを別途に用意する。

評価方法および評価の基準

授業への参加度40%、リアクションペーパー等10%、課題提出（約６回）およびその内容20%、筆記試験30%とし
総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初にリアクションシートの内容のうち共有すべき点を返答し、学習内容を深めていく

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に指示します。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	クリエイティブライティングⅡ		
担当教員名	川口　英俊		
ナンバリング	KJb207		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	1Aクラス
開　講　期	前期	必修・選択の別	必修＊,選必
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係	上級情報処理士		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①　科目の性格

本科目は情報を集め取捨選択し、レポートをまとめる力・発表する力・現代社会の諸問題に興味を持ち、問題意識を持つなどの力を育成するものである。

②　科目の概要

レポート作成の技術、ルールを学びながらレポートを作成していく。そのレポートをパワーポイントを用いて作成・発表していく。

③授業の方法（ALを含む）

レポートをレポート中間報告、レポートアウトライン、レポートと順を追って作成していく。そのレポートを元にパワーポイントを作成し、グループで全体で発表する。

【PBL】【レポート(表現)】【プレゼンテーション】

④到達目標

1.学生が授業でのレポートなどの課題、3年次のゼミ等における発表、4年次の卒業研究に対応していくための基本的技術を習得する

2.学生が与えられた情報をどう解釈し、どう加工していくか、どうまとめていくかといった応用問題に対応できる基礎を身につける

3.学生が自分の問題意識に沿って必要な知識と技術を見つけ出し解決していく能力を身につける

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

②-1情報収集・情報選択、集約　②-4企画・情報発信　③-1社会問題への関心・意識

内容

パソコンを使いながらレポート作成におけるワープロソフト・表計算ソフト、発表におけるプレゼンテーションソフトの使い方を実践の中で学ぶ。

・論文・レポート作成に関する基本的パソコン技術
・参考文献・ホームページの検索・収集のための技術
・レポートの書き方に関する基本的知識プラスアルファ
・レポートに取り込むための図表作成（エクセルによる）、ホームページからの引用
・レジュメ作成－構成の作り方【PBL】【レポート(表現)】
・パワーポイントによる発表・プレゼンテーション技術　【プレゼンテーション】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】事前に予告された項目についての基礎知識・PC技術を調べる。与えられた課題を作成する。(各授業に対して45分)
【事後学修】授業での指導に基づいてレポート・発表内容の再検討と修正を行う。(各授業に対して45分)

評価方法および評価の基準

レポート等の課題（40%）、発表（40%）、平常点（20%）等を総合的に判断する。総合評価60点以上を合格とする。
【フィードバック】授業毎に作成するノートに書かれた疑問・意見などに授業で回答する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】中澤務・森貴史・本村康哲編,『知のナヴィゲーター』, くろしお出版

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	クリエイティブライティングⅡ		
担当教員名	川口　英俊		
ナンバリング	KJb207		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	1Bクラス
開　講　期	前期	必修・選択の別	必修＊,選必
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係	上級情報処理士		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①　科目の性格

本科目は情報を集め取捨選択し、レポートをまとめる力・発表する力・現代社会の諸問題に興味を持ち、問題意識を持つなどの力を育成するものである。

②　科目の概要

レポート作成の技術、ルールを学びながらレポートを作成していく。そのレポートをパワーポイントを用いて作成・発表していく。

③授業の方法（ALを含む）

レポートをレポート中間報告、レポートアウトライン、レポートと順を追って作成していく。そのレポートを元にパワーポイントを作成し、グループで全体で発表する。

【PBL】【レポート(表現)】【プレゼンテーション】

④到達目標

1.学生が授業でのレポートなどの課題、3年次のゼミ等における発表、4年次の卒業研究に対応していくための基本的技術を習得する

2.学生が与えられた情報をどう解釈し、どう加工していくか、どうまとめていくかといった応用問題に対応できる基礎を身につける

3.学生が自分の問題意識に沿って必要な知識と技術を見つけ出し解決していく能力を身につける

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

②-1情報収集・情報選択、集約　②-4企画・情報発信　③-1社会問題への関心・意識

内容

パソコンを使いながらレポート作成におけるワープロソフト・表計算ソフト、発表におけるプレゼンテーションソフトの使い方を実践の中で学ぶ。

・論文・レポート作成に関する基本的パソコン技術
・参考文献・ホームページの検索・収集のための技術
・レポートの書き方に関する基本的知識プラスアルファ
・レポートに取り込むための図表作成（エクセルによる）、ホームページからの引用
・レジュメ作成－構成の作り方【PBL】【レポート(表現)】
・パワーポイントによる発表・プレゼンテーション技術　【プレゼンテーション】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】事前に予告された項目についての基礎知識・PC技術を調べる。与えられた課題を作成する。(各授業に対して45分)
【事後学修】授業での指導に基づいてレポート・発表内容の再検討と修正を行う。(各授業に対して45分)

評価方法および評価の基準

レポート等の課題（40%）、発表（40%）、平常点（20%）等を総合的に判断する。総合評価60点以上を合格とする。
【フィードバック】授業毎に作成するノートに書かれた疑問・意見などに授業で回答する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】中澤務・森貴史・本村康哲編,『知のナヴィゲーター』, くろしお出版

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	メディア分析Ⅰ		
担当教員名	高倉　佐和		
ナンバリング	KJb208		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	1Aクラス
開　講　期	前期	必修・選択の別	必修＊
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

メディアコミュニケーション学科の基礎専門科目である。

統計学の基本的な知識と、卒業研究などで活用できる実際的な分析手法について扱う。Excelを用いてデータ解析を進めるため、Excelの基本操作を習得していることが望ましい。

②科目の概要

Web上の数値データやテキストを中心に、特徴や傾向を分析する。限られたデータからその背景にある全体について予測・判定するためのデータ解析手法を学ぶ。

③授業の方法

新しい知識や技術について解説の後、例題・練習問題を通して理解の深化・定着を図る。理解度を確認するための演習を実習する。【グループワーク】【AL】【ミニテスト】【プレゼンテーション】

④到達目標

1.情報処理に関する基本的な知識を習得する。

2.科学的分析の意味を理解し、Excelを用いた解析法を習得する。また、その結果を正しく解釈できる。

3.メディアの分析を通じて、人間の認知に対して効果の高い資料を作成できる。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

①-1メディアの役割、利用方法　②-1情報収集・情報選択、集約　③-1社会問題への関心・意識

内容

この授業は講義を基本に、演習、グループワーク、ディスカッションを取り入れながら、学びを深めていく。

1	ガイダンス、メディア分析手法外観
2	Excelの基本操作の確認、データ解析の基礎（平均と分散）
3	データ解析の基礎（度数分布、ヒストグラム）
4	小テスト(1)データ解析の基礎【ミニテスト】
5	数値データ解析（推定）

6	数値データ解析（検定）
7	小テスト(2)推定と検定【ミニテスト】
8	数値データ解析（相関）
9	数値データ解析（回帰分析）
10	小テスト(3)数値データ解析【ミニテスト】
11	テキストデータ分析(1)　形態素解析・固有表現抽出
12	テキストデータ分析(2)　印象・文章表現の特徴を数値化する手法
13	テキストデータ分析(3)　テキストマイニングの実践【グループワーク】
14	テキストマイニングの成果発表【プレゼンテーション】
15	小テスト(4)テキストデータ分析【ミニテスト】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】各授業で扱う分析手法に関して、Web独習教材「統計学がわかる」の例題を1題以上、Excelで実践し、内容と疑問点を整理しておく（各授業に対して60分)。

【事後学修】毎回、簡単な復習課題を提示するので、完成させる（各授業に対して60分）。

評価方法および評価の基準

授業・ワークへの取り組み姿勢と平常点(20%)、4回のミニテスト(80%)で評価する。総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1.授業・ワークへの取り組み姿勢(5%/20%)、ミニテスト(20%/80%)

到達目標2.授業・ワークへの取り組み姿勢(5%/20%)、ミニテスト(40%/80%)

到達目標3.授業・ワークへの取り組み姿勢(10%/20%)、ミニテスト(20%/80%)

【フィードバック】ミニテストは翌週以降に返却と解説、質疑応答を行い、理解を確かなものにする。それ以外の演習は次回授業時に解答の提示をするため、それまでに終わらせ、疑問があれば明確にしておくこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】なし。講義で使用する資料は電子データにて提供する。

【推薦書】

・向後千春・富永敦子著、「統計学がわかる」、技術評論社

・林俊克著、「Excelで学ぶテキストマイニング入門」、オーム社

・牛澤賢二著、「やってみようテキストマイニング」、朝倉書店

【参考図書】

・涌井貞美・涌井良幸著、「統計解析がわかる」、技術評論社

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

毎回の授業資料やミニテストの提出管理はLive Campusを使用します。

総合評価が60点に満たない場合には、ミニテストの再試験とします。試験の方法等についてはLive Campusにて周知いたします。

科　目　名	**メディア分析Ⅰ**		
担当教員名	高倉　佐和		
ナンバリング	KJb208		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	1Bクラス
開　講　期	前期	必修・選択の別	必修＊
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

メディアコミュニケーション学科の基礎専門科目である。

統計学の基本的な知識と、卒業研究などで活用できる実際的な分析手法について扱う。Excelを用いてデータ解析を進めるため、Excelの基本操作を習得していることが望ましい。

②科目の概要

Web上の数値データやテキストを中心に、特徴や傾向を分析する。限られたデータからその背景にある全体について予測・判定するためのデータ解析手法を学ぶ。

③授業の方法

新しい知識や技術について解説の後、例題・練習問題を通して理解の深化・定着を図る。理解度を確認するための演習を実習する。【グループワーク】【AL】【ミニテスト】【プレゼンテーション】

④到達目標

1.情報処理に関する基本的な知識を習得する。

2.科学的分析の意味を理解し、Excelを用いた解析法を習得する。また、その結果を正しく解釈できる。

3.メディアの分析を通じて、人間の認知に対して効果の高い資料を作成できる。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

①-1メディアの役割、利用方法　②-1情報収集・情報選択、集約　③-1社会問題への関心・意識

内容

この授業は講義を基本に、演習、グループワーク、ディスカッションを取り入れながら、学びを深めていく。

1	ガイダンス、メディア分析手法外観
2	Excelの基本操作の確認、データ解析の基礎（平均と分散）
3	データ解析の基礎（度数分布、ヒストグラム）
4	小テスト(1)データ解析の基礎【ミニテスト】
5	数値データ解析（推定）
6	数値データ解析（検定）

7	小テスト(2)推定と検定【ミニテスト】
8	数値データ解析（相関）
9	数値データ解析（回帰分析）
10	小テスト(3)数値データ解析【ミニテスト】
11	テキストデータ分析(1)　形態素解析・固有表現抽出
12	テキストデータ分析(2)　印象・文章表現の特徴を数値化する手法
13	テキストデータ分析(3)　テキストマイニングの実践【グループワーク】
14	テキストマイニングの成果発表【プレゼンテーション】
15	小テスト(4)テキストデータ分析【ミニテスト】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】各授業で扱う分析手法に関して、Web独習教材「統計学がわかる」の例題を1題以上、Excelで実践し、内容と疑問点を整理しておく（各授業に対して60分)。

【事後学修】毎回、簡単な復習課題を提示するので、完成させる（各授業に対して60分）。

評価方法および評価の基準

授業・ワークへの取り組み姿勢と平常点(20%)、4回のミニテスト(80%)で評価する。総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1.授業・ワークへの取り組み姿勢(5%/20%)、ミニテスト(20%/80%)

到達目標2.授業・ワークへの取り組み姿勢(5%/20%)、ミニテスト(40%/80%)

到達目標3.授業・ワークへの取り組み姿勢(10%/20%)、ミニテスト(20%/80%)

【フィードバック】ミニテストは翌週以降に返却と解説、質疑応答を行い、理解を確かなものにする。それ以外の演習は次回授業時に解答の提示をするため、それまでに終わらせ、疑問があれば明確にしておくこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】なし。講義で使用する資料は電子データにて提供する。

【推薦書】

・向後千春・富永敦子著、「統計学がわかる」、技術評論社

・林俊克著、「Excelで学ぶテキストマイニング入門」、オーム社

・牛澤賢二著、「やってみようテキストマイニング」、朝倉書店

【参考図書】

・涌井貞美・涌井良幸著、「統計解析がわかる」、技術評論社

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

毎回の授業資料やミニテストの提出管理はLive Campusを使用します。

総合評価が60点に満たない場合には、ミニテストの再試験とします。試験の方法等についてはLive Campusにて周知いたします。

科　目　名	ディベート		
担当教員名	川口　英俊		
ナンバリング	KJb209		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	2Aクラス
開　講　期	後期	必修・選択の別	必修＊,選必
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係	上級情報処理士		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

2年生後期の専門必修科目である。情報を集め取捨選択し、まとめる力を身につける。現代社会の諸問題に興味を持ち、問題意識を持つなどの力を育成する。

②科目の概要

ディベート、グループディスカッションの基礎知識・技法を身につける。問題点の把握、解決法の模索、証拠・論理を用いた立論、議論・討論について学ぶ。

③授業の方法（ALを含む）

レジュメを元にディベート、グループディスカッションの基礎知識を身につける。グループに別れてのディベート、グループディスカッションを行いその技法を身につける。

④到達目標

1.学生が論点を整理し、相手の主張を理解した上で自分の立場からの主張を行うというコミュニケーション能力を習得する
2.学生がコミュニケーションの基礎知識を持つ
3.学生が自分の主張を説得的に展開する能力を持つ

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする
①-4表現技術　②-1情報収集・情報選択、集約　②-4企画・情報発信

内容

ディベート・グループディスカッションの基礎知識を修得する。ディベートの実践を通じて是側否側それぞれの立場から立論しディベートを行う技法を身に付けていく。グループディスカッションによってグループでの共働・問題解決へのプロセスを学ぶ。

1　ガイダンス　ディベートとは　ディベートテーマ
2　ディベートにおける立論・反論とは

3　ディベートの準備　調査、証拠集め、議論
4　ディベートの記録、フローシート
5　ディベートの流れ　立論、質疑、反駁、結論
6　ディベートおける勝敗の基準、審判のジャッジについて
7　ディベート1-1　テーマ1st準備
8　ディベート1-2
9　ディベート1-3
10　ディベート2-1　テーマ2nd準備
11　ディベート2-2
12　ディベート2-3
13　グループディスカッション1　テーマ1st
14　グループディスカッション2　テーマ2nd
15　まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】前回授業に予告されたディベートテーマの基礎知識修得と立論準備を行う。(各授業に対して45分)
【事後学修】授業で行ったディベートの反省と改善点を検討しより効果的なディベート技術を検討する。(各授業に対して45分)

評価方法および評価の基準

授業内での提出物（30%）、ディベート（40%）、グループディスカッション（30%）として評価を行う。総合評価60点以上を合格とする。
【フィードバック】授業毎に作成するノートに書かれた疑問・意見などに授業で回答する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】レジュメを用意する。
【推薦書】中澤務・森貴史・本村康哲編,『知のナヴィゲーター』，くろしお出版

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	ディベート		
担当教員名	川口　英俊		
ナンバリング	KJb209		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	2Bクラス
開　講　期	後期	必修・選択の別	必修＊,選必
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係	上級情報処理士		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

2年生後期の専門必修科目である。情報を集め取捨選択し、まとめる力を身につける。現代社会の諸問題に興味を持ち、問題意識を持つなどの力を育成するものである。

②科目の概要

ディベート、グループディスカッションの基礎知識・技法を身につける。問題点の把握、解決法の模索、証拠・論理を用いた立論、議論・討論について学ぶ。

③授業の方法（ALを含む）

レジュメを元にディベート、グループディスカッションの基礎知識を身につける。グループに別れてのディベート、グループディスカッションを行いその技法を身につける。

④到達目標

1.学生が論点を整理し、相手の主張を理解した上で自分の立場からの主張を行うというコミュニケーション能力を習得する
2.学生がコミュニケーションの基礎知識を持つ
3.学生が自分の主張を説得的に展開する能力を持つ

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする
①-4表現技術　②-1情報収集・情報選択、集約　②-4企画・情報発信

内容

ディベート・グループディスカッションの基礎知識を修得する。ディベートの実践を通じて是側否側それぞれの立場から立論しディベートを行う技法を身に付けていく。グループディスカッションによってグループでの共働・問題解決へのプロセスを学ぶ。

1　ガイダンス　ディベートとは　ディベートテーマ
2　ディベートにおける立論・反論とは

3　ディベートの準備　調査、証拠集め、議論
4　ディベートの記録、フローシート
5　ディベートの流れ　立論、質疑、反駁、結論
6　ディベートおける勝敗の基準、審判のジャッジについて
7　ディベート1-1　テーマ1st準備
8　ディベート1-2
9　ディベート1-3
10　ディベート2-1　テーマ2nd準備
11　ディベート2-2
12　ディベート2-3
13　グループディスカッション1　テーマ1st
14　グループディスカッション2　テーマ2nd
15　まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】前回授業に予告されたディベートテーマの基礎知識修得と立論準備を行う。(各授業に対して45分)
【事後学修】授業で行ったディベートの反省と改善点を検討しより効果的なディベート技術を検討する。(各授業に対して45分)

評価方法および評価の基準

授業内での提出物（30%）、ディベート（40%）、グループディスカッション（30%）として評価を行う。総合評価60点以上を合格とする。
【フィードバック】授業毎に作成するノートに書かれた疑問・意見などに授業で回答する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】レジュメを用意する。
【推薦書】中澤務・森貴史・本村康哲編,『知のナヴィゲーター』，くろしお出版

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	**放送メディア論**		
担当教員名	好本　恵		
ナンバリング	KJc110		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

アナウンサーとして放送番組の制作に携わってきた経験をいかし、放送制作の実態を伝えるとともに、メディアと個人がどのように関わればよいのか、メディアと社会生活の中でどのように言葉を使い、コミュニケーションをとっていくべきかなどについて考察していく。

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

人間生活学部　メディアコミュニケーション学科　専門選択科目　メディア社会　の一科目である。

②科目の概要

私たちはマスメディアによって世の中の情報を入手している。一方インターネットを活用することで、個人が情報発信者として世の中の動きに参加できる時代になっている。暮らしの中の日本語、とくに情報メディアで使われていることばに着目する。放送の仕事の内容や歴史、メディアを取り巻く環境の変化を学び、一人ひとりがどのようにメディアとか関われば良いのかを考えていく。

③授業の方法（ALを含む）

講義を行うだけでなく、グループ学習で学生同士が議論し学び合う。毎回のリアクションペーパーで振り返りを行う。

④到達目標

自分の判断で放送やインターネットを上手に利用し情報社会と関わっていく姿勢が身につく。
メディアで使われていることばや内容を正しく評価し、自分の生活の中に取り入れる判断が出来る。
暮しの中の日本語に関心を持ち、場面や状況に応じて正しく運用できる。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

本科目は、メディアコミュニケーション学科の以下の資質・能力を育成することになる

①－1　メディアの役割、利用方法
①－２　文化・芸術とメディアの関わりの理解
②－２　現代文化の評価・判断
③－１　社会問題への関心・意識
③－２　文化に対する関心・理解

内容	
1	ガイダンス　情報メディアとことば
2	メディア・リテラシーについて
3	放送の歴史と放送博物館
4	放送は何を伝えてきたか～ドキュメンタリーを分析する
5	放送は何を伝えてきたか～テレビドラマを分析する
6	放送は何を伝えてきたか～生活情報番組を分析する
7	ディレクターの仕事とことば　（ゲスト講師）
8	アナウンサーの仕事と日本語
9	放送関連の文化イベントについて
10	アーカイブス事業と戦争証言
11	インターネットのことば～情報発信者として
12	プレゼンテーションについて
13	プレゼンテーション
14	生活の中のことばとコミュニケーション
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】資料を読む。指定された番組を視聴して疑問点などをまとめる。所要時間は45分以上。

【事後学修】授業を振り返る。日ごろからメディアの日本語に興味を持って調べる。課題に取り組むなどで、約1時間。

評価方法および評価の基準

メディアと賢く関わる姿勢が身についているか、また番組などメディアに対して評価する能力が身についているか、社会人としてさまざまな状況の中で日本語を正しく運用できるか、日頃の授業への取り組み(30%）レポート(30%）期末レポート（40%）などから、総合的に判断する。総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使わない。

【参考図書】授業で紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

放送の番組もさまざまなプレゼンテーションも、人に何かを伝えるという意味で共通性がある。自分でじっくり考えて情報を取捨選択し、発信する姿勢を身につけることが大切である。そのために、授業中も受け身ではなく積極的に議論に参加する姿勢が望まれる。

課外授業や外部の講師を招く可能性もあるので、特に熱心な学生の参加を希望する。

科　目　名	**広告論**		
担当教員名			
ナンバリング	KJc211		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年		ク　ラ　ス	
開　講　期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単　位　数	
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①　科目の性格

メデイアコミュニケーション学科学位授与方針に該当するメデイア文化・社会に関わる専門知識に
基づいて、その技能を社会のコミュニケーションに実践的に活用する力を習得する
現代社会において広告は、経済活動の一環として今や切っても切れない存在である。現代経済の消費行動において広告の役割、マーケテイングの中の広告の位置づけを学生の身近の問題・そして課題として捉えてもらうことを狙いとします。

② 科目の概要

広告の定義、歴史、マーケテイング、広告媒体ビジネスなどを各個別にレクチャーし広告の全体像をつかんでもらう。

③授業の方法（ALを含む）

④到達目標

学生にとって身近な広告は実はこういうな目的であり、ねらいであったか、広告媒体というのは、どのようなもので、その媒体の価値は、その媒体での広告ビジネスはどういうものかを具体的に教室で提示し社会のなかでの身近にある広告の位置づけ、役割を認識してもらう。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

内容

過去と現在のテレビコマーシャルを実際に全体の講義のなかでＤＶＤで流しながら講義を行います。

1	講義の概要と広告トピックス
2	広告の定義と歴史
3	広告の機能と種類
4	マーケテイングと広告
5	広告主の組織と役割
6	広告主の組織と役割
7	最近の広告主の動向
8	広告会社とは・・・。
9	新聞広告ビジネス
10	雑誌広告ビジネス
11	テレビ広告ビジネス
12	ニューメデイア広告ビジネス
13	ＳＰ広告ビジネス
14	広告倫理
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】提示する課題の予習を行う。(各授業に対して２０分）

【事後学修】学んだテーマを掘り下げて各自で内容を理解し、深められるようノートする。

（各授業６０分）

評価方法および評価の基準

授業への取り組み70%、課題30%とし、総合評価60点以上を合格とします。

【フイードバック】各授業の際、終了時儒授業内容についての質問を次週の授業で質問のあった学生に

文書で各自に答えます。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業中に指示

【推薦書】授業中に指示

【参考図書】授業中に指示

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	異文化コミュニケーション		
担当教員名	田総　恵子		
ナンバリング	KJc112		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	選択,選必
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係	上級情報処理士		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

学科専門科目「メディア社会」領域の1年次選択科目として、異文化コミュニケーションの特徴を学ぶ。

②科目の概要

異なる文化的背景を持つ人と出会ったとき、私たちはうまくコミュニケーションができないと感じることがある。それは、手段（言語、非言語）が充分でないからなのか、それとも、考え方（文化）が違うからなのだろうか。授業では、コミュニケーションの方法と文化のつながりについて考え、異文化間のコミュニケーションの特徴を探る。さらに、「ネット社会」の急速な発展など最近の社会の変化が、異文化コミュニケーションのあり方に及ぼしている影響についても考えてみたい。

③授業の方法（ALを含む）

講義を基本とし、ディスカッションを取り入れながら、学びを深めていく【討議・討論】【リアクションペーパー】【レポート（表現）】

④到達目標

文化の違いとは何かを理解する。

自文化について考え直す態度を身につける。

⑤ディプロマ・ポリシー

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

①－２　文化・芸術とメディアの関わりの理解　③－２　文化に対する関心・理解　③－３　コミュニケーションへの関与、意欲

内容

1	異文化コミュニケーション研究の歴史（１）：外なる異文化
2	異文化コミュニケーション研究の歴史（２）：内なる異文化
3	コミュニケーション：何を伝えるか
4	コミュニケーション：どうやって伝えるか
5	異文化：文化とは何か

6	非言語コミュニケーション（１）；動作
7	非言語コミュニケーション（２）：外見
8	言語によるコミュニケーション（１）：言語
9	言語によるコミュニケーション（２）：思考
10	コミュニケーション・スタイル
11	異文化理解
12	メディアと異文化
13	国際社会における異文化コミュニケーション
14	多文化世界：異文化の融合と共生
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】身の回りで異文化と感じたことを記録しておく（各授業に対して45分）

【事後学修】授業での説明を参考に、それが異文化と感じた理由を記録する（各授業に対して45分）

評価方法および評価の基準

レポート（50%)と筆記試験（50%）で評価し、60点以上を合格とする。

【フィードバック】レポートの総評は授業で発表、希望者には個々のコメントをつけて返却

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】石井敏 他『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション』有斐閣　2013年

【推薦書】石井敏 他 『異文化コミュニケーション・ハンドブック』有斐閣選書 1997 年 361.54/I

【参考図書】古田暁 他 『異文化コミュニケーション・キーワード 新版』有斐閣双書 2001 年

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

再試験は行わない

科　目　名	新聞ジャーナリズム論		
担当教員名	石野　榮一		
ナンバリング	KJc213		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

日刊地方新聞社での取材、編集業務の経験あり。新聞というメディアの特性と、ジャーナリズム全般の在り方を解説できる。

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

インターネット全盛にあってあふれる情報の中から真偽を見極めるメディアリテラシーを身につける科目である。情報が実社会でどのような役割を担っているか、主に新聞情報を活用しながら学ぶ。

②科目の概要

若い世代の活字離れが深刻である。特に新聞購読率の低下は著しい。しかし、日々のテレビ番組やインターネットニュースサイト記事の大元には新聞記者の仕事があることを知る人は少ない。新聞記者が担うジャーナリズムへの期待の表れでもある。メディアにおけるジャーナリズムとは何かを新聞報道、新聞記者に関する具体的な事例を通して学び、深めていく。多様なメディアが存在するが、現代社会における民主的、文化的な生活を送るために新聞が果たす役割をジャーナリズムという視点でとらえなおす。

③授業の方法（ALを含む）

講義による解説を中心とするが、テーマごとにレポート課題を設定し、理解と定着を図る。【レポート（知識・表現】

④到達目標

１．情報の真偽を見極めることができる。

２．メディアにおけるジャーナリズムの理解を深め、メディアリテラシーを身につけることができる。

３．新聞の役割を理解し、マスメディア全般を評価することができる。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

②－３メディア選択・活用　②－１情報収集・情報選択、集約　③－２文化に対する関心・意識

内容

1	ガイダンス　新聞とは何か
2	歴史の中の新聞　世界と日本
3	表現の自由における新聞の役割
4	新聞とジャーナリズム
5	ジャーナリズムの社会的意義
6	ジャーナリズムの倫理と責任
7	取材活動の実際

8	国民の知る権利と権力監視　新聞と政府の関係
9	取材・報道と法
10	報道分野とジャーナリズムの課題　政治報道
11	同上　経済報道
12	同上　事件報道
13	同上　裁判報道・人権報道
14	ジャーナリズムとメディアリテラシー
15	まとめ、最終レポート

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】次回授業のテーマについて予習を行う。日常的に新聞を読む（各授業に関して60分ほど）

【事後学修】学んだテーマを新聞などを使って理解を深める（各授業に関して60分ほど）

評価方法および評価の基準

各授業回で指示する課題（主にレポート作成）の理解度70点、最終課題（レポート作成）の理解度30点とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出された各授業回のレポートは翌週以降の授業でコメントを付して返却する。最終課題は授業内でポイントを解説する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】指定しない。

【参考図書】　授業で提示する。

家庭あるいは図書館等で新聞を読む習慣を身につけてほしい。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	**広報論**		
担当教員名	石野　榮一		
ナンバリング	KJc214		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

新聞社での企業・行政取材および編集業務の経験がある。企業、行政の広報部門の活動とマスメディアとの具体的な関係を実務経験を生かして解説できる。

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

広報を理解することを通じて情報発信・受信時のメディアリテラシーを学修する科目である。主に企業広報を通して社会と情報の関係を理解し、就業した際の広報マインドも養う。

②科目の概要

企業や各種団体が持続可能な活動をしていくには、広く社会に知られ、理解され、支持されることが必要となる。その手段として広報があり、官民問わず広報の重要性は高まっている。広報の役割を学び、企業や官公庁でどのように広報活動が行われているかを学修する。企業・組織のコンプライアンス、危機管理も含め、広報全般について認識を深める。民間、行政の広報部門実務者を招き、広報の役割について理解を深める機会を設ける。

③授業の方法（ALを含む）

講義による解説を中心とするが、テーマごとにレポート課題を設定し、理解と定着を図る。【レポート（知識・表現）】

④到達目標

１．広報の果たす役割をメディアの視点から説明することができる。

２．広報部門における効果的な情報発信の手法を学ぶことができる。

３．企業が果たす社会的責任（ＣＳＲ）、企業の危機管理を解説することができる。

４．企業の広報部門に配属されるケースも視野に入れ、実践力を身につけることができる。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

②－２現代文化の評価・判断　①－１メディアの役割、利用方法　①－３メディアの特性の理解

内容

地方自治体、民間企業の広報部門担当者を講師に招くが、日程調整により実施回が入れ替わる可能性がある。

1	ガイダンス（行政・企業等の「広報」を志す人のために）
2	広報の成り立ちと定義、役割
3	広報と広告
4	広報と広告との違いを多方面から分析
5	ジャーナリズムと広報の関係
6	広報と記者クラブ

7	ニュースリリースを理解する
8	新聞・テレビ・WEBなどのメディアと広報の関係
9	企業の社会的責任（ＣＳＲ）、広報が担う危機管理、中間課題
10	広報の現場を学ぶ①（官公庁編）
11	広報の現場を学ぶ②（企業編）
12	インターネット社会における効果的な広報活動
13	オウンドメディアを学ぶ
14	ＰＲ会社について学ぶ
15	まとめ、最終課題

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】提示する課題の予習を行う。(各授業に関して60分ほど）

【事後学修】学んだテーマを新聞など資料を参考にしながら掘り下げること。（各授業に関して60分ほど）

評価方法および評価の基準

各授業回で指示する課題（主にレポート作成）の理解度（70%）中間、最終の各課題の理解度15%ずつで評価し、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出された各授業回のレポート、中間課題は翌週以降の授業時間内にコメントを付して返却する。最終課題は時間内にポイントを解説する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない。毎回、レジュメを配布する。

【参考図書】日本ＰＲ協会編の「広報・ＰＲ概説」（ＰＲプランナー資格認定制度/検定試験対応テキスト）を購入することが望ましい。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	インターネット社会論		
担当教員名	川口　英俊		
ナンバリング	KJc215		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	選必,選択
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係	上級情報処理士／ウェブデザイン実務士		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

本科目はマスメディア、ネットメディアなどの役割や影響、社会での利用方法について学ぶ。情報を集め取捨選択し、まとめる力を身につける。現代社会の諸問題に興味を持ち、問題意識を持つなどの力を育成するものである。

②科目の概要

インターネットによる社会の変化とその問題点を理解する。インターネットの登場は、既存の通信のあり方、産業、社会と国家のあり方に大きな変化をもたらした。またインターネットが大きな位置を社会において占めると共に様々な問題も発生してきている。こうした社会の変化やインターネットの問題点について考察する。

③授業の方法（ALを含む）

・レジュメを配布しその内容を説明すると共に映像視聴によりその内容理解を深める。
・学生が授業内容や特定のテーマについて議論し理解を深めるディスカッションを行う。
・学生が授業から得た知識や考え方、感想、疑問点などを記入し理解を深めるためリアクションペーパーを一定のまとまりごとに提出する。
【グループワーク】【リアクションペーパー】

④到達目標

1.学生がインターネットが社会にどのような変化や影響を与えているか理解する
2.学生がインターネット社会でどのような問題が起こるかを理解する
3.学生がインターネットの活用に資する思考力を身につける

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする
①-1メディアの役割、利用方法　②-3メディア選択・活用　③-1社会問題への関心・意識

内容

この授業は講義を基本として時事問題を映像で見たり、現代社会の問題を取り上げながらインターネット社会の理解を深めていく。

1.オリエンテーション　インターネット社会とは
2.インターネット社会の可能性　インターネット社会の未来、電子図書館、IoT、AI社会
3.インターネット社会の危険性　インターネット依存症、知識の断片化・希薄化、情報漏えい【ディスカッション】【リアクションペーパー】
4.インターネットの影響1　ネットとメディア　テレビ・映画はなくなるのか
5.インターネットの影響2　ネットとメディア　新聞はなくなるのか
6.インターネットの影響3　ネットと本、本屋・本はなくなるのか
7.インターネットの影響4　ネットと音楽、CDは売れなくなるのか【ディスカッション】【リアクションペーパー】
8.インターネット社会1　電子取引社会、eコマース・ネットショッピング、経済のグローバル化
9.インターネット社会2　情報無料社会-産業再編、貧者への福音か格差の拡大か
10.インターネット社会のあり方1　監視社会、監視国家【ディスカッション】【リアクションペーパー】
11.インターネット社会のあり方2　セキュリティ、パスワード、個人情報
12.インターネット社会のあり方3　ネットをめぐる法制度、ネットの規制・検閲
13.インターネットとグローバリズム・ローカリズム　デジタル世界では国境はなくなるか・地域は結びつくか、仮想通貨、行政手続の電子化
14.海外旅行におけるインターネット利用から見えてくるインターネット社会
15.まとめ【ディスカッション】【リアクションペーパー】

ネットと世論形成、ネットにおける炎上等については2年以上履修科目「ネットと世論」において取り上げる予定（時事問題として取り上げる場合もある）

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】事前に予告された項目に関する基礎知識を習得する。(各授業に対して45分)
【事後学修】授業で学習したテーマについて調べ、自分の視点から意見をまとめる。(各授業に対して45分)

評価方法および評価の基準

授業での課題（40%）とレポート（40%）、授業への参加度（リアクションペーパー10%）を総合し、総合評価60点以上を合格とする。
【フィードバック】数回行うリアクションペーパー等の次の回に疑問・意見などに回答する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業においてレジュメ、資料等を用意する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	国際マスコミュニケーション論		
担当教員名			
ナンバリング	KJc216		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年		ク　ラ　ス	
開　講　期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単　位　数	
資 格 関 係	上級情報処理士		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格：メディアコミュニケーション学科の学位授与方針１に該当する、学科専門選択科目。

②概要：「国際マスコミュニケーション」とは、マス・メディアを中心にした国を越えた社会の間のコミュニケーションをいいます。例えば、高校のときに韓国に旅行にいかれた方は、向こうでNHKを見ることが出来るのに驚いたのではないでしょうか。また、今や日本のマンガやアニメは世界中で人気があるのはよくご存じだと思います。グローバル化の進展に伴い、こうした国際マスコミュニケーションは質・量共に増大しつづけており、それが国家および社会にとってどのような影響を与えているのかを考えるのが本講義の目的です。「国境を越えるマス・コミュニケーションのインパクト」が講義のサブタイトルです。

　取り扱うテーマは、前半は、「国際マスコミュニケーション」を議論していく上で必要な、基本的な事象や概念について、具体的な事例を交えながら解説していきます。取り扱う主な事象・概念は、文化帝国主義、情報主権、国境を越えるテレビ、集団的帰属意識などです。後半は、ヨーロッパ・北米などにおける具体的な「国際マスコミュニケーション」の状況を紹介しながら、前半で解説した概念の理解を深めていきます。講義の締めくくりでは、現在の日本を含めたアジアを取り巻く「国際マスコミュニケーション」の状況を考えてみたいと思っています。

③授業の方法（ALを含む）

④到達目標

現代における国際マスコミュニケーションの意義と問題点を理解する。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

内容

この授業は、映像、インターネットなどを使った講義形式で行い、リアクションペーパーによる教員と受講学生とのインタラクティブなコミュニケーションを随時実施していく。

1	イントロダクション
2	現代の国際マスコミュニケーションの特徴
3	現代の国際マスコミュニケーションの特徴
4	マスコミュニケーションと国民的帰属意識
5	マスコミュニケーションと国民的帰属意識
6	国境を越えるマスコミュニケーション(TV)は何を伝えるのか

7	中間まとめ
8	「国境を越えるマスコミュニケーション」とステレオタイプ
9	「国境を越えるマスコミュニケーション」とステレオタイプ
10	世界情報秩序をめぐる議論と情報主権・文化帝国主義
11	北アメリカにおける国際マスコミュニケーション
12	ヨーロッパにおける国際マスコミュニケーション
13	日韓間の国際マスコミュニケーション
14	アジアにおける国際マスコミュニケーション
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】国際ニュースや国際的なメディアの動きに関心を持つため、新聞やテレビニュースなどマスメディアによるニュースに接する（各授業に対し約60分）

【事後学修】授業で習ったことを、現代におけるニュースなどで確認し、レポートに備えて調べておくこと（各授業に対し約60分）

評価方法および評価の基準

中間テスト（41%）および期末レポート（59%）

総合評価60点以上を合格とする。

フィードバック：毎授業の初めに、前回提出されたリアクションペーパーに対するコメントを行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】渡辺武達、山口功二、野原仁編『メディア用語基本事典』（世界思想社）

田中浩編著『現代思想とはなにか－近・現代350年を検証する』 龍星出版、1996年）

田村、林、大井編『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために』.世界思想社、2004年）

田中浩編著『EUを考える』未来社、2011年

玄武岩編『越境するメディアと東アジア―リージョナル放送の構築に向けて』勉誠出版、2015年

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	市民メディア論		
担当教員名	田総　恵子		
ナンバリング	KJc317		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

　学科専門科目「メディア社会」群の科目として、情報伝達のプロではない「市民」が運営するメディアの歴史、種類、目的、影響について学ぶ。

②科目の概要

　「市民」とは何か。市民の間でプロの手を介さず、自分たちで情報を共有、拡散しようとするのはどうしてか。市民社会についての歴史的、理論的研究を振り返り、それを踏まえて、現在の市民メディアの具体例を検証する。

③授業の方法（ALを含む）　講義を基本とし、ディスカッション、プレゼンを取り入れながら、学びを深めていく【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】

④到達目標

社会における情報配信の方法の変化について理解する。

情報発信に直接かかわるようになった市民のメディア活動を理解する。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

　この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

①－１　メディアの役割、利用方法　②－１　情報収集・情報選択、集約　③－１　社会問題への関心・意識

内容

1	授業概要
2	市民メディアの定義
3	市民社会の誕生：近代
4	市民社会の発展：現代
5	日本の市民社会の特徴
6	市民団体１：行政の下部組織
7	市民団体２：自主的運動
8	コミュニティ１：地域密着型

9	コミュニティ２：地域を超えて
10	コミュニティメディアの役割
11	コミュニティメディアの事例
12	グローバル・シティズン：「地球市民」とは何か
13	グローバル・コミュニティ：課題
14	オルタナティブメディアとしての市民メディア
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】主流メディアが伝える社会の出来事に注意する。

【事後学修】市民メディアの視点で社会の出来事について考える。

評価方法および評価の基準

中間レポート（40%）と期末レポート（60%）で評価し、60点以上を合格とする。

【フィードバック】中間レポートについては授業で総評を行う。期末レポートは希望者にコメントをつけて返却。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】 林香里『オンナ・コドモのジャーナリズム』岩波書店

【参考図書】 松浦さと子　他　『コミュニティメディアの未来』晃洋書房

伊藤昌亮『デモのメディア論』晃洋書房

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

再試験は行わない

科　目　名	グローバルジャーナリズム		
担当教員名	田総　恵子		
ナンバリング	KJc318		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	選択,選必
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係	上級情報処理士		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

　学科専門科目「メディア社会」領域の2年以上選択科目として、国際社会での情報の流れについて学ぶ。

②科目の概要

　「グローバリゼーション」とは一体何を意味するのだろうか。私たちが暮らしている、この「社会」とはどのような関係にあるのだろうか。「グローバリゼーション」は経済分野が先行している現象であるが、この講義では、その「社会」とのかかわりを考える場合にわかりやすい指標となるジャーナリズムのグローバル化について考えていく。

③授業の方法（ALを含む）

講義を基本とし、ディスカッションを取り入れながら、学びを深めていく【討議・討論】【レポート（表現）】

④到達目標

　これからの世界を考える上でのキーワードの一つである、「グローバリゼーション」の意味を正しく理解する。
来るべき「グローバル社会」の可能性と問題点を各自が考える力を身につける。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係　この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。
①－１　メディアの役割、利用方法　①－３　メディアの特性の理解　③－１　社会問題への関心・意識

内容

1	「グローバル」の意味
2	「グローバル・ジャーナリズム」とはなにか
3	グローバルなニュースの収集
4	グローバルなニュースの伝達
5	グローバルなニュースの選択・解釈1
6	グローバルなニュースの選択・解釈2
7	中間まとめ
8	「グローバル・ジャーナリズム」の実態

9	グローバル・ジャーナリズムの寡頭体制
10	放送のグローバル化がもたらしたもの
11	グローバル・ジャーナリズムへのネットの影響
12	「グローバル・ジャーナリズム」は、誰のためのものか
13	「グローバル・ジャーナリズム」の進展が示唆するもの
14	「グローバル・ジャーナリズム」の可能性
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】毎日の国際ニュースに関心を持つ。

【事後学修】ニュースの伝えられ方に注意して、国際ニュースを考える。

評価方法および評価の基準

筆記試験(40%)とレポート(60%)で評価し、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】レポートの総評は授業で発表、希望者には個々のコメントをつけて返却

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【参考図書】渡辺武達、山口功二、野原仁編『メディア用語基本事典』（世界思想社）

田中浩編著『現代思想とはなにかー近・現代350年を検証する』 龍星出版、1996年）

田村、林、大井編『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために』.世界思想社、2004年）

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

再試験は行わない

科　目　名	ネットと世論		
担当教員名	川口　英俊		
ナンバリング	KJc319		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

本科目はマスメディア、ネットメディアなどの役割や影響、社会での利用方法について学ぶ。情報を集め取捨選択し、まとめる力を身につける。現代社会の諸問題に興味を持ち、問題意識を持つなどの力を育成するものである。

②科目の概要

ネットと世論、それらが政治・行政に与える影響をアメリカ・日本等の課題・時事問題等に関連付けながら学ぶ。インターネットが世論、政治の決定にどのような影響を与えるかを政治的決定・行政のしくみ・時事問題などを通じて学ぶ。現在の課題（例えば、少子高齢化と福祉、財政赤字、憲法改正、安全保障など）がどのように決められていくか、どのように決めていくべきかを考える。また、ネットの世論に与える影響を広義にとらえてネットによる評価・口コミサイトの影響・炎上の問題なども取り上げる。

③授業の方法（ALを含む）

・レジュメを配布しその内容を説明すると共に映像視聴によりその内容理解を深める。
・学生が授業内容や特定のテーマについて議論し理解を深めるディスカッションを行う。
・学生が授業から得た知識や考え方、感想、疑問点などを記入し理解を深めるためリアクションペーパーを一定のまとまりごとに提出する。
【グループワーク】【リアクションペーパー】

④到達目標

1.学生が現在の日本の課題を題材としてインターネットと民主政治・政治行政の関連についての基礎知識を修得する
2.学生がネットの世論に与える影響を把握する力を修得する
3.学生がネットと世論の関係の問題点と解決策を論じる力を身につける

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。
①-1メディアの役割、利用方法　①-2文化・芸術とメディアの関わりの理解　③-1社会問題への関心・意識

内容

講義を基本として時事問題を映像で見たり、現代社会の問題を取り上げながら理解を深める。

1　ガイダンス 現在の日本を取り巻く諸問題と政治行政、ネットと世論
2　メディアと世論　世論とは、マスメディアと世論、インターネット
3　中央省庁　1府12省庁、中央省庁と地方自治体、政府の「情報操作」「嘘」とその影響
4　政策決定システム　選挙と政権交代、与党と野党、官僚制度、長期政権と1年で交代する政権の違い、法律・予算ができるまで現代、政治のしくみ-国会・内閣、議院内閣制・大統領制
5　財政赤字 財政赤字、福祉国家論と小さな政府、財政危機と社会保障、地方自治体と社会保障
6　アメリカ政治　トランプ大統領、安全保障、アメリカ・ファースト、保護主義、移民、日米関係
7　現代日本政治の諸問題　安部政権の目指すもの-憲法改正、安全保障、国際協力、アベノミクス
8　前半まとめ
9　SNSと世論　フェイスブック、ミクシィ、電子掲示板、トランプ大統領とツイッター
10　インターネットと選挙　マスメディアと選挙、「ネット選挙」解禁、ネットの影響力、ネット選挙と法規制、SNSなどによる世論操作の可能性、「ロシア疑惑」
11　ネットによる世論形成の問題点、誹謗中傷、炎上と「正義の鉄槌」、皆にうけるための極論、当事者による世論操作、国家・政府の影響力
12　ネット世論と個別課題-憲法改正、社会保障、安全保障、ネットと政策評価、ネトウヨ
13　ネット世論の限界と可能性-匿名性と責任、ネット世論がどこまで世論を反映するのか、政治行政のプレイヤーへの影響、情報発信による影響力-ウィキリークス・ウィキペディア、ネットメディア、個人の情報発信の機会提供、告発場所の提供
14　ネット世論と評価　ネットと経済・経営、ネットの評価、口コミ、その実態、問題、ネットと人事評価、ネットと個人情報、インターネット・リテラシー
15　後半まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】事前に予告された授業テーマについて調べ基礎知識を修得しておく。(各授業に対して45分)
【事後学修】授業で学習した授業テーマについて自分の視点からの意見・考え方をまとめる。(各授業に対して45分)

評価方法および評価の基準

小試験(40%)とレポート課題(40%)、平常点(20%)の総合評価とし、総合評価60点以上を合格とする。
【フィードバック】数回行うリアクションペーパー等の次の回に疑問・意見などに回答する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

レジュメ・資料などを配布する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	メディア分析Ⅱ		
担当教員名	加藤　亮介		
ナンバリング	KJc420		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

ウェブ・映像等のメディアデザイン領域の実務経験と本授業の内容が関連する。

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

メディアコミュニケーション学科の選択科目であり「メディア分析I」の理解を踏まえ、

本科目「メディア分析Ⅱ」ではコンテンツとして芸術表現を対象とした分析を学ぶ。

②科目の概要

芸術表現は、視覚、聴覚、様々な感覚器官を対象とした情報をもつ。

本授業では、特定の芸術作品を数点扱いながら、そこにある意図、表現手法についての読み解きをおこなっていく。

③授業の方法

映像理論の解説、映像作品の鑑賞、読み解き、討議・討論を行う。【討議・議論】

④到達目標

・学生が、映像表現の基礎理論を理解することができる。

・芸術作品の深い読み解きが行うことができる。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

①－2文化・芸術とメディアの関わりの理解,②-2現代文化の評価・判断,③-2文化に対する関心・理解

内容

1	映画研究1(作品意図とシナリオ)
2	映画研究2(演出表現と技術)
3	アニメーション研究1(作品意図とシナリオ)
4	アニメーション研究2(演出表現と技術)
5	文学研究1(作品意図とシナリオ)
6	文学研究2(作品意図とシナリオ)
7	神話研究1

8	神話研究2
9	音楽研究1
10	音楽研究2
11	ビジネス研究1(テレビCM・動画広告を中心に)
12	ビジネス研究2(ウェブサービスを中心に)
13	ディスカンション1
14	ディスカンション2
15	まとめ・総括

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】課題消化(60分)

【事後学修】日常触れているコンテンツへの応用を考る(60分)

評価方法および評価の基準

出席50%

到達目標に準じた課題・提出物等50%

計100点満点中、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用しない。必要に応じてプリントの配布を行う。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	**政治とメディア**		
担当教員名			
ナンバリング	KJc421		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年		ク　ラ　ス	
開　講　期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単　位　数	
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①　メディアコミュニケーション学科学位授与方針２，３に該当する。
2年生以上対象の選択科目として、政治についての情報の流れについて学ぶ。

②　人々が政治についての情報を入手する方法は色々ある。その中でも、職業として政治にかかわる人々（政治家、官僚）も、素人として政治に参加する人々（有権者）が最近特に注目しているのがマスメディアとインターネットメディアである。授業では、この2つを取り上げ、それぞれの特徴や問題点を議論する。また、情報のグローバル化が政治コミュニケーションに及ぼす影響についても考察する。

③授業の方法（ALを含む）

④到達目標
人々がメディアを通じてどのように政治情報を発信、受信しているか、発信している側の意図は何か、それを受信する側は何を感じるかなど、政治コミュニケーションの現状を理解する。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係
この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

内容

この授業は講義を基本とし、ディスカッション、ディベートを取り入れながら、学びを深めていく。

1	政治コミュニケーションとは何か
2	発信者と受信者の関係（１）：直接対話
3	発信者と受信者の関係（２）：間接対話
4	マスメディアの自由
5	マスメディアの制約
6	マスメディアと世論
7	インターネットメディアの発展
8	インターネットメディアの影響力
9	メディアの政治的影響
10	政治参加の方法としてのメディア（１）：選挙キャンペーン

11	政治参加の方法としてのメディア（２）：政治的動員
12	選挙報道
13	政治コミュニケーションの国際比較（１）：欧米諸国
14	政治コミュニケーションの国際比較（２）：アジア諸国
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】マスコミやネットで伝えられる政治ニュースをフォローし、記録する。（各授業に対して20分）

【事後学修】授業で説明された分析的視点からニュースを分析し、Ａ５１枚にまとめる。（各授業に対して30分）

評価方法および評価の基準

①　レポート（50%）、試験（50%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

②【フィードバック】レポートの総評は授業で発表、希望者には個々のコメントをつけて返却

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】蒲島郁夫他　『メディアと政治』有斐閣アルマ　2007年

【推薦書】遠藤薫　『間メディア社会における世論と選挙』東京電機大学出版局　2011年

【参考書】平田オリザ、松井孝治　『総理の原稿』岩波書店　2011年

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	情報デザイン論		
担当教員名	川瀬　基寛		
ナンバリング	KJc422		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

クリエイティブディレクター及びグラフィックデザイナー、テレビ制作現場の経験を持つ教員が、クリエイティブな視点を交えながら、映像表現に関する講義を行う。

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

メディアコミュニケーション学科の専門科目である。

主に情報をデザインする手法で「思考力」を養い、アクティブラーニングによるグループワークでコミュニケーションと情報デザインの関わりを学修する。

②科目の概要

情報デザインの歴史、アフォーダンス、Web、ソーシャルメディア、インフォグラフィックスなど、膨大な情報を整理し正確に伝える方法やコミュニケーションとの関わりを学習する。また、ストーリーテリングとアクティブラーニングを取り入れた「体験をデザインする」グループワークを実施する。

③授業の方法（ALを含む）

毎時間、授業から得た知識や考え 方・感想・疑問点をリアクションペーパーとしてフィードバックを行う。特定のテーマについてグループワーク形式のディスカッションを行い、対象となる場所へリサーチや観察をするため身近なフィールドワークを実施する。最終的に発表資料を作成し発表を行う。【リアクションペーパー】【グループワーク】【プレゼンテーション】【フィールドワーク】【PBL】

④到達目標

1.情報を整理し正確にコミュニケーションとして情報伝達することができる

3.ストーリーテリングを用いた情報デザインの手法を理解することができる

4.情報をデザインするための思考力の一つである「デザイン思考」を理解することができる

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

②-1 情報収集・情報選択、集約、①-3 メディアの特性の理解

内容

※進行具合により内容を変更する場合があります。

1	イントロダクション

2	情報デザインとは何か？
3	情報デザインの歴史
4	情報デザインの活用
5	社会と情報デザイン
6	組織と情報デザイン
7	情報デザインのプロセス２
8	情報デザインのプロセス２
9	ユーザ調査のための手法
10	コンセプトのための手法
11	視覚化のための手法
12	ワークショップ１
13	ワークショップ２
14	ワークショップ３
15	まとめ、発表

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】事前資料が必要な場合は準備しておく。（45分程度）

【事後学修】課題やグループワーク時の課題がある場合は期限内に提出するために準備する。（45分程度）

評価方法および評価の基準

毎回のリアクションペーパー（15%）、授業内課題（20%）、グループワーク・プレゼンテーション（50%）、授業参加度（15%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1：授業内課題、グループワーク・プレゼンテーションにより評価する

到達目標2：リアクションペーパー、授業内課題、グループワーク・プレゼンテーションにより評価する

到達目標3：リアクションペーパー、授業内課題、グループワーク・プレゼンテーション、授業参加度により評価する

【フィードバック】リアクションペーパーの意見や質疑応答などを授業の最初に実施し、より理解を深めた学習ができるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用しない。必要に応じて資料の配布を行う。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

後半はGW（グループワーク）が増えるため、欠席をしないように心がけてください。

科　目　名	**地域メディア論**		
担当教員名	石野　榮一		
ナンバリング	KJc323		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

新聞社で長年、地方自治体や民間企業などを取材し、編集実務の経験がある。地方紙での地方自治体、民間企業などの取材経験を生かし、地域におけるメディアの現状や役割を解説できる。

テレビ局勤務経験者によるテレビ業界の詳しい解説を行う。

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

メディアの役割のうち地域に焦点を当てて考える科目である。大都市圏では全国紙（新聞）、キー局（テレビ）がマスメディアの総称と受け取られがちだが、地方にあっては地方紙・地域紙や地元テレビ・ラジオ局など地域メディアの影響力が強く、地域の世論形成を担い、生活必需品の特徴を有する。地方創成が課題に上がるなかで、地域メディアを多方面から学び、最終的にはメディアが地域社会で果たす役割を理解する。

②科目概要

活字メディアは地方紙や地域紙、放送メディアは地元放送局を全国紙やキー局と比較しながら現状、役割、将来像を理解する。さらにインターネットを活用した地域メディアの取り組み事例を見ながら、ネット時代のメディアの姿を理解する。

③授業の方法（ALを含む）

講義による解説を中心とするが、テーマごとにレポート課題を設定し、理解と定着を図る。【レポート（知識・表現】

④到達目標

１．マスメディア全般の現状と将来像を説明することができる。

２．地域メディアが人々の生活にどのような影響を与えているかを考えることができる。

３．ネット時代の地域メディアの役割を学ぶことができる。

４．地方創成に取り組む上で地域メディアの役割を説明することができる。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

①－２文化・芸術とメディアの関わりの理解　②－２現代文化の評価・判断③－３コミュニケーションへの関与、意欲

内容

1	授業ガイダンス、地域の定義、メディアの定義
2	メディア全般の理解①　紙媒体を中心に
3	メディア全般の理解②　放送メディアを中心に
4	メディア全般の理解③　インターネットを中心に
5	地域メディアと郷土愛の関係、地方創成

6	首都圏のメディア状況と文化性・県民性の相関関係
7	地方紙の展開に見る地域メディア論①
8	地方紙の展開に見る地域メディア論②
9	地域放送局の展開に見るメディア論①
10	地域放送局の展開に見る地域メディア論②
11	インターネットを活用した地域メディア①
12	インターネットを活用した地域メディア②
13	インターネットを活用した地域メディア③
14	地域メディア論まとめ　存在意義とジャーナリズム性の確保
15	まとめ、レポート作成

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】次回授業で取り上げるメディアの特徴、課題をインターネット等で事前に調べまとめる。（各授業に対して60分ほど）

【事後学修】授業で取り上げたテーマと事前調べを基に新聞、書籍などを使って整理する。（各授業に対して60分ほど）

評価方法および評価の基準

各授業回で指示する課題（主にレポート作成）の理解度70点、最終課題（レポート作成）の理解度30点とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出されたレポートにコメントを付して次回以降の授業で返却する。最終課題は時間内にポイントを解説する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない。毎回の授業でテーマの理解を深めるために必要な資料を配布する。

【推薦図書】「新聞のある町　地域ジャーナリズムの研究」（四方洋、清水弘文堂書房）「地方紙の眼力」（共著、農山漁村文化研究会）

【参考文献】必要に応じて紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	**教育メディア論**		
担当教員名	安達　一寿		
ナンバリング	KJc424		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

　メディアコミュニケーション学科の専門選択科目である。教育分野とメディアに関わる内容となるので、教職履修者、あるいは教育分野でのメディア活用に興味関心のある学生に向いている。

②科目の概要

　学校教育・生涯学習などの教育分野では、新しいメディア活用に関する研究やメディアリテラシー育成のための教育が実践されている。例えば，インターネットの活用、デジタル教科書、電子黒板、e-ラーニング、クラウドサービスの活用などがある。またICTの活用に伴い，メディアリテラシー教育なども重要な課題である。本科目では、教育メディアの歴史からはじめ、情報機器端末、アプリケーション、メディアリテラシー教育、最新のICTを利用した教育環境をテーマとして取り上げる。

また、ICTを活用した簡単な教材作成の方法と開発を行い、教育とメディアへの理解を深める。

③授業の方法（ALを含む）

　講義とそこで課す問題解決型の課題を行う。

　ICTの技術を身につけるため、教材作成による演習を行う。

④到達目標

・教育とメディアの関係やそれぞれの特徴を説明することができる。

・メディアや情報に関わる教育の現状について考察を深める、意見をまとめることができる。

・ICTを活用した教育の理解を深め、教材の開発ができる。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

　①－３　メディアの特性の理解

　②－１　情報収集・情報選択、集約

　③－１　社会問題への関心・意識

内容

講義による解説とグループでの課題解決を実施する。

1	オリエンテーション
2	メディアとメッセージ
3	教育モデルとメディア
4	教育とメディアの歴史と関係
5	子どもと情報メディア（１）
6	子どもと情報メディア（２）
7	情報教育とメディアリテラシ（１）
8	情報教育とメディアリテラシ（２）
9	メディアを活用した新しい学習（１）
10	メディアを活用した新しい学習（２）
11	メディアを活用した教材の設計
12	メディアを活用した教材の開発（１）
13	メディアを活用した教材の開発（２）
14	教材の評価
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】事前に提供するWeb教材での予習(60分)

【事後学修】事後に実施する課題レポートの実施(60分)

評価方法および評価の基準

各テーマ毎にレポート課題（３～４）を合計６０％と、教材開発４０％とし、総合評価６０％以上で合格とする。

・教育とメディアの関係やそれぞれの特徴を説明することができる。 →レポート　30%

・メディアや情報に関わる教育の現状について考察を深める、意見をまとめることができる。　→レポート30%

・ICTを活用した教育の理解を深め、教材の開発ができる。　→教材コンテンツ開発　40%

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業時に指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	**マンガ・アニメ文化論**		
担当教員名			
ナンバリング	KJd125		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年		ク　ラ　ス	
開　講　期		必修・選択の別	
授 業 形 態	講義	単　位　数	
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

マンガ、アニメ、映画に関心のある学生向けの内容である。手塚治虫を軸とした国内外の文脈について研究を行う。サブカルチャー論と共に履修する事が望ましい。

②科目の概要

手塚治虫を軸としたマンガ、アニメ等の国内外の文脈について研究を行う

③授業の方法（ALを含む）毎回のリアクションペーパー。最終課題にてプレゼンテーションを行う。

④到達目標

・授業の内容を、自分の言葉で、まとめる事ができる。
・テーマに沿った、リサーチをする事ができる。
・最終発表会で研究発表を行う事ができる。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

1-2,1-3,2-3　　芸術文化に関する知識、芸樹文化の特性と歴史に関する知識、文化比較

内容

1	ガイダンス
2	世界の短編アニメーション
3	日本の短編アニメーション
4	ディズニーアニメーション１
5	ディズニーアニメーション２
6	ディズニーアニメーション３
7	ピクサーアニメーション　トイストーリー　モンスターズインク　カーズ　他

8	日本アニメ・マンガ史１　手塚治虫 他
9	日本アニメ・マンガ史２　赤塚不二夫　他
10	日本アニメ・マンガ史３　スポ根マンガ　魔法少女　他
11	日本アニメ・マンガ史４　現代のアニメとマンガ
12	最終研究発表会
13	最終研究発表会
14	最終研究発表会
15	最終研究発表会　総評

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

「事前学修」授業のテーマに対して、リサーチを行い予習を行う。９０分

「事後学修」授業の内容に対して、リサーチを行い自分の言葉でまとめる。９０分

評価方法および評価の基準

①平常点(最大30点)：授業マナーを守り、授業に積極的に取り組む態度を評価する。

②最終課題(最大50点)：理解度・完成度を評価する。

③コメントシート(最大20点)：課題の意図をしっかりと理解しているかを評価する。

フィードバック・課題に対して、全体にコメントします・最終課題に対して、個別にコメントします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】授業内で提示

【参考図書】授業内で提示

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	メディア文化論		
担当教員名			
ナンバリング	KJd126		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年		ク　ラ　ス	
開　講　期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単　位　数	
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

メディアコミュニケーション学科のDP2

②科目の概要

現代においては「メディア」は私たちの精神もしくは身体の一部と化している。かつてメディアとは、私たちに様々なもの（意味やメッセージ）を届ける「乗り物」であると思われてきた。CMでもコミックでも、新聞や小説や映画やインターネットなどなどであっても、その基本的な認識は変わっていないように思われる。つまり、「メディアはメッセージ」であり、メディアとは単なる情報伝達の道具だと考えられ、もちろん現代においてもなおその文言には充分に意義があり、また、正しいが、現代においては、「メディアはメッセージであるが、単なるメッセージではない」という方がより正しい。本講義においては、この「単なるメッセージではない」という部分が実際に何を意味しているのかを様々な現代的なメディアの事例を学び、考える。

③授業の方法（ALを含む）

④到達目標

メディアとは何であるかを学ぶことを通して、講義で取り上げるテーマについて広く理解することを第一の目的とする。また、メディア分析の結果を考察し、望ましいメディアのありかた、もしくは、社会のあり方について提案できる力を得ることを目標とする。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

内容

この授業は講義を基本とし、最新の事例と共にいくつかの映像を見ながら学びを深めていく。

1	メディアとは何か：マクルーハン『メディア論』を通して
2	メディア論の背景①メディアと身体
3	メディア論の背景②メディアと文字
4	マスコミと文化：新聞・雑誌・テレビなどのマスコミの与える文化的価値観への影響
5	SNSと文化：SNSと文化的価値観との関係について考える
6	筆記試験①
7	まとめ①
8	娯楽系メディアと文化①：映画は文化的価値観にどのような影響を及ぼしているのか

9	娯楽系メディアと文化②：コミックは文化的価値観にどのような影響を及ぼしているのか
10	娯楽系メディアと文化③：アニメは文化的価値観にどのような影響を及ぼしているのか
11	娯楽系メディアと文化④：ゲームは文化的価値観にどのような影響を及ぼしているのか
12	メディア分析の基礎理論①：解釈学概観
13	メディア分析の基礎理論②：映画映像論
14	筆記試験②
15	まとめ②

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】日常的にメディアの観察と収集に励むこと。文化現象を観察すること。（各授業に対して30分程度）

【事後学習】授業で紹介したメディアや文化現象を観察すること。（各授業に対して30分程度）

評価方法および評価の基準

平常点20%、筆記試験80%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

必要な教材については授業内で適宜、説明します。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	音楽表現論		
担当教員名	棚谷　祐一		
ナンバリング	KJd127		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

私たちにとって最も身近な音楽である「ポピュラー音楽」。しかしインターネットの急速な発展と普及によって音楽産業は大きな影響を受けており、著作権法等の法整備も状況に追い付いていないのが現状である。これらの問題に対して音楽をめぐる状況を総合的、体系的に分析し、どうすればいいのかについて考える。当科目は学科ディプロマポリシーの①-3,4および③-1.2に該当する。

②科目の概要

日本の音楽産業の仕組みと歴史、現状と問題点。音楽著作権と著作権ビジネスについて。公共財としての音楽について考える。ロックを中心にしたポピュラー音楽の歴史。音楽とテクノロジー。Jポップのヒット曲分析、等々。適宜グループワークやディスカッションを取り入れつつ授業を行う。

③授業の方法（ALを含む）

講義を主体とし、ディスカッション等を取り入れつつ学びを深めて行く。

④到達目標

音楽などの文化が、経済、社会、テクノロジーとどのように関係しているのかを理解する。知的財産権について理解し、説明できる。ポピュラーミュージックの成立と発展について理解する。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

内容

この授業は講義を中心に、ディスカッションを取り入れつつ学びを深めていく。

※進度については、受講生の理解度に応じて柔軟に運用することがあります。

1	ガイダンス

2	日本の音楽産業の現状と問題点
3	日本の音楽産業の構造
4	音楽のデジタル化
5	日本における音楽ビジネスの歴史
6	音楽著作権と音楽ビジネス
7	公共財としての音楽？
8	ロックとポピュラー音楽の歴史(1)
9	ロックとポピュラー音楽の歴史(2)
10	ロックとポピュラー音楽の歴史(3)
11	音楽とテクノロジー(1)
12	音楽とテクノロジー(2)
13	日本のポピュラー音楽の世界進出の可能性について
14	2010年代の日本のヒットソングの楽曲分析
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】次回授業の該当項目について下調べをし、疑問点を箇条書きで列挙する（各授業に対して40分）。

【事後学修】不明な用語等について調べ、明らかにする（各授業に対して40分）。

評価方法および評価の基準

授業への参加度40%、最終レポート60%とし、総合評価60点以上を合格とする。フィードバックは各回のリアクションペーパーに対する総評とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】ポピュラー音楽の社会経済学　高増　明　著　ナカニシヤ出版

【参考図書】随時紹介

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	エンターテインメントメディア論		
担当教員名	谷　洋子		
ナンバリング	KJd228		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

人間生活学部　メディアコミュニケーション学科の専門選択科目（メディア文化）です。

②科目の概要

ディズニーの映画作品と原作を比較し、その違いを探ります。また、それぞれの作品に取り上げられたヒロインの特徴を捉え、それが作られた時代の背景とどのようにつながっているのかを探ります。研究の手法を学んだあと、履修生には研究発表を行ってもらうため、積極的に学び、調べ、研究活動に取り組む姿勢が求められます。

③授業の方法（ALを含む）

授業の回により活動の内容が異なるので、詳しくは各回の内容を参照。コースの前半では、各回の授業前半で、資料の読み方、鑑賞の仕方のポイントについて解説を受けた後、実際に資料を読み、あらすじやアウトラインをまとめる作業に入る。授業内で終えることは不可能なため、大部分は次回までの課題となる。次の授業の冒頭に課題でまとめた資料の内容のディスカッションを行う。コース後半は、学生による担当作品についてのリサーチの進捗状況報告、プレゼンテーションを行う。発表を聞いている学生は評価シートに記入し、発表後にコメントを述べる。【グループワーク】【プレゼンテーション】

④到達目標

１．ディズニー映画とその原作の違い、その意図を知る

２．作品が作成された背景と映画のヒロイン像のつながりを理解する

３．文化研究の方法を学び自ら実践できるようになる

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

①－２　文化、芸術とメディアのかかわりの理解

②－２　現代文化の評価・判断

③－２　文化に対する関心、理解

内容

（注意）　この科目は研究発表を行うため、履修希望者の数によっては履修制限をかける可能性があります。

ディズニー映画とその原作を比較し、変更の意図を探る。また、作品が生まれた時代背景との関連について考える。最初の数回の講義で研究の方法を紹介後、履修生自身が、リサーチ・研究発表を行う。（履修人数によっては、グループでの研究、発表となる可能性があります。）

1	ガイダンス・　Disney研究とは
2	論文の読み方

3	『シンデレラ』　　－　原作を読む
4	『シンデレラ』　－　映画と原作
5	文献の探し方
6	研究発表準備　グループ分け・テーマ選択・分担決め
7	研究発表準備　　グループ活動及び進捗報告
8	研究発表準備　　グループ活動及び進捗報告
9	研究発表準備　　グループ活動及び進捗報告
10	研究発表準備　　グループ活動及び進捗報告
11	研究発表　『アラジン』（仮）
12	研究発表　『ポカホンタス』（仮）
13	研究発表　『塔の上のラプンツェル』（仮）
14	レポート報告会
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】①テーマとなる映画作品を事前に見ておくこと（２時間）②担当する発表の準備（受講期間中計３０時間程度）

【事後学修】①講義、発表のポイントをノートにまとめる（1時間程度）②論文のアウトライン作成、物語作品あらすじのまとめ（受講期間中数回　１課題につき４時間程度）

評価方法および評価の基準

①発表３０点②レポート３０点③その他の課題２０点　④平常点２０点とし、総合評価６０点以上を合格とする。到達目標１～３（下記）について、①～④を下記のように配分する。

１．ディズニー映画とその原作の違い、その意図を知る。（発表１０％・レポート１０％・平常点５点）

２．作品が作成された背景と映画のヒロイン像のつながりを理解する。（発表１０％・レポート１０％・平常点５点）

３．文化研究の方法を学び自ら実践できるようになる。（発表１０％・レポート１０％・その他課題２０％・平常点１０点）

提出課題は、評価、コメントをつけ返却する。学生の各発表については、教員、受講者ともに授業中にコメントする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業内で指示する

【推薦書】授業内で紹介

【参考図書】授業内で紹介

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

「ディズニーが好き」は活動を行う上での大きなモチベーションにはなると思いますが、大学の科目としての研究では、作品を鑑賞するほかにも、論文、書籍などを使用しての学習が不可欠です。履修期間中は、課題として論文のアウトライン、原作のあらすじのまとめなどが課題として出されるほか、研究発表やレポートのために多くの学習時間が必要となりますが、やり遂げれば達成感も大きいでしょう。

科　目　名	**サブカルチャー論**		
担当教員名	仁藤　潤		
ナンバリング	KJd229		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格　マンガ・アニメ文化論と共に履修る事が望ましい。

②科目の概要　サブカルチャーとは何なのか。時代背景を踏まえて、若者が作り出した文化について研究を行う。

③授業の方法　毎回のリアクションペーパー。最終課題の為のフィールドワーク及びプレゼンテーション。

④到達目標

１.サブカルチャーとは何かを理解する事ができる。2.授業内容に対して、自分の意見を表現することができる。3.自分の選んだテーマに対してリサーチを行い自分の言葉で発表することができる。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

1-2,1-3,2-3　　芸術文化に関する知識、芸樹文化の特性と歴史に関する知識、文化比較

内容

1	サブカルチャーとは何か
2	５０年代のサブカルチャー　戦後のサブカルチャー
3	５０年代のサブカルチャー　エルビスとロックンロール、太陽族
4	６０年代のサブカルチャー　大島渚とヌーヴェルバーグ
5	６０年代のサブカルチャー　唐十郎と新宿
6	７０年代のサブカルチャー　深夜ラジオと若者文化
7	７０年代のサブカルチャー　雑誌と音楽の文化
8	８０年代のサブカルチャー　ポスト消費社会、　ＹＭＯ
9	８０年代のサブカルチャー「おいしい生活」とは
10	９０年代のサブカルチャー サブカルチャーからサブカルへ
11	２０００年台のサブカルチャー　　ネット社会とグローバリズム
12	フィールドワークをもとに、最終研究レポート作成を行う。
13	研究発表会１及び講評
14	研究発表会２及び講評
15	研究発表会３及び講評、総括

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

「事前学修」授業のテーマに対して、リサーチを行い予習を行う。９０分

「事後学修」授業の内容に対して、リサーチを行い自分の言葉でまとめる。９０分

評価方法および評価の基準

①平常点(最大30点)：授業マナーを守り、授業に積極的に取り組む態度を評価する。

②最終課題(最大50点)：理解度・完成度を評価する。

③コメントシート(最大20点)：課題の意図をしっかりと理解しているかを評価する。

フィードバック・課題に対して、全体にコメントします・最終課題に対して、個別にコメントします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

〈参考〉

必要な文献については授業内で適宜、説明する予定です。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

戦後１９５０年年代以降の日本近代史を学んだ上で受講すると理解が深まります。

科　目　名	**映像表現論**		
担当教員名	川瀬　基寛		
ナンバリング	Kjd230		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

クリエイティブディレクター及びグラフィックデザイナー、テレビ制作現場の経験を持つ教員が、クリエイティブな視点を交えながら、映像表現に関する講義を行う。

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

メディアコミュニケーション学科の専門科目である。

映像メディアに関する技術・表現手法を学習し、映像コンテンツの捉え方を学修する。

②科目の概要

実際に作品を鑑賞し鑑賞を通じて映像リテラシーを高め理解力を養う。

視点を変えることで、映像メディアの原理や映像技術の発達について学び、映画の文法や手法、映像表現の特徴や可能性を探求していき、今後の自主活動zや映像作品制作活動に活かす。

③授業の方法（ALを含む）

本科目て? は、講義による解説を中心として、感想・疑問点を中心としたリアクションペーパーによりフィードバックをを行う。授業内容から得た知識や考え 方をまとめ考察をしたレポートを書く。【リアクションペーパー】【レポート（表現）】

④到達目標

1.日本ならびに諸外国における様々な映像作品の表現の違いを理解することができる

2.映画・ドキュメンタリー・ミュージックビデオ・ビデオアート・CG・アニメーションなどの分類や手法の違いを理解することができる

3.技術的な進歩により、映像表現が変化したことを理解することができる

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

②-1 情報収集・情報選択、集約、①-2 文化・芸術とメディアとの関わりの理解

内容

※進行具合により内容を変更する場合があります。

1	イントロダクション：映像とは何か？～技術的な側面から

2	映画の誕生：リュミエールとメリエス
3	映画技法：フォトグラフィ
4	映画技法：ミザンセヌ①
5	映画技法：ミザンセヌ②
6	映画技法：ミザンセヌ③
7	映画技法：編集
8	映像表現：ミュージックビデオ①
9	映像表現：ミュージックビデオ②
10	映像表現：ミュージックビデオ③
11	映像表現：ビデオアート・実験映像・CG
12	映像表現：映画のタイトルバック
13	映像表現：アートアニメーション
14	映像表現：宗教映画
15	映像表現：MAD動画、まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】次回予告から関連事項やキーワードを確認し、学習すべき内容を各自で確認してまとめておく。（45分程度）
【事後学修】授業で配布された資料を良く読み復習し、学習した内容をしっかり身につける。（45分程度）

評価方法および評価の基準

期末レポート（55%）、毎回のリアクションペーパー（30%）、受講参加度（15%）とし、総合評価60点以上を合格とする。
到達目標1：リアクションペーパー、期末レポート、授業参加度により評価する
到達目標2：リアクションペーパー、期末レポート、授業参加度により評価する
到達目標3：リアクションペーパー、授業参加度により評価する
【フィードバック】リアクションペーパーの意見や質疑応答などを授業の最初に実施し、様々な視点から映像を読み解くヒントとして提示し、より理解を深めた学習ができるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用しない。必要に応じて資料の配布を行う。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

日本ならびに諸外国における様々な映像作品（映画・ドキュメンタリー・ミュージックビデオ・ビデオアート・CG・アニメーションなど）を鑑賞しながら理解を図ります。
授業時間的な都合により部分的な鑑賞になる場合があります。

科　目　名	ナレーション・朗読		
担当教員名	好本　恵		
ナンバリング	KJd331		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

放送などで経験したアナウンサーとしての技術を生かし、朗読やナレーションの技術を指導する。また、放送番組を担当した経験を生かしながら、現代の文化や、古典芸能など声の文化に触れる姿勢を伝える。

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

人間生活学部　メディアコミュニケーション学科　専門選択 メディア文化　の一科目である。

②科目の概要

朗読は単に声に出して読むだけの行為ではなく、声で作品の世界を聞き手に届ける表現行為である。朗読を通してさまざまな作品を深く読み、解釈し、鑑賞する。散文や韻文をことばによる芸術作品と捉え、選ばれたことばの響きや調べ、その表現技法及び表現効果を探る。ブックレポートの提出と発表があり、事前学習も必要である。意欲のある学生の参加を希望する。

③授業の方法

どう朗読したら作品の世界を聞き手に届けられるか。現代の散文・韻文や古典作品を読み込み朗読する。個人で行うとともに、グループ学習なども生かす。また、作品のブックレポートを書き、朗読とともに発表し、クラスメートと評価し合う。そのことによって「読む」「話す」「書く」「聞く」という、日本語運用能力や語彙力を高め、芸術・文化に関する知識も身につけていく。

④到達目標

作品を深く読み、自分の観点で作品を解釈する力が身につく。正しい日本語の発声発音で作品の魅力を伝える能力、朗読の技術が修得できる。古典芸能を含め、日本の声の文化に親しむ姿勢や日本語に対する豊かな感性が身につく。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、メディアコミュニケーション科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

①－３　メディアの特性の理解

②－４　企画・情報発信

③－３　コミュニケーションへの関与・意欲

③－４　協働・問題解決

内容

1	「朗読」の基礎と魅力
2	伝わる読みのポイント
3	画面にあわせたナレーション①
4	画面にあわせたナレーション②
5	現代の小説を朗読する①
6	現代の小説を朗読する②
7	ブックレポートの発表
8	古典作品の朗読①
9	古典作品の朗読②
10	詩の朗読
11	短歌の朗読
12	俳句の朗読
13	現代の朗読活動について
14	ブックレポートの発表
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】作品の背景や内容について調べ、熟読し、下読みをして授業に臨む。
【事後学修】学んだことを発展させ、課題に取りくむ。
　それらの、所要時間は1時間以上。準備すればするほど、能力は高まり、知識は身につく。

評価方法および評価の基準

ブックレポートで、自分の観点で作品を解釈し論理的に述べることが出来るか評価する(40%）
朗読の発表と最終テストで、正しい発音発声や朗読の基本が身についているか判断する（40%）
日頃の授業や課外学習への参加意欲から、声の文化に親しむ姿勢を持つことが出来ているか評価する（20%）
これらを総合して評価し、６０点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】ラフカディオ・ハーン著、池田雅之訳『新編日本の面影』（角川ソフィア文庫、2000年）、三浦しをん著『愛なき世界』（中央公論新社、2018年）などを使用する。
（参考図書】授業中に紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

声に出して読むだけでは朗読とは言えない。作品に真摯に向き合い、作者や作品の生まれた時代や背景ついても調べ、作品を深く解釈することが必要である。授業中も積極的に声を出し、グループワークにも参加することのできる、意欲のある学生の受講を希望する。

科　目　名	**映像文化論**		
担当教員名	江藤　茂博		
ナンバリング	KJd332		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

メディアコミュニケーション学科の学位授与方針2に該当する。本科目は、映像芸術文化の成立と展開への深い理解をもとに、研究・批評的な観点による対象の洞察力を育てながら、現代の芸術文化への理解を確かな言葉で表現できることを目標とする科目である。

②科目の概要

三部構成で、最初に映像文化史をジャンル別に資料を提示しながら講義する。次に、日本のアニメーション史の資料と話題を中心にした映像文化史を講義する。最後に、筒井康隆の小説「時をかける少女」の映像化作品を取り上げることで、研究・批評の方法を案内する。

③授業の方法　講義及び関連する映像テクスト及び言語テクストを具体的に分析・提示する。

④到達目標

〇学生が、映像表現の物語の歴史に関する基礎知識を習得し、説明できる。評価の手段/レポート20%・平常点20%

〇学生が、映像表現に関する研究・批評の方法を習得し、応用できる。評価の手段/レポート20%・平常点10%

〇学生が、映像文化の現状に関する基礎知識を習得し、説明できる。評価の手段/レポート20%・平常10%

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの下、よりよい社会の発展と文化の向上に貢献する姿勢を育成することを目的とする

内容

この授業は、講義を基本に、資料・作品紹介、授業内文章表現ワーク、ディスカッションを取り入れながら、学びを深めていく。

1	映像表現の歴史を知る
2	写真表現の文化史を知る
3	漫画とアニメーションの関係を考える

4	映画と文学の関係を考える
5	テレビ文化とゲーム文化を知る
6	アニメの映像文化1 出発期の日本アニメーション史
7	アニメの映像文化2 東映アニメーションの時代
8	アニメの映像文化3 テレビアニメーションの登場
9	アニメの映像文化4 アニメブーム第一期と第二期
10	アニメの映像文化5 ジブリのアニメ映画
11	アニメの映像文化6 漫画・ゲーム・ライトノベルとアニメ
12	映像と文芸1 時をかける少女とテレビドラマの歴史を知る
13	映像と文芸2 時をかける少女と映画の歴史を知る
14	映像と文芸3 時をかける少女とアニメの歴史を知る
15	まとめ 映像文化論の可能性

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】指示された作品を読む・観ること

【事後学修】指示された作品を読む・観ること

評価方法および評価の基準

授業内テスト（20パーセント/直後の授業でコメント）や授業内レポート（40パーセント/直後の授業でコメント）や授業内での参加度（20パーセント）を合計100点として、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しません

【推薦書】江藤茂博（講義担当者）「読む流儀　小説・映画・アニメーション」言視舎

【参考図書】上記推薦書以外、講義担当者の著作に映像文化関係のものが幾冊かあります

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	**ファッションメディア論**		
担当教員名			
ナンバリング	KJd333		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年		ク　ラ　ス	
開　講　期		必修・選択の別	
授 業 形 態	講義・演習	単　位　数	
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格/美しさはパワーであり、誰の中にもあるもの。新旧様々なハイファッションに触れることで、確かな美意識を養い、自分の美しさを探求、発見する。

②科目の概要/モデル歴30年の藤井敦子が、これまでの経験で培った知識を活用し、美しい姿勢、しぐさ、歩き方、笑顔など、日常生活にすぐ取り入れられる美しさの意識を伝える。また、一流のハイファッションを学ぶことで、美意識を高め、自分自身を磨いていく。
＊一般的なファッションメディア論とは異なり、藤井敦子流ファッションメディア論になる。

③授業の方法（ALを含む）

④到達目標/4か月間授業で学んだことを日々の中で意識することで、ファッションを通して、自分自身に向き合い、自分の個性に気づく。美意識を高め、表現力を磨き、自分らしい美しさを発見し、より洗練された女性を目指す。

授業内容については、生徒の学習の様子、ゲストのスケジュールなどを考慮しながら、適宜変更するものとする。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係
この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

内容

1	ガイダンス／藤井敦子プレゼンテーション－自己紹介・15回授業の流れ
2	2019年春夏、秋冬コレクション　トレンド解説　　姿勢、笑顔レッスン
3	モデルの美とライフスタイル　姿勢、笑顔レッスン

4	ゲスト講座　（仮）スタイリストによる、今年のおすすめファッション（変更有）
5	ファッションの歴史　１　姿勢、笑顔レッスン
6	ファッションの歴史　２　姿勢、笑顔レッスン
7	ゲスト講座　（仮）コスメジャーナリストによる、20代女子へのおすすめコスメ（変更有）
8	ブランドストーリー１　シャネル、ルイヴィトン、エルメス、サンローラン、ジバンシー等
9	ブランドストーリー２　シャネル、ルイヴィトン、エルメス、サンローラン、ジバンシー等
10	ゲスト講座　（仮）ヘアメイクによる、洗練された女性になるためのメイク講座（変更有）
11	自分のチャームポイント、似合うファッション、色の発見
12	体型別、着こなしテクニック
13	ゲスト講座　（仮）カメラマンとのコラボで、美しく写真に写るコツ（変更有）
14	課題:私スタイルのプレゼンテーション
15	課題:私スタイルのプレゼンテーション

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】毎講義後に翌週の事前準備を指示

【事後学修】講義で学んだことの感想レポート提出

評価方法および評価の基準

平常点40％（4回欠席ペナルティー、5回欠席履修ならず）授業態度20％、プレゼンテーション20％、課題提出20％、総合評価70点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】授業内で指示

【参考図書】授業内で指示

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

美を最上概念にし、皆様がこれから社会に出た時の強力な武器となる、美しさ、美意識を身につける為の講座です。グループワークや発表、ウォーキングレッスンなど、積極的かつ能動的な参加が求められる講座となります。ゲスト講師をお招きする都合上、スケジュールは随時変更する可能性がございます。

また、おいでいただくゲスト講師も、変更の可能性がございます。

皆様にお会いできるのを、楽しみにしております。

科　目　名	スポーツメディア論		
担当教員名	飯田　路佳		
ナンバリング	KJd434		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格：メディアコミュニケーション学科のメディア文化領域の講義科目である。
②科目の概要：「身体」「スポーツ」「健康」「文化」「メディア」をキーワードとして、毎回提示されるそれぞれの事象毎に、現状はもちろん、これまでの歴史や背景について学ぶ。とともに、これからの地域、日本、世界における様々な「スポーツ」や「健康」についての予測もまじえながら、私たちを取り巻く身近な「メディア」について考えていく。
③授業の方法（ALを含む）
各自１代ずつPCを使用し、自分たちでも調査しながら授業を展開する。
基本的には毎回あるいは隔週でグループ分けを行い、グループワークを基本に行う。
リアクションペーパーは毎回提出し、最後は授業をふまえ、個人でテーマを決めてプレゼンテーションを行う。
【グループワーク】【リアクションペーパー】【プレゼンテーション】

④到達目標学修目標：
１．この科目のテーマに対し問題意識を持つことができる。
２．自ら考えながら身体やスポーツの文化について理解することができる。
３．情報収集から人にわかりやすく伝えることの確かな力を身につけることができる。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係
この科目は、全学共通科目のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。
　②-1情報収集・情報選択、集約

内容

グループワークやディスカッションを通して、情報を収集、発信する力を発展させる。取り上げる内容としては、「健康」「ダンス」「ラジオ体操」「高校野球」「オリンピック」「ワールドカップ」「駅伝とマラソン」…など、様々なトピックを取り上げ、「女性」との関係、「メディア」との関係なども交えながら、広い視野を獲得していく。知識を得るとともに、傾聴力、発信力なども自然に身に付くよう、前向きな取り組み方を期待する。

1	オリエンテーション　【リアクションペーパー】
2	「体育」と「スポーツ」の違い【リアクションペーパー】【グループワーク】
3	「養生」から「健康」へ（養生訓の健康観）【リアクションペーパー】【グループワーク】
4	「身体」と「文化」１（健康政策とメディア）【リアクションペーパー】【グループワーク】

5	「身体」と「文化」２（現代の健康を考える）【リアクションペーパー】【グループワーク】
6	国家イベントからビジネスイベントへ１人種差別・性差別【リアクションペーパー】【グループワーク】
7	国家イベントからビジネスイベントへ２アマチュアとプロ【リアクションペーパー】【グループワーク】
8	オリンピックのビジネス化１世界のスポーツブランド【リアクションペーパー】【グループワーク】
9	オリンピックのビジネス化２スポーツのグローバル化【リアクションペーパー】【グループワーク】
10	オリンピックのビジネス化３スポーツイベントと経済【リアクションペーパー】【グループワーク】
11	メディアとスポーツのルール【リアクションペーパー】【グループワーク】
12	ネットワーク社会と身体から考えるスポーツの可能性【リアクションペーパー】【グループワーク】
13	メディアのスポーツへの影響と未来【リアクションペーパー】【グループワーク】
14	まとめ１【プレゼンテーション】
15	まとめ２【プレゼンテーション】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】シラバスを予め確認し，授業で扱う内容の前提となる事項に関連する資料に目を通し、レディネスを高める（60分）

【事後学修】授業で学修した内容を確認し、指定された様式に従い学修内容をまとめる（60分）

評価方法および評価の基準

平常点および授業参加の姿勢（40%）、毎回のリアクションペーパーや提出物状況（30%）プレゼンテーション（30%）等を総合的に判断し、６割以上を合格とする。

到達目標１．平常点（15%/40%）、リアクションペーパー等（10%/30%）、プレゼンテーション（5%/30%）

到達目標２．平常点（15%/40%）、リアクションペーパー等（10%/30%）、プレゼンテーションプレゼンテーション（5%/30%）

到達目標３．平常点（10%/40%）、リアクションペーパー等（10%/30%）、プレゼンテーションプレゼンテーション（20%/30%）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業内で適宜指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

１対多の講義形式だけでなく、数回のグループワークを通じて、問題を発見し、明確に提示しながら、理解していく形式をとるため、特に遅刻や欠席については、明確に対応します。

しかし、内容はできるだけわかりやすくと意識していきます。

また授業終了までに、自然にクラス内全員の顔と名前が一致することを目指して、柔らかく楽しい雰囲気で進めていきましょう。

科　目　名	メディアアート論		
担当教員名	川瀬　基寛		
ナンバリング	KJd435		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

クリエイティブディレクター及びグラフィックデザイナー経験を持つ教員が、クリエイティブな視点を交えながら、実際のデザイン技術とデザインに関する基礎的な知識に関する講義・演習を行う。

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

メディアコミュニケーション学科の専門科目である。

主にメディアアート分野における歴史・表現の多様性を見ることで、表現力と思考力を養う。

②科目の概要

メディアアートの歴史や作品を振り返り探求することで、メディアアートとコンピュータ、メディアアートと思想、情報社会におけるアートとの関係性を学習する。

体験・体感を通じて理解を深めるため、３～４回程度の臨地授業（学外）を実施する。

③授業の方法（ALを含む）

本科目では、講義とによる解説と臨地授業（学外）における体験・体感を中心として、個人による事前学習（資料収集やミニレポート）を踏まえたディスカッションも行う。【グループワーク】【フィールドワー ク】【討論・討議】

④到達目標

1.メディアアートの歴史と表現の多様性について理解することができる

2.メディアアートと現代美術・ビデオアートの関係性を理解することができる

3.情報社会におけるアートとの関係性や思想を理解することができる

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

②-1 情報収集・情報選択、集約、①-3 メディアの特性の理解

内容

※進行具合により内容を変更する場合があります。

1	イントロダクション～メディアアートとは
2	現代アートの流れ１
3	現代アートの流れ２

4	現代アートの流れ３
5	メディアアートの諸相１
6	メディアアートの諸相２
7	メディアアートの諸相３
8	メディアアートの諸相４
9	メディアアートの諸相５
10	メディアアート表現の多様性１
11	メディアアート表現の多様性２
12	メディアアート表現の多様性３
13	情報社会におけるアート１
14	情報社会におけるアート２
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】事前調査が必要な場合は準備すること。（60分程度）

【事後学修】課題があれば期限内に作業して提出すること。（60分程度）

評価方法および評価の基準

毎回のリアクションペーパー（15%）、ミニレポート（30%）、課題レポート（40%）、授業（学外の隣地授業含む）参加度（15%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1：リアクションペーパー、ミニレポート、課題レポート、授業参加度により評価する

到達目標2：リアクションペーパー、ミニレポート、授業参加度により評価する

到達目標3：リアクションペーパー、ミニレポート、授業参加度により評価する

【フィードバック】リアクションペーパーの意見や質疑応答などを授業の最初に実施し、より理解を深めた学習ができるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用しない。必要に応じて資料の配布を行う。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

体験・体感を通じて理解を深めるため、３～４回程度の臨地授業（学外）も実施します。（場所・日程は展示内容によりますので未定）

グループワークとして学習する場合もあります。

歴史資料として作品画像・映像・書籍を鑑賞する機会を多く設けます。

科　目　名	**翻訳文化論**		
担当教員名	田総　恵子		
ナンバリング	KJd436		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

　学科専門科目「メディア文化」領域の2年次以上選択科目として、国際社会の全体像を理解する。

②科目の概要

　国際問題を、国際社会という舞台に現れる登場人物（アクター）、出来事（ストーリー）という視点でとらえ、20世紀後半の国際問題の流れを再考する。その上で21世紀の国際社会が直面している問題の特徴を探る。同じストーリーでもアクターによって解釈が異なる場合についても検証する。新たな情報手段や科学技術の登場によって、これまでとは異なる国際問題が発生する可能性についても論じる。

③授業の方法（ALを含む）

　講義を基本とし、ディスカッション、プレゼンを取り入れながら、学びを深めていく。【討議・討論】【プレゼンテーション】

④到達目標

国際社会の動きと日本、さらに日本国内で身の回りに起きている出来事との関連性を理解する。
国際社会が日本から遠いところで、自分に関係なく動いているのではないことを学ぶ。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

　この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

②－２　現代文化の評価・判断　③－２　文化に対する関心・理解

内容

1	国際社会への視点：日本の役割
2	20世紀の国際関係（１）：冷戦の始まり
3	20世紀の国際関係（２）：冷戦の終結
4	地域紛争（１）：歴史
5	地域紛争（２）：現状
6	テロリズム

7	南北問題（１）：格差
8	南北問題（２）：貧困
9	環境問題（１）：地球環境問題
10	環境問題（２）：国際協力
11	人権問題
12	国際社会の協力関係（１）：グローバリゼーション
13	国際社会の協力関係（２）：リージョナリゼーション
14	21世紀の国際社会と日本
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】個々に選択した国あるいは指導者についてのニュースを集める。（各授業に対して20分）

【事後学修】授業で説明された国際政治の背景に重ねて、選択した国・指導者の動きについてＡ５１枚にまとめる。（各授業に対して30分）

評価方法および評価の基準

レポート（50%）と筆記試験（50%）で評価し、60点以上を合格とする。

【フィードバック】レポートの総評は授業で発表、希望者には個々のコメントをつけて返却

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】原彬久　『国際関係学講義（第4版）』有斐閣　2011年

【推薦書】渡邊啓貴編『新版ヨーロッパ国際関係史』有斐閣アルマ　2008年

【参考図書】猪口孝 編『国際関係リーディングズ』東洋書林　2004年

東大作　『平和構築－アフガン、東ティモールの現場から』　岩波新書　2009年

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

再試験は行わない

科　目　名	メディアデザインⅠ		
担当教員名	川瀬　基寛		
ナンバリング	KJe137		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	選必,選択
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係	上級情報処理士／ウェブデザイン実務士		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

クリエイティブディレクター及びグラフィックデザイナー経験を持つ教員が、クリエイティブな視点を交えながら、実際のデザイン技術とデザインに関する基礎的な知識に関する講義・演習を行う。

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

本科目は、メディアコミュニケーション学科学科の専門選択科目である。

コンピュータアプリケーションを活用して、画像の編集・加工の基礎を学習する科目である。

「グラフィックデザイン」「メディアデザインⅡ」「インタラクティブコンテンツ制作」「映像制作応用」「アニメーション制作基礎」と関連性をもつ。

②科目の概要

画像編集・加工ソフトであるAdobe「Photoshop」や画像描画・ドローイングソフトである「Illustr
ator」の操作方法を学習し、各場面に合わせた活用方法を理解して、簡単なデザイン・表現を可能とする能力を育む。

③授業の方法（ALを含む）

本科目では、講義と演習による解説を中心として、各個人がコンピュータでグラフィックソフトウェアを操作していく。グループによるディスカッションを取り入れた制作も行う。【ICT】【創作、制作】【グループワーク】

④到達目標

1.Photoshopの基本操作ができ、活用場面を理解することができる

2.Illustratorの基本操作ができ、活用場面を理解することができる

3.紙媒体やデジタル媒体を対象とした基本的なデザイン作業をすることができる

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

①-3 メディアの特性の理解

内容

※進行具合により内容を一部変更する場合がある。

1	ガイダンス：メディアデザインとしての画像編集（Photoshop）と画像描画（Illustlator）
2	画像の編集①（Photoshop）

3	画像の編集②
4	画像の編集③
5	画像の編集④
6	第１回　課題制作
7	画像描画の基礎①（Illustlator）
8	画像の描画②
9	画像の描画③
10	画像の描画④
11	画像の描画⑤
12	第２回　課題制作
13	メディアデザインとしての課題①
14	メディアデザインとしての課題②
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

1 回 【事前準備】シラバスを読み、授業進行と準備物の確認を行う。[45分程度] 【事後学習】授業で活用したPDFファイルの解説を読んでおく。[45分程度]

2~15回 【事前準備】各授業回に示してある演習課題を事前に確認して、作業手順を把握しておく。 [45分程度]

【事後学習】授業中に指示した演習ファイルの課題をこなしておく。[45分程度]

評価方法および評価の基準

各授業回に指示する授業内課題（30%）、授業参加度（30%）、作品課題(40%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1：授業内課題、授業参加度により評価する

到達目標2：授業内課題、授業参加度により評価する

到達目標3：授業参加度、作品課題により評価する

【フィードバック】提出された課題は授業内で共有しコメントをつける。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用しない。必要に応じてPDFファイルや演習課題ファイルの配布を行う。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

USBメモリ、白無地のノート（クロッキー帳やスケッチブック等）を準備してください。

毎時間に課題の提出があるので、欠席をしないように心がけてください。

科　目　名	**Ｗｅｂデザイン論**		
担当教員名	北原　俊一		
ナンバリング	KJe138		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	選択,必修＊,選必
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係	上級情報処理士／ウェブデザイン実務士		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

メディアコミュニケーション学科専門科目のメディアデザインの科目群の科目である。Webデザインに必要な知識を身につけ、社会での利用方法や、メディアの特性を活かす表現能力の基礎について学修する。

②科目の概要

Webデザインに関する基礎的な事項を学習する。検定のテキストおよび問題を利用し，問題演習をこなしながら，知識の定着を図る。

③授業の方法（ALを含む）

講義を中心に進める。知識の定着化を図るため、学修カードに要点をまとめていく。【レポート(知識)】

④到達目標

(1)インターネットとWebページのしくみがわかる

(2)情報の収集，組織化からサイトの設計ができる

(3)HTMLとCSSのそれぞれの言語のしくみと働きを理解し，言語を用いてページのデザインを行うことができる。

(4)ディジタルデータの特徴や情報モラルについて説明できる。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

①-3メディアの特性の理解

内容

1	インターネットとWebのしくみ
2	Webサイトのコンセプト，情報の収集と組織化
3	情報の構造化と情報へのアクセス
4	Webページの画面構成と素材
5	Webページのテストと修正，メンテナンス
6	HTMLとCSS
7	HTML文書の要素について
8	フォーム
9	CSSレイアウトについて
10	JavaScript,HTML5，CSS3

11	ディジタルデータとアナログデータ
12	ソフトウェア
13	入出力装置
14	セキュリティと情報モラル
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】テキストを読み、初めてのキーワード、難解なことがらをチェックしておく。60分

【事後学修】キーワードの意味を再確認するとともに、問題演習で間違えたものについてもう一度テキストを参照して復習しておく。60分

評価方法および評価の基準

筆記試験60%、毎時間の学習カード提出20%, 毎時間の問題演習の達成度を20%で評価し、60点以上を合格とする。

到達目標(1) 試験(15点/100) 学習カード(5点/100) 問題演習(5点/100)

到達目標(2) 試験(15点/100) 学習カード(5点/100) 問題演習(5点/100)

到達目標(3) 試験(15点/100) 学習カード(5点/100) 問題演習(5点/100)

到達目標(4) 試験(15点/100) 学習カード(5点/100) 問題演習(5点/100)

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】入門Webデザイン,CG-ARTS協会

【推薦書】Webデザイナー検定公式問題集,CG-ARTS協会

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	サウンドデザイン基礎		
担当教員名	棚谷　祐一		
ナンバリング	KJe139		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	1Aクラス
開　講　期	前期	必修・選択の別	選必,選択
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係	上級情報処理士／ウェブデザイン実務士／高等学校教諭一種免許状（情報）		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格…コンピュータを使った音楽制作、音声の編集などを実習形式で学びます。音声編集は映像制作においても必須のスキルです。このクラスではDTMソフトの定番、Cubase（キューベース）ファミリーの入門版であるCubase Elements 6を導入し、最新のDAW（デジタル・オーディオ・ワークステーション）の世界を体験的に学習します。当科目は学科ディプロマポリシーの①-3.4および②-3に該当する。

②科目の概要…1.DTM（デスクトップ・ミュージック）＝コンピュータを使用した音楽制作の基礎を実習的に学ぶ。2.このサウンドデザイン基礎ではMIDIという規格をつかった音楽制作を中心に学ぶ。MIDI→オーディオサンプルデータの利用→オーディオミックスファイルの制作→クラウドにアップロードという手順でDTMの基礎を習得し、メディア活用の基礎から創作、発信までのプロセスを理解する。

③授業の方法（ALを含む）

音楽創作に対する理解を深めるための講義を経て、デジタル音楽制作について実習形式で学ぶ。

④到達目標…1.MIDI制作　規制楽曲の楽譜をもとにMIDI 入力をつかった音楽制作の実習2.MIDI入力したデータをオーディオに変換。オーディオミックスダウンの実習

3.オーディオループを利用してサンプルの組み合わせによる音楽制作を学ぶ。

4.MIDI入力、オーディオループに加えてオリジナルメロディを加えることでオリジナル音楽作品制作

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

内容

授業は講義と演習によって行う。

第1回　ガイダンス　スタートアップ

第2回　新規プロジェクトの作成　プロジェクトおよびファイルの管理

第3回　コピーとペースト　削除と「元に戻す」

第4回　基本的操作の確認　テンポと拍子の設定　トランスポーズ

第5回　ドラムセットの入力

第6回　スコア課題(1)MIDI入力
第7回　スコア課題(2)MIDI入力
第8回　スコア課題(3)MIDI入力　強弱表現について
第9回　MIDIデータのオーディオ化　ミックスダウン
第10回　オーディオループ素材を活用したトラック制作
第11回　創作課題(1)MIDI入力
第12回　創作課題(2)MIDI入力 リズムトラック制作
第13回　創作課題(3)メロディパートの創作
第14回　ミックスダウン　完成したオーディオファイルをクラウドにアップ　試聴
第15回　まとめ

※一見難しそうに思われるかもしれませんが皆さん楽しみながらクリアしています。しっかりとガイドしますので安心して参加して下さい。ピアノ、電子オルガンなどの楽器経験がなくても大丈夫です。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業用サイトの該当箇所を読み、用語などについて下調べをする。
【事後学修】課題のMIDI入力など、授業外の時間を活用して仕上げる。

評価方法および評価の基準

提出作品の評価60%　授業への参加度40%……　とし、総合評価60点以上を合格とする。
【フィードバック】各回の冒頭に前回の内容に関しての質疑応答を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使用せず、授業用に設けられたサイトを活用する。
【推薦書】Cubase6 Series 徹底操作ガイド (THE BEST REFERENCE BOOKS EXTREME) 藤本健　著　リットーミュージック
【参考図書】随時紹介

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	サウンドデザイン基礎		
担当教員名	棚谷　祐一		
ナンバリング	KJe139		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	1,2	ク　ラ　ス	1Bクラス
開　講　期	前期	必修・選択の別	選択,選必
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係	上級情報処理士／ウェブデザイン実務士／高等学校教諭一種免許状（情報）		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格…コンピュータを使った音楽制作、音声の編集などを実習形式で学びます。音声編集は映像制作においても必須のスキルです。このクラスではDTMソフトの定番、Cubase（キューベース）ファミリーの入門版であるCubase Elements 6を導入し、最新のDAW（デジタル・オーディオ・ワークステーション）の世界を体験的に学習します。当科目は学科ディプロマポリシーの①-3.4および②-3に該当する。

②科目の概要…1.DTM（デスクトップ・ミュージック）＝コンピュータを使用した音楽制作の基礎を実習的に学ぶ。2.このサウンドデザイン基礎ではMIDIという規格をつかった音楽制作を中心に学ぶ。MIDI→オーディオサンプルデータの利用→オーディオミックスファイルの制作→クラウドにアップロードという手順でDTMの基礎を習得し、メディア活用の基礎から創作、発信までのプロセスを理解する。

③授業の方法（ALを含む）

音楽創作に対する理解を深めるための講義を経て、デジタル音楽制作について実習形式で学ぶ。

④到達目標…1.MIDI制作　規制楽曲の楽譜をもとにMIDI 入力をつかった音楽制作の実習2.MIDI入力したデータをオーディオに変換。オーディオミックスダウンの実習

3.オーディオループを利用してサンプルの組み合わせによる音楽制作を学ぶ。

4.MIDI入力、オーディオループに加えてオリジナルメロディを加えることでオリジナル音楽作品制作

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

内容

授業は講義と演習によって行う。

第1回　ガイダンス　スタートアップ

第2回　新規プロジェクトの作成　プロジェクトおよびファイルの管理

第3回　コピーとペースト　削除と「元に戻す」

第4回　基本的操作の確認　テンポと拍子の設定　トランスポーズ

第5回　ドラムセットの入力

第6回　スコア課題(1)MIDI入力

第7回　スコア課題(2)MIDI入力

第8回　スコア課題(3)MIDI入力　強弱表現について

第9回　MIDIデータのオーディオ化　ミックスダウン
第10回　オーディオループ素材を活用したトラック制作
第11回　創作課題(1)MIDI入力
第12回　創作課題(2)MIDI入力 リズムトラック制作
第13回　創作課題(3)メロディパートの創作
第14回　ミックスダウン　オーディオCD作成　試聴
第15回　まとめ

※一見難しそうに思われるかもしれませんが皆さん楽しみながらクリアしています。しっかりとガイドしますので安心して参加して下さい。ピアノ、電子オルガンなどの楽器経験がなくても大丈夫です。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業用サイトの該当箇所を読み、用語などについて下調べをする（各授業に対し40分）。
【事後学修】課題のMIDI入力など、授業外の時間を活用して仕上げる（各授業に対し40分）。

評価方法および評価の基準

提出作品の評価60%　授業への参加度40%……　とし、総合評価60点以上を合格とする。
【フィードバック】各回の冒頭に前回の内容に関しての質疑応答を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使用せず、授業用に設けられたサイトを活用する。
【推薦書】Cubase6 Series 徹底操作ガイド (THE BEST REFERENCE BOOKS EXTREME) 藤本健　著　リットーミュージック
【参考図書】随時紹介

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	**写真技術**		
担当教員名	谷口　京		
ナンバリング	KJe140		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義・演習	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

フォトグラファーとして広告・デザイン・出版・WEBなど様々なメディアで活動する教員が、実務経験で培った知識と技術をもとに講義を行う。

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

メディアコミュニケーション学科の専門選択科目であり、映像、WEBなどメディアコンテンツ制作の授業と関連性がある。

②科目の概要

広告・雑誌・WEB・TVなど様々なメディアで活動するプロフェッショナルによる講義であり、ワークショップとディスカッションを通じ、「よい写真」とは何かを考え、実践してゆく。一眼レフカメラ・ミラーレスカメラほかスマートフォンやSNS（Instagram）も活用しながら、技術と感性、メディアリテラシーを身につける。

③授業の方法（ALを含む）

本科目では、講義による解説を中心として、実技、ディスカッション、制作、創作、プレゼンテーション、リアクションペーパーを取り入れた授業を行う【実技】【ディスカッション】【グループワーク】【創作、制作】【プレゼンテーション】【リアクションペーパー】

④到達目標

１）基礎的なカメラ操作術、露出（絞りとシャッタースピードの関係）、画像処理技術を理解・習得し、一定の質を持つ作品制作ができる。

２）社会における写真の役割を理解し、自らの見解を説明できる。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする：

①－３　メディアの特性の理解

内容

パワーポイント資料や解説を確認しながら知識を深め、実技と課題制作で技術と感性を養う。グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション、リアクションペーパーを積極的に取り入れ、指定期日までに課題を提出することで、学習効果を確認してゆく。

1	オリエンテーション：講師紹介、授業の進め方
2	カメラの仕組み、写真の歴史と役割り
3	一眼レフカメラの基本操作
4	露出と構図

5	考察とディスカッション：メディアリテラシー・写真と言葉
6	実習：「ポートレート」ロケーション撮影
7	実習：「ポートレート」屋内・スタジオ撮影
8	実習：写真のセレクト、リタッチ、データ管理
9	考察とディスカッション：ひとつのテーマをどのように表現するか
10	実習：「静物」形と質感の表現
11	実習：「風景・空間」ヒューマンアイとカメラアイ
12	考察とディスカッション：課題のプレゼンテーションと講評
13	実習：インタビュー・取材撮影
14	実習：ファッション、ビューティー撮影
15	まとめ、課題提出

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】雑誌や広告、インターネットなど、日常で目にするあらゆる写真に、意識的に関心をよせること（各授業に対して60分）

【事後学修】授業で学んだことを実践し、撮影した写真（スマートフォン含め、カメラ機種は問いません）を次回の授業までに用意すること（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業への取り組み姿勢（30%）、課題レポート（40%）、毎回のリアクションペーパー等（30%）とし、総合評価60点以上を合格とする。全15回の講義のうち、公欠届の提出が無い6回以上の欠席は不合格となる。

到達目標１：授業への取り組み姿勢（10%/20%）課題レポート提出（50%/60%）リアクションペーパー（10%/20%）

到達目標２：授業への取り組み姿勢（10%/30%）課題レポート提出（10%/40%）　リアクションペーパー（10%/30%）

【フィードバック】毎授業の最初と最後に質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。提出課題については各自へのコメント、授業内での講評を通じてフィードバックする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】都度、プリント等を配布【推薦書】授業内で紹介【参考図書】授業内で紹介

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

●機材（デジタル一眼レフカメラ、照明）は学科の教材を使用します。

●デジタル一眼レフカメラ、ミラーレスカメラを所有する学生は持参してください。

●６月に使い捨てフィルムカメラを各自購入し、課題制作を行います。カメラ代と現像・プリント代に３～４千円の費用がかかります。

科　目　名	**雑誌・書籍論**		
担当教員名	飯田　日出男		
ナンバリング	KJe241		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

デイプロマポリシー２。

出版活動の中核をなす書籍出版、雑誌出版の現状と未来を、制作現場の具体的な仕事や実例を通して学ぶことで、より具体的に把握し、理解する。

②科目の概要

出版界の現状を大づかみすると同時に、とりわけ編集者の仕事について理解を深める。その一助として書籍や雑誌の模擬企画を立案、講評。ゲスト講師（現役編集者・現役営業職各１名）を招聘してその体験談を聞く機会を提供する。

③授業の方法（ALを含む）

④到達目標

１、雑誌制作の基本を理解し説明することができる。

２、書籍出版の仕事の基本を理解し説明することができる。

３、出版業界の現状を理解し説明することができる。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

内容

①授業形式は、ＯＨＰ、板書を中心とした講義形式とする。

②全２回の課題の評価については、講師が通常講義のなかで行う。

③第１１回にＤＶＤを補助教材とした講義を行う。

1	ガイダンス（出版界の現状）
2	出版社の仕組み
3	私の体験的書籍論
4	書籍はこうしてつくられる(課題「書籍の企画を立ててみよう！」)
5	書籍編集の現場から（ゲスト講師の体験談）
6	課題「書籍企画」の講評
7	私の体験的雑誌論
8	雑誌はこうしてつくられる（課題「雑誌の企画を立ててみよう！」）
9	雑誌編集の現場から（ゲスト講師の体験談）
10	課題「雑誌企画の講評」
11	編集者とはなにか（一部ＤＶＤ観賞）
12	出版に携わる様々な仕事(ゲスト講師（出版営業）の体験談)
13	電子書籍の課題と問題点（著作権と著作隣接権等も含む）
14	出版界はこれからどうなる
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

評価方法および評価の基準

授業への参加度30%、リアクションペーパー（講師への質問、わかったこと等）提出30%、課題および期末レポート提出40%点の計100点とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に回答し、学習理解が深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用せず。推奨図書は授業時に紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	**Ｗｅｂデザイン基礎**		
担当教員名	池本　哲也		
ナンバリング	KJe242		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択,選必
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係	上級情報処理士／ウェブデザイン実務士／高等学校教諭一種免許状（情報）		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

専門選択科目メディアデザインの科目群のひとつである。情報発信の手段としてWebページによる表現力を身に着ける。

②科目の概要

Webページを自分でデザインし、それを実現する能力を養う。

③授業の方法（ALを含む）

本科目では、講義と演習による解説を中心として、各個人がコンピュータでグラフィックソフトウェアを操作していく。【討議・討論】【制作】【プレゼンテーション】

④到達目標

１．ホームページの仕組みを理解する。

２．ドローイングソフト（Adobe Photoshop、ExperienceDesign、figma）を使ってデザインができる

３．JIS規格を考慮した、人にやさしく、多くの人にとって使いやすいWebページができる。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

①-3メディアの特性の理解　①- 4表現技術　②-4企画・情報 発信

内容

この授業はワークショップを中心にディスカッションを取り入れながら、学びを深めていく

1	オリエンテーション　Web概論　制作ツールの紹介
2	情報設計①（Adobe Experience Design）
3	Photoshopの使い方①　UIのトレース（Adobe Photoshop）
4	Photoshopの使い方②　UIのトレース（Adobe Photoshop）
5	Photoshopの使い方③　UIのトレース（Adobe Photoshop）
6	デザイン制作①（Adobe Photoshop）
7	デザイン制作②（Adobe Photoshop）
8	デザイン制作③（Adobe Photoshop）
9	デザイン制作④（Adobe Photoshop）

10	デザイン制作⑤（Adobe Photoshop）
11	自由課題作成
12	自由課題作成
13	自由課題作成
14	自由課題作成
15	自由課題の相互評価,課題に関する振り返りとまとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】次の授業の内容ににについて各自で調べておく（集中講座1日に対して60分）

【事後学修】提出課題と学習内容を再度見直し、疑問点を解消し、解消できなかった部分に関しては次の授業で質問できるようまとめておく。（集中講座1日に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業への参加度20%、毎回の授業時の提出課題60%、および最終課題への取り組み20%とし、総合評価60点以上を
合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回の授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使用しない

【推薦書】特に無し

【参考図書】教室で紹介する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	サウンドデザイン応用		
担当教員名	棚谷　祐一		
ナンバリング	KJe239		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	2Aクラス
開　講　期	後期	必修・選択の別	選必,選択
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係	上級情報処理士／ウェブデザイン実務士		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

「サウンドデザイン基礎」では主にDAWアプリの基礎的な操作法について学びました。この「サウンドデザイン応用」ではCD、映画、ゲームなどコンテンツにおけるサウンドデザイン研究を経て、一旦パソコンから離れ、ときには教室を飛び出します。そしてさまざまな環境の音を体験し、考えてみることを通じて「音による空間デザイン」を試みます。当科目は学科ディプロマポリシーの①-3.4および②-2.3に該当します。

②科目の概要

1コンテンツにおけるサウンドデザイン

2.音を感じよう、音で連想しよう

3.音を描こう、音の好みを比べよう

4.私空間の音デザイン（学内のインテリアサウンドのコーディネート・制作）

5公空間の音デザイン（地域をテーマにしたパブリックサウンドのコーディネート・制作）

③授業の方法（ALを含む）

講義、フィールドワーク、グループワーク、演習を組み合わせ、自主性の高い学びを深めて行く。

④到達目標

コンテンツにおける音楽・音響、また日常空間の「音」に対して分析的な態度を身につけ、体系化する。インテリアや公共的な空間において好ましいサウンドデザインのあり方を模索し、作品として表現する。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

内容

授業は講義を経てグループワークとディスカッション、最終的に演習形式で進めていきます。

※なお、進度については受講生の理解度や進捗状況に応じて柔軟に対応することがあります。

1	ガイダンス、スタートアップ
2	録音芸術におけるサウンドデザイン（1）
3	録音芸術におけるサウンドデザイン（2）
4	映画におけるサウンドデザイン(1)
5	映画におけるサウンドデザイン(2)

6	音に気付こう
7	音で連想しよう(1)
8	音で連想しよう(2)
9	音を描こう(1)
10	音を描こう(2)
11	音の好みを比べよう(1)
12	音の好みを比べよう(2)
13	公空間の音デザイン〜アンビエント・ミュージックを作ろう(1)
14	公空間の音デザイン〜アンビエント・ミュージックを作ろう(2)
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】日常生活において「音」を分析し、体系化するようつとめる（日常的に。1日15分程度を目安とする）。

【事後学修】課題制作など、授業外の時間を活用して仕上げる（各回に対し60分）。

評価方法および評価の基準

授業への参加度、リアクションペーパー等50%、提出物50%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】各回の冒頭に前回の質疑応答を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使用しない。随時レジュメを配布。

【推薦書】「みんなでできる音のデザイン」　小松正史　著　ナカニシヤ出版

【参考図書】見えないデザイン 〜サウンド・スペース・コンポーザーの仕事〜　井出祐昭　著　ヤマハミュージックメディア

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	サウンドデザイン応用		
担当教員名	棚谷　祐一		
ナンバリング	KJe239		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	2Bクラス
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択,選必
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係	上級情報処理士／ウェブデザイン実務士		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

「サウンドデザイン基礎」では主にDAWアプリの基礎的な操作法について学びました。この「サウンドデザイン応用」ではCD、映画、ゲームなどコンテンツにおけるサウンドデザイン研究を経て、一旦パソコンから離れ、ときには教室を飛び出します。そしてさまざまな環境の音を体験し、考えてみることを通じて「音による空間デザイン」を試みます。当科目は学科ディプロマポリシーの①-3.4および②-2.3に該当します。

②科目の概要

1コンテンツにおけるサウンドデザイン

2.音を感じよう、音で連想しよう

3.音を描こう、音の好みを比べよう

4.私空間の音デザイン（学内のインテリアサウンドのコーディネート・制作）

5公空間の音デザイン（地域をテーマにしたパブリックサウンドのコーディネート・制作）

③授業の方法（ALを含む）

講義、フィールドワーク。グループワーク、演習を組み合わせ、自主性の高い学びを深めて行く。

④到達目標

コンテンツにおける音楽・音響、また日常空間の「音」に対して分析的な態度を身につけ、体系化する。インテリアや公共的な空間において好ましいサウンドデザインのあり方を模索し、作品として表現する。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

内容

授業は講義を経てグループワークとディスカッション、最終的に演習形式で進めていきます。

※なお、進度については受講生の理解度や進捗状況に応じて柔軟に対応することがあります。

1	ガイダンス、スタートアップ
2	録音芸術におけるサウンドデザイン（1）
3	録音芸術におけるサウンドデザイン（2）
4	映画におけるサウンドデザイン(1)
5	映画におけるサウンドデザイン(2)

6	音に気付こう
7	音で連想しよう(1)
8	音で連想しよう(2)
9	音を描こう(1)
10	音を描こう(2)
11	音の好みを比べよう(1)
12	音の好みを比べよう(2)
13	公空間の音デザイン〜アンビエント・ミュージックを作ろう(1)
14	公空間の音デザイン〜アンビエント・ミュージックを作ろう(2)
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】日常生活において「音」を分析し、体系化するようつとめる(日常的に。1日15分程度を目安とする）。

【事後学修】課題制作など、授業外の時間を活用して仕上げる（各回に対し60分程度）。

評価方法および評価の基準

授業への参加度、リアクションペーパー等50%、提出物50%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】各回の冒頭に前回の質疑応答を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使用しない。随時レジュメを配布。

【推薦書】「みんなでできる音のデザイン」　小松正史　著　ナカニシヤ出版

【参考図書】見えないデザイン 〜サウンド・スペース・コンポーザーの仕事〜　井出祐昭　著　ヤマハミュージックメディア

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	メディアデザインⅡ		
担当教員名	木継　則幸		
ナンバリング	KJe237		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	実習	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

InDesignを使った実習を通じ、DTP及びエディトリアルデザインの基礎を学ぶ。グラフィックデザイン、エディトリアルデザイン、編集志望者を対象とする。メディアデザインIの応用科目。

②科目の概要

エディトリアルデザインとは、文字と画像を用いて、世界観、時間軸、メッセージ性、ユーザビリティ等の多様な観点から情報伝達を図る、総合的な視覚表現である。

本科目では、観察、発想、設計、評価のプロセスを通じ、アプリケーションの基本操作法と、デザインの基礎となる考え方を身につける。

③授業の方法（ALを含む）

実習

④到達目標

InDesignが使えるようになる。

エディトリアルデザインの基礎的な理解とスキルを習得できる。雑誌制作、パンフレット制作など実践的なエディトリアルデザインの実習過程に進むためのベースとなる。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

内容

1週

■オリエンテーション

授業の説明、エディトリアルデザインの概要、インデザインの概要、事例紹介

2-6週

■基礎演習1（パターン制作）

制作のワークフロー、インデザインの基本操作、ドキュメント作成、レイアウトの基本、カラー設定、テキストの基本設定

、画像配置、プレゼンテーション

7-10週
■基礎演習2（フライヤー）
タイポグラフィ、情報設計、ユーザビリティ、レイアウトバランス、プレゼンテーション

11-14週
■基礎演習3（書籍、雑誌）
ページの基本操作、各種応用操作、ビジュアル表現、プレゼンテーション・講評

15週
■まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】良質なデザインのためには、日常における観察と発想が必要。
授業ではデザインに専念するため、実習のためのアイディエーション、ラフ制作等の準備作業を45分間課す。
【事後学修】実習内容を身につけるための課題を45分間課す。

評価方法および評価の基準

提出作品・課題（50点）、準備作業の内容・プレゼンテーション（20点）、授業中の姿勢（30点）などから到達目標を総合的に判断　総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

オリエンテーション時に指示

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	企画・インタビュー手法		
担当教員名	石野　榮一		
ナンバリング	KJe343		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

新聞社での取材、編集経験がある。日刊新聞社で数多くの取材を経験したことを基に、効果的なインタビューの方法、分かりやすい原稿作成を指導できる。

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

「インタビュー」を理解し実践的な取り組みを通して、コミュニケーション能力を向上させる科目である。メディアなど様々な場面で使われるインタビューだが、行う側に立ち、事前準備、質問の仕方、終了後の対応など具体的な場面を想定しながら「実りあるインタビュー」を実現するための手法を学び、日常的なコミュニケーション能力を養う。同時に、インタビューの成否を決定づける事前準備を考えながら企画力も培う。

②科目の概要

インタビュー相手の情報を収集し、発信するまでの過程を事例を使いながら学ぶ。インタビュー対象の選択、事前準備（企画立案）に十分時間を費やす。インタビュー内容を発信する方法として、新聞・雑誌などの紙媒体、ｗｅｂ、映像を念頭においた作業を進める。媒体の特性を踏まえた文章表現も学ぶ。

③授業の方法（ALを含む）

講義のほか、授業内外で数多くのインタビューを実践的に体験する。インタビュー準備（企画）、原稿作成はメディアの特性を念頭にさまざまなジャンルに取り組む。【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】

④到達目標

１．人を分かりやすく紹介するために必要な要素を考えることで企画力を身につけることができる。

２．インタビュー過程を学び、初対面の人とも的確なコミュニケーションを取ることができる。

３．インタビュー相手の話を理解し、最終的にはインタビュー内容を紙媒体、ｗｅｂ、映像で表現することができる。

なお、実践の１分野としてインタビュー記事を新座市の広報誌に掲載することをを予定している。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

①－４表現技術　②－１情報収集・情報選択、集約③－３コミュニケーションへの関与、意欲

内容

1	授業ガイダンス、インタビュー概論
2	インタビューを学ぶ　事例検討
3	インタビューを学ぶ　企画・事前準備
4	企画の立て方、インタビュー手法、インタビュー内容の伝え方

5	インタビューの実践　1
6	インタビューの実践　2
7	インタビューまとめ　原稿制作とプレゼンテーション
8	新座市との連携　1（男女共同参画についての事前学習）
9	新座市との連携　2（インタビュー対象の選定、事前準備）
10	インタビュー実践　1
11	インタビュー実践　2
12	インタビューまとめ　1
13	インタビューまとめ　2
14	成果物の発表
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】新聞、雑誌、インターネットなどからインタビュー記事を読み込んでおく。（各授業に対して60分ほど）

【事後学修】授業で取り上げたテーマを再確認し、実際のインタビューにどう役立てるかを考え、まとめる。（各授業の対して60分ほど）

評価方法および評価の基準

各授業回における課題への取り組み70点、最終回における成果物の評価20点とし、総合評価60点以上を合格とする。

インタビューへの取り組み　10点×４回

インタビューまとめ　　10点×４回

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】指定なし。

【参考図書】記者ハンドブック（共同通信社刊）

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	メディアデザイン論		
担当教員名	川瀬　基寛		
ナンバリング	KJe344		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	選必,選択
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係	上級情報処理士／ウェブデザイン実務士		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

クリエイティブディレクター及びグラフィックデザイナー経験を持つ教員が、クリエイティブな視点を交えながら、実際のデザイン事例とデザインに関する基礎的な歴史に関する講義・演習を行う。

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

メディアコミュニケーション学科の専門選択科目であである。

主にデザイン分野における歴史からメディアとデザインを読み解くことで思考力を養い、見る力を養う。（リテラシー能力を高める）

②科目の概要

デザインの歴史や作品を鑑賞し学習することで、デザイン分野（グラフィック、デジタル、プロダクト、映像、空間）やデザイナー（人物）や製品との関係性を理解する。また、デザイン理論の基礎、アイデア発想法、メディアとの関係性、文化による差異、生活のためのデザイン等について学習する。

アクティブラーニングとしてデザインリサーチによるフィールドワークを実践し、デザインがコミュニケーションツールであることを理解する。

③授業の方法(ALを含む)

本科目では、講義と演習による解説を中心として、グループによるフィールドワークやディスカッションも行う。【グループワーク】【フィールドワー ク】【フ? レゼンテーション】

④到達目標

1.デザイン分野や歴史（デザイン史）について理解することができる

2.デザイン理論、アイデア発想法などで思考することができる

3.メディアとの関係性、デザインがコミュニケーションツールであることを理解することができる

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成す ることを目的とする。

②-1 情報収集・情報選択、集約、①-2 文化・芸術とメディアとの関わりの理解

内容

※進行具合により内容を変更する場合があります。

1	イントロダクション
2	デザイン史ー1800年代以前
3	デザイン史ー1800～1950年代①
4	デザイン史ー1800～1950年代②
5	フィールドワーク①
6	デザイン史ー1950～2000年代①
7	デザイン史ー1950～2000年代②
8	デザイン史ー1950～2000年代③
9	フィールドワーク②
10	デザイン史ー2000年代以降①
11	デザイン史ー2000年代以降②
12	ネットワーク時代の建築・デザイン・メディア
13	デザインリサーチ①
14	デザインリサーチ②
15	まとめ、リサーチ発表

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】シラバスを読み、授業進行と準備物の確認を行う。[45分程度]

【事後学習】授業で学習した解説を確認し、フィールドワークやデザインリサーチなどのグループワークでは授業時間外でのディスカッションをして準備をしておく。[45分程度]

評価方法および評価の基準

毎回のリアクションペーパー（15%）、課題レポート（30%）、グループワーク・フィールドワーク（40%）、授業参加度（15%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1：リアクションペーパー、課題レポートにより評価する

到達目標2：リアクションペーパー、グループワーク・フィールドワーク、授業参加度により評価する

到達目標3：リアクションペーパー、グループワーク・フィールドワーク、課題レポートにより評価する

【フィードバック】リアクションペーパーの意見や質疑応答などを授業の最初に実施し、より理解を深めた学習ができるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用しない。必要に応じて資料の配布を行う。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

グループワークとして、教室外（学内、図書館）での授業（フィールドワーク、リサーチ）も数回実施します。

歴史資料として多くの作品画像・現物・書籍を鑑賞する機会を設けます。

科　目　名	コンピュータグラフィックス論		
担当教員名			
ナンバリング	KJe245		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年		ク　ラ　ス	
開　講　期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単　位　数	
資 格 関 係	上級情報処理士／ウェブデザイン実務士		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

メディアコミュニケーション学科の学位授与方針１，２に該当する。

メディアコミュニケーション学科専門科目のメディアデザインの科目群の科目である。コンピュータによる作品制作をすることはせず、テキストに沿ってグラフィックスの知識を学び、社会での利用方法について学修する。

②科目の概要

・座学である。制作はせず、コンピュータグラフィックスに関する基礎的な事項を学習する。検定のテキストおよび問題を利用し，問題演習をこなしながら，知識の定着を図る。

・必ず、学外の検定試験を受験する。知識の定着を確認するためである。詳細は授業中に説明する。

③授業の方法（ALを含む）

④到達目標

ディジタル画像のしくみと特性がわかる

３次元グラフィックスの考え方が理解できる

３次元での質感の表現，構図の取り方，ライトの設定について理解できる

ディジタルデータの特徴や情報モラルがわかる

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

内容

1	コンピュータグラフィックス(CG)の歴史と利用のされかた
2	遠近法/動きの表現
3	2次元CGの基礎：ディジタル画像のしくみ
4	写真撮影
5	写真のレタッチ
6	3次元CGの制作：モデリング
7	マテリアル

8	アニメーション
9	カメラワーク
10	ライティング
11	レンダリング手法
12	合成
13	知的財産権
14	画像，文書，音楽などのファイル形式
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前学修】事前にテキストに出てくるキーワードについて調べ、A5用紙1枚にまとめておく。(各授業で60分)

【事後学修】授業で取り扱った事柄を効率よく復習できるよう、とりわけ自分が知らなかったキーワードを厳選し、その意味をA5用紙1枚にまとめておく。(各授業で60分)

評価方法および評価の基準

筆記試験70%，授業の参加度を30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出物に対してのフィードバックとして、様々な意見を紹介して考え方・見方の違いを共有する。またそれに対するコメントを行い、学修を深める。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】入門CGデザイン,CG-ARTS協会

【推薦書】CGクリエイター検定公式問題集,CG-ARTS協会

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	**Ｗｅｂデザイン応用**		
担当教員名	池本　哲也		
ナンバリング	KJe342		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	必修＊,選択,選必
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係	上級情報処理士／ウェブデザイン実務士／高等学校教諭一種免許状（情報）		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

本科目は、メディアコミュニケーション学科専門選択科目である。コンピュータソフトを使用した、創作活動に関心がある学生向けである。

②科目の概要

「Webデザイン基礎」を踏まえ、より実践的なWebデザインを学習する。
Webデザインの最適なプロセスを検討していく。また、ソースコード領域に加え、UI、UX等のインフォメーションアーキテクト領域、また、Web構築・運用にまつわる、ディレクション、マネージメント領域にも触れる。アプリケーションソフトは主に、Adobe「Photoshop」「Dreamweaver」「Experience Design」を利用する。

③授業の方法（ALを含む）

本科目では、講義と演習による解説を中心として、各個人がコンピュータでコーディングソフトウェアを操作していく。【討議・討論】【制作】【プレゼンテーション】

④到達目標

・webサイトの基本構造が理解できる。
・タグの理解ができる。
・自分のサイトを公開できるようになる。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする
①-3メディアの特性の理解　①-4表現技術　②-4企画・情報 発信

内容

この授業はワークショップを中心にディスカッションを取り入れながら、学びを深めていく

※HTMLの基本を理解していること。また、Photoshopの基本操作が行えることを前提とする。

1	オリエンテーション
2	Web概論（フロントエンド・バックエンド）

3	Web構築手順（「Photoshop」「Dreamweaver」「Experience Design」）の基本について
4	HTMLとCSS基礎①
5	HTMLとCSS基礎②
6	HTMLとCSS基礎③
7	HTMLとCSS基礎④
8	HTMLとCSS基礎⑤
9	HTMLとCSS応用①
10	HTMLとCSS応用②
11	--課題制作・サイトデザイン制作--
12	--最終課題制作・サイトデザイン制作--
13	--最終課題制作・サイトデザイン制作--
14	--最終課題制作・サイトデザイン制作--
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】次の授業の内容について各自で調べておく（集中講座1日に対して60分）

【事後学修】提出課題と学習内容を再度見直し、疑問点を解消し、解消できなかった部分に関しては次の授業で質問できるようまとめておく。（集中講座1日に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業への参画、課題の取り組み状況などの平常点30%、課題の評価点70%で評価をおこなう。総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回の授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

オリエンテーション時に指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	**色彩論**		
担当教員名	川瀬　基寛		
ナンバリング	KJe446		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択,選必
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係	上級情報処理士／ウェブデザイン実務士／高等学校教諭一種免許状（情報）		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

クリエイティブディレクター及びグラフィックデザイナー経験を持つ教員が、クリエイティブな視点を交えながら、技術と基礎的知識に関する講義・演習を行う。

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

メディアコミュニケーション学科の専門科目である。

色彩の基礎からデジタル色彩の基礎、デジタル画像の基礎知識を学習し、配色トレーニングを実践する。

②科目の概要

コンンピュータを使用したデザインやCG、Web制作が増える中、一般的な色彩理論に加えデジタル上での色彩の違いを認識して表現する事が必要である。そのためコンピュータで扱うデジタル画像やデジタル色彩も踏まえて、色彩に関する様々な事柄を学習する。配色に関しても基礎知識を学習して、実践的なトレーニングとして配色演習を行う。

③授業の方法（ALを含む）

講義と演習を中心に、毎時間のリアクションペーパーでフィードバックする。演習はそれぞれの課題を的確に理解を測るため段階的に実施する。【リアクションペーパー】【実技】

④到達目標

1.色彩の基礎を理解することができる

2.デジタル色彩の基礎を理解することができる

3.配色手法の基礎を理解することができる

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

②-1 情報収集・情報選択、集約、①-3 メディアの特性の理解

内容

※進行具合により内容を変更する場合があります。

※15回目に試験（確認テスト）を実施します。

1	ガイダンス～色彩とその役割
2	色の基礎特性

3	デジタル画像の基礎
4	色のデジタル表現と役割
5	色彩の法的規制・流行色
6	カラーリサーチの理論・手法、配色演習基礎①
7	色の意味・トーン概念、配色演習基礎②
8	カラーイメージチャート・色のイメージ、配色演習基礎③
9	配色の技法、配色演習基礎④
10	配色トレーニング①
11	配色トレーニング② ③
12	色彩計画、配色トレーニング④
13	環境と建築の色彩、配色トレーニング⑤
14	色彩とアナロジー、配色トレーニング⑥
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】次回の関連事項を確認し、学習すべき内容を確認しておくこと。（45分程度）

【事後学修】配布資料を良く読み復習し、時間内に完了しなかった演習課題を終わらせ提出することで、学習した内容をしっかり身につける。　（45分程度）

評価方法および評価の基準

演習課題(30%)、リアクションペーパー(15%)、試験(40%)、授業参加度(15%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

※指定（色鉛筆やカラーチャート等）以外での演習課題は評価しません。

到達目標1：リアクションペーパー、演習課題、試験により評価する

到達目標2：リアクションペーパー、演習課題、試験により評価する

到達目標3：リアクションペーパー、演習課題、授業参加度により評価する

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業のリアクションペーパーの意見の紹介・演習課題の提示をすることで、様々な視点から色彩の理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用しない。必要に応じて資料の配布を行う。

※色鉛筆やカラーチャートに関しては、第1回目の授業で指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

12色以上の色鉛筆、のり、はさみ、カラーチャート等が必要になります。

授業内で必要な場合、個別にアナウンスします。

科　目　名	メディアプロデュース論		
担当教員名	加藤　亮介		
ナンバリング	KJf147		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

ウェブ・映像等のメディアデザイン領域の実務経験と本授業の内容が関連する。

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

メディア・リテラシーの基礎的視点を獲得するために、

メディア・コンテンツ産業の基本構造を学習する科目である。

本授業の応用として、「コンテンツマーケティング論」がある

②科目の概要

下記の論点をに消化つつ、「メディアとプロデュース」の関係について検討していく。

1.メディア環境と自分　　2.メディアによる情報と意思決定　3.メディアにおける発信者の意図

③授業の方法

座学を中心とした授業で、適宜コメントペーパーの提出を求める。

また、終盤ではグループにおによる討議・議論を行う。【討議・議論】【コメントペーパー】

④到達目標

・マスメディアからネットメディアまで、現代の多様なメディア環境の中で「正しい意思決定」が行うことができる。

・自分なりの「メディア活用」や「メディア発信」を考えられるような、プロデュース視点をもつことができる。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

②-1,情報収集、情報選択、集約

内容

1	ガイダンス
2	現代メディア雑感
3	メディア環境と自分1
4	メディア環境と自分2
5	演習回(番組鑑賞・ディスカッション等)
6	メディアによる情報と意思決定1

7	メディアによる情報と意思決定2
8	メディアによる情報と意思決定3
9	演習回(番組鑑賞・ディスカッション等)
10	メディアの意図：マスメディア考察 1
11	メディアの意図：マスメディア考察 2
12	メディアの意図：ネットメディア考察 1
13	メディアの意図：ネットメディア考察 2
14	演習回(番組鑑賞・ディスカッション等)
15	総括

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

事前　前回授業で指定したコンテンツ(記事、映像、その他)についての読み解きを行ってくること(60分)

事後　返却されたコメントペーパーと共に授業内容について復習を行うこと(60分)

評価方法および評価の基準

出席50%

到達目標に準じた課題・提出物等50%

計100点満点中、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用しない。必要に応じてプリントの配布を行う。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	**映像制作基礎**		
担当教員名	加藤　亮介		
ナンバリング	KJf148		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	選択,選必
授 業 形 態	講義・演習	単　位　数	2
資 格 関 係	上級情報処理士／ウェブデザイン実務士／高等学校教諭一種免許状（情報）		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

ウェブ・映像等のメディアデザイン領域の実務経験と本授業の内容が関連する。

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

メディアデザインの一つである、映像制作のセオリーや手法を学習して作品制作を行う。

本授業の応用として「放送番組制作(ドキュメンタリー)」「放送番組制作(スタジオ)」がある。

②科目の概要

映像制作のワークフローを体験しながら、

シナリオ構成・撮影・編集における基本技術を習得する。

③授業の方法

座学による講義、チームでの制作実習を行う

【グループワーク】【制作】【プレゼンテーション】

④到達目標

・シナリオ構成の基本を理解することができる

・ビデオカメラ・レンズ特性を理解した上で、操作することができる

・編集技法を理解し、編集ソフトの基本操作をすることができる

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

②-2.現代文化の評価・判断

内容

1	イントロダクション
2	映像制作のワークフロー
3	ビデオカメラ基礎①
4	ビデオカメラ基礎②
5	映像編集①（基本操作・素材取り込み）

6	映像編集②（カット編集・トランジション）
7	映像編集③（タイトル・BGM）
8	映像編集④（ポスプロ・書き出し）
9	作品制作①（企画決定）
10	作品制作②（撮影）
11	作品制作③（撮影）
12	作品制作④（撮影・編集）
13	作品制作⑤（編集）
14	作品制作⑥（編集）
15	まとめ、合評会

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】授業前に、チームごとで企画立案・課題制作を積極的に進めておくこと。

【事後学修】授業内容をもとに、チームごとで企画立案・課題制作を深めておくこと。

評価方法および評価の基準

授業内課題（60点）、授業参加度（40点）の合計100点満点で採点し、60点以上を合格とします。

作品が未提出の場合は評価しません。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

必要に応じて資料を配布します。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

※本講義は、チームを構築し凝縮した制作演習を行う都合上、人数制限を行う可能性がある。

科　目　名	コンテンツマーケティング論		
担当教員名	加藤　亮介		
ナンバリング	KJf249		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

ウェブ・映像等のメディアデザイン領域の実務経験と本授業の内容が関連する。

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

メディア・リテラシーの基礎的視点を獲得するために、

メディア・コンテンツ産業の基本構造を学習する科目である。

「メディアプロデュース論」を踏まえて本科目を理解する必要がある。

②科目の概要

「メディアとマーケティング」の関係について検討していく。

③授業の方法

座学を中心とした授業で、適宜コメントペーパーの提出を求める。

また、終盤ではグループにおる討議・議論を行う。【討議・議論】【グループワーク】【制作】【コメントペーパー】

④到達目標

・多様化するメディア環境の中で「正しい意思決定」が行うことができる。

・自分なりの「コンテンツ制作」や「コンテンツマーケティング」を思考することができる。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

②-1,情報収集、情報選択、集約

内容

1	ガイダンス
2	マーケティング概論1
3	マーケティング概論1
4	マスメディアとマーケティング 1
5	マスメディアとマーケティング 2
6	マスメディアとマーケティング 3

7	演習回(番組鑑賞・ディスカッション等)
8	インターネットとマーケティング 1
9	インターネットとマーケティング 2
10	インターネットとマーケティング 3
11	演習回(ディスカッション・グループ制作等)
12	演習回(ディスカッション・グループ制作等)
13	演習回(ディスカッション・グループ制作等)
14	演習回(ディスカッション・グループ制作等)
15	総括

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

事前　前回授業で指定したコンテンツ(記事、映像、その他)についての読み解きを行ってくること(60分)

事後　返却されたコメントペーパーと共に授業内容について復習を行うこと(60分)

評価方法および評価の基準

出席50%

到達目標に準じた課題・提出物等50%

計100点満点中、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用しない。必要に応じてプリントの配布を行う。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

※授業の連環上、前期「メディアプロデュース」を履修済みが好ましい。

※履修者数等の都合により一部内容を変更する場合がある。

科　目　名	**広告制作**		
担当教員名	谷口　京		
ナンバリング	KJf250		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

フォトグラファー、ライターとして企業・公共広告、雑誌・出版、デザイン、WEBなど様々なメディアで活動する教員が、実務経験で培った知識と技術をもとに講義を行う。

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

メディアコミュニケーション学科の専門選択科目であり、映像、WEBなどのメディアコンテンツ制作の科目と関連性がある。同年度または過年度に「写真技術」を履修していることが望ましい

②科目の概要

広告表現とその手法からコミュニケーション・デザインを学び、社会に対して自身がどのような価値観を提供し、影響を与えることができるのかを考えてゆく。

③授業の方法（ALを含む）

本科目では、講義による解説を中心として、ディスカッション、制作、プレゼンテーション、リアクションペーパーを取り入れた授業を行う【ディスカッション】【創作、制作】【プレゼンテーション】【リアクションペーパー】

④到達目標

画像・映像資料や解説を確認しながら講義を進行し、リテラシーを深める。出題された課題を指定期日までに仕上げ、学習効果を確認してゆく。

１）　社会における広告の役割を説明できる。

２）　広告表現に必要な知識を習得し、一定の質を持つ課題作品を制作できる。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする：

①－３メディアの特性の理解

内容

画像・映像資料や解説を確認しながら講義を進行し、リテラシーを深める。グループワーク、ディスカッション、プレゼン、リアクションペーパーを積極的に取り入れ、出題された課題を指定期日までに仕上げることで、学習効果を確認してゆく。

1	イントロダクション

2	街を広告から見てみよう～私の好きな広告・嫌いな広告
3	広告ってどんな人が作ってるんだろう～広告ビジネスの概要と広告戦略
4	日本の広告・海外の広告
5	広告アイディアってどうやって思いつくんだろう～発想は知識から生まれる
6	コピーを書いてみよう：言葉のチカラを掴む
7	写真を撮ってみよう：写真のチカラを掴む
8	デザインしてみよう：デザインのチカラを掴む
9	大学を広告してみよう～大学を一行のコピーで書いてみる
10	大学を広告してみよう～大学を一枚の写真に撮ってみる
11	課題プレゼンテーションと講評
12	私を広告してみよう～私らしいコピーを書いてみよう
13	私を広告してみよう～私の未来をデザインしよう
14	課題プレゼンテーションと講評
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】インターネット広告・交通広告・TVCM・雑誌・新聞など、身の回りの広告に注意を払い、その広告の意図・目的や制作背景を考察すること。出題された課題の調査・資料収集を行うこと（各授業に対して60分）

【事後学修】授業内容や授業で紹介された広告表現について考察し、理解を深める。復習ノートを作成し、知識とアイデアを蓄積すること（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業への取り組み姿勢（30%）課題（40%）リアクションペーパー（30%）を評価し、総合評価60点以上を合格とする。全15回の講義のうち、公欠届の提出が無い6回以上の欠席は不合格となる。

到達目標１：授業への取り組み姿勢（15%/30%）課題レポート（10%/30%）リアクションペーパー（ 20%/40%）

到達目標２：授業への取り組み姿勢（15%/15%）課題レポート（30%/70%）リアクションペーパー（10%/15%）

【フィードバック】毎回のリアクションペーパーに対して講評と質疑応答を行う。課題に対しては、プレゼンテーションと講評を通じてフィードバックする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用せず、その都度プリントを配布する。推薦図書や参考ホームページ等は授業内で紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

＊受講者数や習熟度により、講義内容や進め方を若干変更することがある

科　目　名	**広報制作**		
担当教員名	石野　榮一		
ナンバリング	KJf351		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

日刊地方新聞社での取材、編集経験がある。新聞社では地方自治体、民間企業の広報部門を取材し、新聞編集の業務も担当した。この経験を生かし読まれる・分かりやすい広報誌を作成することができる。

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

広報論で広報の基礎を学んだことを踏まえ、読まれる・分かりやすい広報誌作成に取り組むことで広報の役割について理解を深めることが狙いである。

広報論を受講したか否かは問わないが、広報論受講が望ましい。

②科目の概要

企業や各種団体が持続的活動を可能にす条件の１つとして広報活動は不可欠な要素である。将来、職に就いた際も広報に関わる機会は必ず訪れる。実際に広報紙誌を作成する過程を体験しながら企業・団体における広報の役割について理解を深める。さらに文章に見出しを付け、写真や図表を組み合わせ、分かりやすく読みやすい紙面を作るには、文章力と編集力は欠かせない。２つの分野を軸にしながら取材力さらには社会人になった際に役立つコミュニケーション能力を向上させる。

③授業の方法（ALを含む）

広報に関する基礎知識の講義に加え、企画・取材・文章と見出し作成・校正・紙面編集などの過程を体験する。【討議・討論】【グループワーク】【創作・制作】

④到達目標

１．広報の理解を深めることができる。

２．読まれる・分かりやすい報紙誌とはどのようなものかを説明できる。

３．広報紙誌制作のノウハウを身につけることができる。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

②－４企画・情報発信　①－３メディアの特性の理解　③－４協議・問題解決

内容

広報紙誌の役割を学ぶ。大学広報誌の編集の一端を担う。民間企業内における広報紙誌を想定し、企画・取材・文章、見出し作成・校正・紙面レイアウトなどのの一連の編集過程を実践的に体験する。

1	ガイダンス
2	広報の役割とは何か
3	自治体広報誌の分析①
4	自治体広報誌の分析②

5	企業・各種団体の広報誌の分析①
6	企業・各種団体の広報誌の分析②
7	校正作業の実践
8	編集ソフトのマスター①
9	編集ソフトのマスター②
10	広報誌制作①　企画立案
11	広報誌制作②　取材対象の選定・アポイント
12	広報誌制作③　原稿作成、写真選定
13	広報誌作成④　紙面レイアウト
14	広報誌制作⑤　紙面レイアウト・校正作業
15	成果発表

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】指示された事前課題に取り組む(各授業60分ほど）

【事後学修】テーマごとの指示に従い課題を仕上げる（各授業60分ほど）

評価方法および評価の基準

広報の基礎に関するレポート作成30点、共同作業への貢献度30点、担当した広報誌の完成度40点とし、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】指定なし。

【参考図書】授業内で指示する。特に自治体が発行する広報誌、企業広報誌を参考にする。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	新聞・雑誌制作基礎		
担当教員名	石野　榮一		
ナンバリング	KJf352		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

新聞社での取材、編集経験がる。長年の現場取材を経験後、編集部門でデスク業務の経験もある。これを基に新聞の構成、読みやすい記事の書き方、紙面づくりを解説できる。

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

他の科目でメディアの情報発信を学ぶが、実際の新聞紙面を企画・執筆・レイアウトする制作プロセスを学ぶことで情報発信、情報の役割を体験を通して学ぶ科目である。また活字メディアを知る機会とする。学内・学外の取材を積極的に行い、社会性を身に着け、メディアリテラシーの理解を深め、「文章力・編集力」を伸ばす。

②科目の概要

統一したテーマの下、取材チーム編成し、協働作業を中心にしながら授業を進める。記事執筆、文章校正、見出し作成、写真を組み合わせなどに取り組み、読みやすく見やすい紙面を作り上げる。全体の作業の流れを把握しつつ、ニュースの価値判断力も養う。市販編集ソフトを活用し、紙面制作に取り組む。

③授業の方法（ALを含む）

講義に加え、新聞製作の過程（取材、記事執筆、校正、紙面編集）を学ぶ。【討議・討論】【グループワーク】【創作・制作】

④到達目標

１．活字メディアに触れる機会を作り、メディアリテラシーを学ぶことができる。

２．自ら企画、取材、編集することを通して文章力全般の能力を身につけることができる。

３．プレゼンテーション能力、表現力を含めたコミュニケーション能力、洞察力を養うことができる。

４．編集ソフトを用い、簡単な新聞紙面を制作できる。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

①－３メディアの特性の理解　②－４企画・情報発信　③－４協議・問題解決

内容

この授業は、企画・取材・執筆・校正・レイアウトなど一連の編集作業に実践的に取り組む。必要に応じて講義も実施する。

１．データ（記事、写真）を基に、編集ソフトを活用して紙面づくりに取り組む。編集ソフトのマスターと習熟を図る。

２．学内行事や学外イベント、人物の取材に取り組む。紙面の狙い（企画）、取材対象の選定、取材準備、アポイントの取り方など事前準備を踏まえ、インタビュー・写真撮影を含めた実際の取材を行い、取材後の記事制作、紙面編集・校正など一連の編集作業を体験する。

３．取材・編集行程でグループを作り、協働作業を基本とし、互いに補完しあうことを基本に置く。
４．一連の取り組みを通じて、「社会で通用する文章力」と「コミュニケーション力」を磨き、就職就業に大い役立つ「取材・執筆（写真撮影も）」の醍醐味と、多くの人に読んでもらえる完成物を作り上げた達成感を目指す。
５．通常授業の座学にとどまらず、キャンパスの内外での取材は急な対応も求められるため、スケジュールを守って成果物を出す実践的な授業であることを認識した上でで受講してほしい。

1	ガイダンス
2	新聞の構成、読み方
3	新聞の構成、記事の書き方
4	新聞の構成、見出し・写真の配置
5	編集ソフトのマスター①
6	編集ソフトのマスター②
7	記念日新聞の作成①　企画・取材
8	記念日新聞の作成②　紙面レイアウト
9	成果発表会
10	新聞製作①　企画
11	新聞製作②　アポイントの取り方・取材
12	新聞製作③　記事執筆、校正のやり方
13	新聞製作④　見出し作成、紙面レイアウト
14	新聞製作⑤　紙面レイアウト、校正作業
15	成果発表会

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】次回授業で取り上げる編集に関する作業テーマについて理解を深めてくる。また編集ソフトの習熟を図る。（各授業に対して60分ほど）
【事後学修】編集に関する作業をまとめる。返却された課題の再確認に取り組む。また編集ソフトの習熟を図る。（各授業に対して60分ほど）

評価方法および評価の基準

課題制作の参加と内容評価60点、制作物の評価40点とし、総合評価60点以上を合格とする。
【フィードバック】毎回の授業で取り組んだ課題を提出してもらい、必要な助言を添えて返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

市販の編集ソフトを使用する。
【推薦図書】『新聞用字用語集（記者ハンドブック）』（共同通信社刊）

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	アニメーション制作基礎		
担当教員名	仁藤　潤		
ナンバリング	KJf353		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単　位　数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

短編アニメーション制作に関心のある学生向けの内容である。

②科目の概要

アニメーション制作の基礎から応用までを体験します。

③授業の方法（ALを含む）毎回のリアクションペーパー。最終課題にてプレゼンテーションを行う。

④到達目標

・短編アニメーション制作を１人で行えるようになる。

・動画編集ソフトが使うことができる。

・自分の作品を企画することができる

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

1-2,1-3,1-4　芸術文化に関する知識、芸樹文化の特性と歴史に関する知識、芸術文化に関する表現能力、

内容

1	ガイダンス　授業の説明　短編アニメーションの世界人ついて
2	スマホを使ったストップモーション体験
3	ピクシレーション　人を使ったアニメーション
4	ピクシレーション　人を使ったアニメーション
5	ドット絵アニメーション　ドット絵の作成
6	ドット絵アニメーション　Photoshopを使ったアニメーションの作り方
7	ドット絵アニメーション　課題制作
8	ドット絵アニメーション　課題制作
9	ドット絵アニメーション　課題制作

10	ドット絵アニメーション　作品発表会
11	最終課題　企画発表会
12	最終課題　アニメーション制作
13	最終課題　アニメーション制作
14	最終課題　作品の仕上げ
15	最終課題　作品発表会

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

「事前学修」授業のテーマに対して、リサーチを行い予習を行う。９０分

「事後学修」授業の内容に対して、リサーチを行い自分の言葉でまとめる。９０分

評価方法および評価の基準

①平常点(最大30点)：授業マナーを守り、授業に積極的に取り組む態度を評価する。

②最終課題(最大50点)：理解度・完成度を評価する。

③コメントシート(最大20点)：課題の意図をしっかりと理解しているかを評価する。

フィードバック・課題に対して、全体にコメントします・最終課題に対して、個別にコメントします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】授業時に指示する。

【参考図書】アニメーションの本　動く絵を描く基礎知識と作画の実際　アニメ６人の会　著　合同出版

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	**グラフィックデザイン**		
担当教員名	川瀬　基寛		
ナンバリング	KJf354		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	選択,選必
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係	上級情報処理士／ウェブデザイン実務士		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

クリエイティブディレクター及びグラフィックデザイナー経験を持つ教員が、クリエイティブな視点を交えながら、実際のデザイン技術とデザインに関する基礎的な知識に関する講義・演習を行う。

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

メディアコミュニケーション学科の専門科目である。

主にグラフィックデザインにおける実践力を養う。

②科目の概要

レイアウト、造形、色、タイポグラフィなどの基本から紙媒体（名刺、ポストカード、ポスター、パンフレット等）を中心に作品制作によるトレーニングを行い、デザイン力とデザインによるコミュニケーション力を養う。

③授業の方法（ALを含む）

本科目では、講義と演習による解説を中心として、各個人がコンピュータでグラフィックソフトウェアを操作していく。グループによるディスカッションを取り入れた制作も行う。【ICT】【創作、制作】【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】

④到達目標

1.レイアウト、造形、色、タイポグラフィなどの基礎を理解することができる

2.紙媒体（名刺、ポストカード、ポスター、パンフレット等）を中心とした実践的なデザイン作業をすることができる

3.デザインが持つ力とデザインによるコミュニケーションの力を理解することができる

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

②-2 現代文化の評価・判 断 、③-4 協働、問題解決

内容

※進行具合により内容を変更する場合があります。

1	グラフィックデザインをはじめる前に
2	レイアウトの基礎１
3	レイアウトの基礎２

4	レイアウトの基礎３
5	基本的な図形によるデザイン１
6	基本的な図形によるデザイン２
7	基本的な図形によるデザイン３
8	色を使った平面構成１
9	色を使った平面構成２
10	色を使った平面構成３
11	実践的なレイアウト１
12	実践的なレイアウト２
13	実践的なレイアウト３
14	応用作品制作
15	まとめ（作品発表・講評）

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】事前資料の読み込みや素材収集がある場合は必ず行なう。（各30分）

【事後学修】期限までに課題制作を行なう。（各60分）

評価方法および評価の基準

応用作品（35%）、授業内指定課題（50%）、授業参加度（15%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1：授業内指定課題、授業参加度により評価する

到達目標2：応用作品、授業内指定課題により評価する

到達目標3：応用作品、授業内指定課題、授業参加度により評価する

【フィードバック】毎授業の最初に前回課題の提示をすることで、様々な視点やアイデアの確認となり、理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用しない。必要に応じてPDFファイルや演習課題ファイルの配布を行う。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

メディアデザイン1を履修済み（Adobe IllustratornoおよびPhotoshopの基本操作が出来ることを前提）が望ましいです。

USBメモリ、白無地のノートやクロッキー帳等を準備してください。

毎時間に課題や応用作品の提出がありますので、欠席をしないように心がけてください。

科　目　名	**放送番組制作（ドキュメンタリー）**		
担当教員名			
ナンバリング	KJf355		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年		ク　ラ　ス	
開　講　期		必修・選択の別	
授 業 形 態	講義・演習	単　位　数	
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

ウェブ・映像等のメディアデザイン領域の実務経験と本授業の内容が関連する。

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

「映像制作基礎」の理解を踏まえ、ドキュメンタリーの制作手法を学習する。

②科目の概要

ドキュメンタリー映像の視聴・分析、

チームによる企画・制作を行う。

③授業の方法

座学による講義、チームでの制作実習を行う。

【グループワーク】【制作】【プレゼンテーション】

④到達目標

・映像文脈が応用的に理解することができる。

・ドキュメンタリー映像の制作手法を理解し実践することができる。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

①-2.文化・芸術 とメディア の関わりの理解,②-3.ディア選 択・活用

内容

毎時間、課題があり新しいことを学習していきますので、欠席しないようにしてください。

1	イントロダクション
2	ドキュメンタリー概論
3	映像分析①
4	映像分析②
5	撮影技術①
6	撮影技術②
7	編集技術①

8	編集技術②
9	企画・制作(グループワーク)
10	企画・制作(グループワーク)
11	企画・制作(グループワーク)
12	企画・制作(グループワーク)
13	発表会①
14	発表会②
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】授業前に、チームごとで企画立案・課題制作を積極的に進めておくこと(60分)

【事後学修】授業内容をもとに、チームごとで企画立案・課題制作を深めておくこと(60分)

評価方法および評価の基準

出席50%

到達目標に準じた課題・提出物等50%

計100点満点中、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用しない。必要に応じてプリントの配布を行う。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

※本講義は、チームを構築し凝縮した制作演習を行う都合上、人数制限を行う可能性があります。

科　目　名	音声制作（ラジオ）		
担当教員名	棚谷　祐一		
ナンバリング	KJf356		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

音声のみによるメディアであるラジオ。テレビの全盛期には長期的な凋落傾向にあったが先の震災をきっかけに再評価され、いままた注目されている。ネットラジオの普及により、スマートフォンやPCで無数のチャンネルにアクセスできるようになったことも大きい。この授業ではワークショップ形式でラジオ番組制作を体験することによって、あらためてラジオというメディアの特性や可能性を探っていく。当科目は学科ディプロマポリシーの①-1.3.4および②-3、③-4に該当する。

②科目の概要

Ⅰ.報道番組、紹介番組、解説番組、キャンペーン番組のなかからひとつを選び、番組を制作する。

Ⅱ.音楽番組を制作する。

制作した番組は試聴会を行い、相互に評価をする。

③授業の方法（ALを含む）

主としてグループワークを行い、協働する力を高めつつ、創造的な学びを実践する。

④到達目標

ラジオ番組の特性を理解し、目的に沿った番組作りを考えて的確にメッセージを発信できるようになる。

また、録音や編集を通じて音声制作ツールのスキルを高める。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

内容

授業は主としてグループワークとディスカッションで進めていく。

第1回　オリエンテーション　ラジオの特性と可能性

第2回　番組制作Ⅰ　番組企画書

第3回　取材　録音

第4回　企画構成カード、放送原稿の作成

第5回　制作実習(1)　構成　音声編集

第6回　制作実習(2)　BGM、SE（効果音）作成

第7回　制作実習(3)　BGM、SE（効果音）作成

第8回　ミックスダウン　エンコード　試聴会

第9回　番組制作Ⅱ　番組企画書

第10回　選曲　取り込み
第11回　企画構成カード、放送原稿の作成
第12回　制作実習(1)　録音
第13回　制作実習(2)　構成　音声編集
第14回　制作実習(3)　BGM、SE（効果音）作成
第15回　まとめ　ミックスダウン　エンコード　試聴会

※　授業の進度は作業の進捗状況などから判断して調整することがあります。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】日常的にラジオ番組をよく聴きこんでおくこと。もしラジオを持っていなくても手持ちのスマートフォンアプリやパソコンなどで簡単に聴取できます（毎日15分から30分程度）。
【事後学修】取材や編集など、授業のペースに合わせて適宜行う（各回に対し60分）。

評価方法および評価の基準

平常点、授業参加態度など40%、提出物の評価60%……　とし、総合評価60点以上を合格とする。
なお、規定の提出物が出ていない場合は評価できません。
【フィードバック】各回の冒頭に質疑応答を行う

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用せず、推薦書については随時紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	インタラクティブコンテンツ制作		
担当教員名	川瀬　基寛		
ナンバリング	KJf457		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

クリエイティブディレクター及びグラフィックデザイナー経験を持つ教員が、クリエイティブな視点を交えながら、実際の技術とデザインに関する基礎的な知識に関する講義・演習を行う。

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

メディアコミュニケーション学科専門科目である。

主に映像制作の手法を応用して、インタラクティブコンテンツとしてのモーショングラフィックス制作の実践力を養う。

②科目の概要

映像としてインタラクティブ性が高いモーショングラフィックスを、企画から制作までを実践する。

ソフトウェア（Adobe AfterEffects）の基本操作と基礎作品制作を行い、表現手法の理解力を養い実践的な技術力を養う。

③授業の方法（ALを含む）

本科目では、講義と演習による解説を中心として、各個人がコンピュータでグソフトウェアを操作していく。グループによるディスカッションを取り入れた制作も行う。【ICT】【創作、制作】【グループワーク】【プレゼンテーション】

④到達目標

1.インタラクティブの意味とコンテンツの有用性を理解することができる

2.専用ソフトでの基本的な編集・加工することができる

3.モーショングラフィックスの特性とワークフローを理解することができる

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

①-2 文化・芸術とメディアとの関わりの理解、①-3 メディアの特性の理解

内容

※進行具合により内容を変更する場合があります。

1	ガイダンス
2	モーショングラフィックス・ワークフローの基礎
3	After Effects：基本操作①
4	基本操作②

5	基本操作③
6	基本操作④
7	基礎作品制作①
8	基礎作品制作②
9	基礎作品の発表・講評
10	応用作品制作①
11	応用作品制作②
12	中間発表
13	応用作品制作③
14	応用作品制作④
15	まとめ、応用作品の発表・講評

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】事前資料の読み込みや素材収集がある場合は必ず行なう。（45分程度）

【事後学修】期限までに課題制作を行なう。（45分程度）

評価方法および評価の基準

基礎作品（30）、応用作品（40%）、授業内指定課題（15%）、授業参加度（15%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1：授業内指定課題、授業参加度により評価する

到達目標2：基礎作品、授業内指定課題、授業参加度により評価する

到達目標3：応用作品、授業内指定課題、授業参加度により評価する

【フィードバック】毎授業の最初に前回課題の提示をすることで、様々な視点やアイデアの確認となり、理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用しない。必要に応じてPDFファイルや演習課題ファイルの配布を行う。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

メディアデザイン1を履修済み（Adobe IllustratornoおよびPhotoshopの基本操作が出来ることを前提）が望ましいです。

必要に応じて、データを保存するUSBメモリを準備してください。

毎時間、新しいことを学習していき、課題提出もありますので、欠席をしないように心がけてください。

基本的に資料に頼らないで授業を進めますので、欠席すると学習が進まなくなりますので注意してください。

科　目　名	**映像制作応用**		
担当教員名			
ナンバリング	KJf448		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年		ク　ラ　ス	
開　講　期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単　位　数	
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

メディアコミュニケーション学科の学位授与方針1、2に該当する。

本科目はメディアコミュニケーション学科の専門科目であり、基礎で学習した映像制作のセオリーや手法を応用して作品制作を行う。

②科目の概要

映像制作におけるモーショングラフィックスを主体にして、アイデア立案から制作までを行う。ソフトウェア（Adobe AfterEffects）の基本操作とモーショングラフィックスを中心とした基礎作品制作を行い、映像表現手法の理解と能力を養う。応用作品は、実践的な技術も取り入れ15秒CM制作を行う。

※映像制作基礎を履修済みが望ましい

※Illustrator・Photoshopの基礎スキルが前提

③授業の方法（ALを含む）

④到達目標

・ 映像編集・加工ソフト（Adobe After Effects）の基本操作の理解
・ 基礎的な編集・加工技法の習得
・ モーショングラフィックスの特性とワークフローの理解

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

内容

※進行具合により内容を変更する場合があります。

※毎回課題があり、新しいことを学習していきますので、欠席しないようにしてください。

※基本的に資料に頼らないで授業を進めますので、欠席すると学習が進まなくなります。

※データを保存するUSBメモリ等を毎時間持参してください。

1	ガイダンス
2	モーショングラフィックスと編集の基礎（ワークフローの理解）
3	After Effectsの基本操作１

4	After Effectsの基本操作２
5	After Effectsの基本操作３
6	After Effectsの基本操作４
7	After Effectsによる基礎作品１
8	After Effectsによる基礎作品２
9	基礎作品の発表・講評
10	After Effectsによる応用作品１
11	After Effectsによる応用作品２
12	After Effectsによる応用作品３
13	After Effectsによる応用作品４
14	After Effectsによる応用作品５
15	まとめ、応用作品の発表・講評

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】次回の関連事項を確認し、学習すべき内容を確認しておくこと。（各30分）

【事後学修】資料を良く読み復習することで、学習した内容をしっかり身につける。課題があれば期限内に制作して提出する。　（各30～60分）

評価方法および評価の基準

授業内指定課題(45%)、応用作品(40%)、授業参加度(15%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

指定課題（企画、アイデア、絵コンテ、および作品）が未提出の場合は評価しません。

【フィードバック】毎授業の最初に前回課題の提示をすることで、様々な視点やアイデアの確認となり、理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】必要に応じてPDFファイル・データファイルを配布

【推薦書】授業内で提示

【参考図書】授業内で提示

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	新聞・雑誌制作応用		
担当教員名			
ナンバリング	KJf452		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年		ク　ラ　ス	
開　講　期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単　位　数	
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

メディアコミュニケーション学科の学位授与方針１、２に該当する。

新聞・雑誌制作基礎の応用編であり、学修目標を深化させる。

実際の新聞紙面を企画・執筆・レイアウトする制作プロセスを学び、活字メディアを知る機会とする。学内・学外の取材を積極的に行い、社会性を身に着け、メディアリテラシーの理解を深め、「文章力・編集力」を伸ばす。

②科目の概要

統一したテーマの下、取材チーム編成し、協働作業を中心に置いて授業を進める。記事執筆、文章校正、見出しや写真を組み合わせ読みやすく見やすい紙面を作り上げる。全体の作業の流れを把握しつつ、ニュースの価値判断力も養う。編集ソフトを活用し、紙面制作に具体的に取り組む。また大学広報誌「Ｊｕｍｏｎｊｉ　Ｐｒｅｓｓ」の一部について取材・原稿を担当する。

③授業の方法（ALを含む）

④到達目標

活字メディアに触れる機会を作り、理解を深めることが最大の目標である。自ら企画、取材、編集することを通して文章力全般の能力を伸ばす。プレゼン能力・筆力を含めたコミュニケーション能力、洞察力を養う。受講学生のメディア業界をはじめとした就職力・就業力アップにも繋げる。編集ソフトを用い、1人でも紙面を作れる能力を培う。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

内容

この授業は、基礎編を発展させ企画・取材・執筆・校正・レイアウトなど一連の編集作業の能力を向上させるために実践的な授業を展開する。必要に応じて講義も実施する。

１．データ（記事、写真）を基に、編集ソフトを活用して紙面づくりに取り組む。編集ソフトのマスターと習熟を図る。

２．学内行事や学外イベント、人物の取材に取り組む。紙面の狙い（企画）、取材対象の選定、取材準備、アポイントの取り方など事前準備を踏まえ、インタビュー・写真撮影を含めた実際の取材を行い、取材後の記事制作、紙面編集・校正など一連の編集作業を体験する。

３．取材・編集行程でグループを作り、協働作業を基本とし、互いに補完しあうことを基本に置く。

４．一連の取り組みを通じて、「社会で通用する文章力」と「コミュニケーション力」を磨き、就職就業に大い役立つ「取

材・執筆（写真撮影も）」の醍醐味と、多くの人に読んでもらえる完成物を作り上げた達成感を目指す。
５．通常授業の座学にとどまらず、キャンパスの内外での取材は急な対応も求められるため、スケジュールを守って成果物を出す実践的な授業であることを認識した上でで受講してほしい。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】次回授業で取り上げる編集に関する作業テーマについて理解を深めてくる。また編集ソフトの習熟を図る。（各授業に対して60分）
【事後学修】編集に関する作業をまとめる。返却された課題の再確認に取り組む。また編集ソフトの習熟を図る。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業への参加度50%、課題制作の参加度20%、制作物の評価30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

市販の編集ソフトを使用する。
【参考図書】推薦書：『新聞用字用語集（記者ハンドブック）』（共同通信社刊）

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	アニメーション制作応用		
担当教員名	仁藤　潤		
ナンバリング	KJf453		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単　位　数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

アニメーション制作基礎を受けた学生が対象である。

②科目の概要

アニメーション制作の基礎から応用までを研究します。最終課題では、AfterEfeectsを使った映像制作を行う。

③授業の方法（ALを含む）　（リアクションペーパー）（制作）（プレゼンテーション）

④到達目標

・短編アニメーション制作を１人で行えるようになる。

・動画編集ソフトが使うことができる。

・自分の作品を企画することができる

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

1-2,1-3,1-4　芸術文化に関する知識、芸樹文化の特性と歴史に関する知識、芸術文化に関する表現能力、

内容

1	ガイダンス　授業の説明
2	動画編集基礎1　Adobe Premiereの基本操作
3	動画編集基礎2　Adobe Premiereを使った動画編集
4	動画編集基礎3　Adobe Premiereを使った動画編集
5	After Effectsを使った動画編集1　アニメーションの基礎知識
6	After Effectsを使った動画編集2　VFX基礎
7	After Effectsを使った動画編集3　VFX応用
8	キャラクターアニメーション制作　illustratorを使ったキャラクターデザイン1
9	キャラクターアニメーション制作　illustratorを使ったキャラクターデザイン2

10	キャラクターアニメーション制作　アニメーション制作基礎1 関節を作る
11	キャラクターアニメーション制作　アニメーション制作基礎2 関節を動かす
12	キャラクターアニメーション制作　最終課題制作１　企画
13	キャラクターアニメーション制作　最終課題制作２　動きをつける
14	キャラクターアニメーション制作　最終課題制作３　仕上げ
15	最終課題　作品発表会

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

「事前学修」授業のテーマに対して、リサーチを行い予習を行う。９０分

「事後学修」授業の内容に対して、リサーチを行い自分の言葉でまとめる。９０分

評価方法および評価の基準

①平常点(最大30点)：授業マナーを守り、授業に積極的に取り組む態度を評価する。

②最終課題(最大50点)：理解度・完成度を評価する。

③コメントシート(最大20点)：課題の意図をしっかりと理解しているかを評価する。

フィードバック・課題に対して、全体にコメントします・最終課題に対して、個別にコメントします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】授業時に指示する。

【参考図書】アニメーションの本　動く絵を描く基礎知識と作画の実際　アニメ６人の会　著　合同出版

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	電子ブック制作		
担当教員名	木継　則幸		
ナンバリング	KJf458		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	実習	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

メディア、編集、ブックデザインに関心のある者を対象とする。

実習：8割、グループワーク：2割程度の構成比で授業を進める。

実習では電子ブック（Kindle本)を制作、

グループワークでは電子ブックをモチーフにメディア論（時代に応じたメディアやコンテンツのあり方）を議論する。

メディアデザインIIの発展科目と位置付けられる。

②科目の概要

テキストベース型、画像ベース型、テキスト・画像混在型の3つのタイプの電子ブックを制作する。

実習とグループワークを通じて、デザインのためのテクニカルな手法と同時に、

時代性を考慮したコンテンツ設計の考え方を学ぶ。

③授業の方法（ALを含む）

実習。【討議・討論】【実習】【制作】

④到達目標

電子ブック制作の基礎的な理解とスキルを習得できる。

実習を通じてコンテンツ表現の理解を深めることができる。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

内容

1週

■オリエンテーション　授業の説明

2週

■講義とグループワーク

電子書籍の基礎知識、時代に応じたメディアの変化やコンテンツのあり方などについて議論

3週
■実習準備
Kindle本を作成する準備（制作の流れ、ツールの準備と説明）

4週-7週
■基礎演習1　Kindle本を作成する

8週-10週
■基礎演習2　Kindle本をプレビューする

11週-14週
■基礎演習3　Kindle本のクオリティを上げる

15週
■振り返り　実習を通じた気づきの共有とディスカッション

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】授業で良質なデザインやディスカッションを行うため、コンテンツのアイディエーションやメディアに関するリサーチや論考等の準備作業を45分間課す。
【事後学修】実習で学んだ制作手法の復習を45分間課す。

評価方法および評価の基準

提出作品・課題（50点）、準備作業の内容・プレゼンテーション（20点）、授業中の姿勢（30点）などから到達目標の達成度を総合的に判断し、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

オリエンテーション時に指示

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	放送番組制作（スタジオ）		
担当教員名	加藤　亮介		
ナンバリング	KJf455		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義・演習	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

ウェブ・映像等のメディアデザイン領域の実務経験と本授業の内容が関連する。

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

「映像制作基礎」の理解を前提として、実際に放送番組制作を想定した応用技術を学んでいく。

②科目の概要

番組制作を理解するために、

VTR制作を通して映像文脈を学習し、その上で放送の工程、放送機材の操作方法を学習する。

③授業の方法

座学による講義、チームでの制作実習を行う。

【グループワーク】【制作】【プレゼンテーション】

④到達目標

・映像文脈が応用的に理解することができる。

・番組放送の肯定を理解することができる。

・放送機材を理解し操作することができる。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

②-2.現代文化 の評価・判 断

内容

毎時間、課題があり新しいことを学習していきますので、欠席しないようにしてください。

1	イントロダクション
2	番組制作のワークフロー
3	撮影技術①
4	撮影技術②
5	編集技術①

6	編集技術②
7	映像分析①
8	映像分析②
9	企画・制作(グループワーク)
10	企画・制作(グループワーク)
11	企画・制作(グループワーク)
12	放送技術①
13	放送技術②
14	発表会
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】授業前に、チームごとで企画立案・課題制作を積極的に進めておくこと(60分)

【事後学修】授業内容をもとに、チームごとで企画立案・課題制作を深めておくこと(60分)

評価方法および評価の基準

出席50%

到達目標に準じた課題・提出物等50%

計100点満点中、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用しない。必要に応じてプリントの配布を行う。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

※本講義は、チームを構築し凝縮した制作演習を行う都合上、人数制限を行う可能性がある。

科　目　名	音声制作（ラジオドラマ）		
担当教員名	棚谷　祐一		
ナンバリング	KJf456		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

「ラジオ番組制作」や「音声制作（ラジオ）」で学んだことを土台に、発展形としてのラジオドラマ制作に取り組む。当科目は学科ディプロマポリシーの①-1.3.4および②-3、③-4に該当する。

②科目の概要

1.朗読番組

2.ラジオドラマ制作

制作した番組は試聴会を行い、相互に評価をする。

③授業の方法（ALを含む）

主としてグループワークを行い、協働する力を高めつつ、創造的な学びを実践する。

④到達目標

ラジオという音声メディアにおける表現の可能性を追求し、発信できる力を身につける。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

内容

授業はグループワークとディスカッション、演習形式を取り混ぜて行う。

第1回　オリエンテーション

第2回　番組制作Ⅰ　番組企画書

第3回　台本作成(1)

第4回　台本作成(2)

第5回　収録(1)

第6回　収録(2)、編集(1)

第7回　編集(2)

第8回　ミックスダウン　エンコード　試聴会

第9回　番組制作Ⅱ　番組企画書

第10回　台本作成(1)

第11回　台本作成(2)

第12回　収録(1)

第13回　収録(2)、編集(1)
第14回　編集(2)
第15回　まとめ　ミックスダウン　エンコード　試聴会

※　授業の進度は作業の進捗状況などから判断して調整することがあります。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】日常的にラジオ番組をよく聴きこんでおくこと。もしラジオを持っていなくても手持ちのスマートフォンアプリやパソコンなどで簡単に聴取できます（毎日15分～30分程度）。
【事後学修】取材や編集など、授業のペースに合わせて適宜行う（各授業に対し60分）。

評価方法および評価の基準

平常点、授業参加態度など40%、提出物の評価60%……　とし、総合評価60点以上を合格とする。
なお、規定の提出物が出ていない場合は評価できません。
【フィードバック】各回の冒頭に質疑応答を行う

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用せず、推薦書については随時紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	**基礎ゼミナール**		
担当教員名	鳥越　信吾		
ナンバリング	KJh165		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	必修＊
授 業 形 態		単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

① メディアコミュニケーション学科学位授与方針３に該当する。
1年生後期必修科目として、「入門ゼミナール」に引き続き大学生としての学修方法を学ぶとともに、メディアコミュニケーション学科で学ぶ内容を理解する。

②　まず、学科の講義分野（メディア社会、メディア文化、メディアデザイン、メディアデュース）の内容とその関連性を学び、本学科で学ぶこと、学べることを理解する。その上でメディアを活用した企画や作品制作の基本を学ぶ。後半は、企画、構成、役割分担など、1つの課題を達成するために必要な一連の作業の流れを学び、最後にグループに分かれて課題に取り組む。

③授業の方法（ALを含む）

④到達目標
大学での学びの基本を確実に理解し、それをグループでの作業に活かす能力を身につける。さらに2年生以降に履修する「ワークショップ」や「演習」、「卒業研究」などの科目に能動的に取り組む態度を養う。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係
この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

内容

この授業は講義を中心に、グループワーク、ディスカッション、プレゼンを取り入れながら、学びを深めていく。

1	オリエンテーション：学科での学び
2	科目群の概要（１）：メディア社会
3	科目群の概要（２）：メディア文化
4	科目群の概要（３）：メディアデザイン
5	科目群の概要（４）：メディアプロデュース
6	課題型学習の基礎（１）：問題発見と課題設定

7	課題型学習の基礎（２）：アイデアの開発と実行
8	模擬演習（１）：問題発見と課題設定
9	模擬演習（２）：アイデアの開発と実行
10	課題の解決と評価
11	グループ作業（１）：プロジェクト設定
12	グループ作業（２）：企画・構成・役割分担
13	グループ作業（３）：制作
14	発表
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】教科書、推薦書の中で授業内容に関連する部分を読み、Ａ５１枚程度にまとめる。（各授業に対して30分）

【事後学修】テーマごとの課題を行う。（各授業に対して30分）

評価方法および評価の基準

①　授業への参加度（30%）、課題（30%）レポート（40%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

②　【フィードバック】レポートの総評は授業で発表、希望者には個々のコメントをつけて返却

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】中澤務・森貴史・本村康哲編　『知のナヴィゲーター』　くろしお出版、1800円

【推薦書】松本茂・河野哲也　『大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法』　玉川大学出版部　1470円

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	ワークショップⅠ		
担当教員名			
ナンバリング	KJh266		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年		ク　ラ　ス	1Aクラス
開　講　期		必修・選択の別	
授 業 形 態	講義・演習	単　位　数	
資 格 関 係			

実務経験の有無

無し

実務経験および科目との関連性

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

学科必修科目の習得を前提として、応用実践を行う科目である。

適宜、メディア制作、地域連携活動等をグループで行う、プロジェクト学修型の授業形態が企画される。

学内外での、目的を明確にしたプロジェクトへの参加に対して単位を認める科目であり、必ずしも定時の授業を行う形態ではない。また、繰り返し受講が可能である。

②科目の概要

メディア制作や地域連携活動等、学科教員より提案されたプロジェクトに応募し、

各プロジェクトの活動毎に、目標設定、実践、振り返り、評価が行われる。

③授業の方法

都度企画されたプロジェクトによって方法は異なる。【PBL】【グループワーク】【制作】

④到達目標

プロジェクト学修を通して、汎用的能力を養成する。

１．協働作業において必要な、対人基礎力(発信力、傾聴力)を養い発揮できるようになる。

２．プロジェクト進行において必要な、対課題基礎力(課題発見力、計画力)を養い発揮できるようになる。

３．アウトプットに必要な、基礎的メディア活用力(情報収集力、情報分析力)を養い発揮できるようになる。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

①-3.メディアの 特性の理 解

内容

学科教員がプロジェクトを提案し募集を行う。内容は学科行事および学科専門課程に関わるものである。

活字領域、映像領域、音楽領域、web領域、地域課題解決等、企画されたそれぞれの領域で、目標設定、実践、振り返り、評価が行われる。

プロジェクトは共通して下記のプロセスを消化する。

・課題発見(1~3)
・計画、役割分担(4~6)
・情報収集、制作実践(7~9)、
・効果検証、(10~12)
・振り返り、評価(13~15)
尚、制作活動に必要な個別のスキルについては同時に演習を行う場合がある。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】活動やプロジェクトの内容を理解し、目標設定を明確にする(60分)
【事後学修】グループ内でのふりかえりを行い、個人としての反省点も明確にする(60分)

評価方法および評価の基準

担当教員が、活動・実践状況50%、実際の制作物50%を評価対象とし、
総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用しない。必要に応じてプリントの配布を行う。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

適宜、プロジェクトが企画されるので積極的に情報収集すること。

科　目　名	ワークショップⅠ		
担当教員名	川瀬　基寛		
ナンバリング	KJh266		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	1Bクラス
開　講　期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無し

実務経験および科目との関連性

無し

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

このワークショップは学科留学生編入生を対象に開講される。演習Ⅰ・演習Ⅱ・卒業研究等の授業受講の基礎となる日本語能力を育成する。繰り返し受講が可能である。

②科目の概要

さまざまな資料（新聞、雑誌の記事、自ら撮影した写真など）をもとに、自分の考えを的確にまとめ、表現するとを目標に、総合的な日本語力を高める。

③授業の方法（ALを含む）

留学生を対象にし、学内外の事物、事柄、記事などの材料を通し、日本語の読解力、表現力、発話力の向上を目指し、学習を進める。通常の授業形態で行うが、時に教室外での調査なども行う。【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【フィールドワーク】

④到達目標

１．学生が日本語で表現する力を向上させる。
２．学生が他人の言葉に耳を傾け、理解する能力（柔軟性）を向上させる。
３．学生が「日本語力」を向上させ、日本語能力試験などの資格試験合格を目指す。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。
①-1読み解く力　①-3 メディアの特性の理解　⑥-3グローバルマインド

内容

日本文化、日本社会に関連したテーマをもとに、授業はグループワーク、発表ディスカッションなどの形態をとって行う。形に残る制作物を作成する。

1-3回　「読む」：様々な分野からの読み物を理解し、意見を発表する。

4-6回　「聞く」：日常の話し言葉からプレゼンテーションなどの公的な内容のものまで、さまざまな階層の日本語を聞き取る練習を行う。

7-9回　「話す」：発音練習を行いながら、公的な場での発表練習を行う。
10-12回　「書く」：日頃「書く」機会が少ないので、メールの書き方からレポート作成まで練習を行う。メール送信、ＰＣ作業の確認も同時に行う。
13-15回　「資格」：上記に学習と同時に、基本的な文法、語彙の練習も継続する。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】各回のテーマ（自己紹介、学内探索など）にかんして、課題を完成させるためのプランを考えて、ノートにまとめる。【45分】
【事後学修】添削を受けた提出物を、次回までにワードで完成させる。【45分】

評価方法および評価の基準

授業への取り組み（グループワーク、ディスカッション）：30%、課題への取り組み（各回のテーマ課題）：70%とし、総合評価60点以上を合格とする。
【フィードバック】提出された課題はコメントを記載し、翌週以降に授業内で返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は第１回目の授業で指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	**ワークショップⅠ**		
担当教員名	鳥越　信吾		
ナンバリング	KJh266		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	1Cクラス
開　講　期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

本科目は、メディアコミュニケーション学科の選択科目であり、繰り返し受講は可能である。

②科目の概要

本科目では、本の輪読およびディスカッションをとおして、現代社会を理解する視点を獲得していくことを目指す。

③授業の方法（ALを含む）

本科目では、グループで本を読み、発表し、議論する。【グループワーク】【ディスカッション】【プレゼンテーション】

④到達目標

１．対人基礎力（発信力、傾聴力）を向上させることができる。

２．プロジェクト進行において必要な、対課題基礎力（課題発見力、計画力）を向上させることができる。

３．アウトプットに必要な、基礎的メディア活用力（情報収集力、情報分析力）を向上させることができる。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

①-3　メディアの特性の理解

内容

1	オリエンテーション
2	自分と他人の関係ってどんなもの？
3	家族ってどんな社会？
4	福祉や教育はどうやって決まる？
5	地域社会は誰が作る？
6	働くってどういうこと？
7	文化って何？
8	私たちはメディアをどう使う？

9	性を意識するのはどんなとき？
10	エスニシティは身近にある？
11	格差がなくならないのはなぜ？
12	社会問題はいかにして起こるのか？
13	社会運動って特別なもの？
14	自然環境といかに向き合うか？
15	政治は政治家だけのものではない？

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】活動やプロジェクトの内容を理解し、目標設定を明確にする【45分】

【事後学修】グループ内でのふりかえりを行い、個人としての反省点も明確にする【45分】

評価方法および評価の基準

グループ発表60%、最終レポート30%を評価対象とし、総合評価60点以上を合格とする。 評価方法としては、発表での発話内容および最終レポートの記述の精確さで評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

工藤保則・大山小夜・笠井賢紀編、2017、『基礎ゼミ社会学』世界思想社.

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	ワークショップⅡ		
担当教員名	加藤　亮介		
ナンバリング	KJh366		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	2Aクラス
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義・演習	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無し

実務経験および科目との関連性

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

学科必修科目の習得を前提として、応用実践を行う科目である。

適宜、メディア制作、地域連携活動等をグループで行う、プロジェクト学修型の授業形態が企画される。

学内外での、目的を明確にしたプロジェクトへの参加に対して単位を認める科目であり、必ずしも定時の授業を行う形態ではない。また、繰り返し受講が可能である。

②科目の概要

メディア制作や地域連携活動等、学科教員より提案されたプロジェクトに応募し、

各プロジェクトの活動毎に、目標設定、実践、振り返り、評価が行われる。

③授業の方法

都度企画されたプロジェクトによって方法は異なる。【PBL】【グループワーク】【制作】

④到達目標

プロジェクト学修を通して、汎用的能力を養成する。

１．協働作業において必要な、対人基礎力(発信力、傾聴力)を養い発揮できるようになる。

２．プロジェクト進行において必要な、対課題基礎力(課題発見力、計画力)を養い発揮できるようになる。

３．アウトプットに必要な、基礎的メディア活用力(情報収集力、情報分析力)を養い発揮できるようになる。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

①-3.メディアの 特性の理 解

内容

学科教員がプロジェクトを提案し募集を行う。内容は学科行事および学科専門課程に関わるものである。

活字領域、映像領域、音楽領域、web領域、地域課題解決等、企画されたそれぞれの領域で、目標設定、実践、振り返り、評価が行われる。

プロジェクトは共通して下記のプロセスを消化する。

・課題発見(1~3)
・計画、役割分担(4~6)
・情報収集、制作実践(7~9)、
・効果検証、(10~12)
・振り返り、評価(13~15)
尚、制作活動に必要な個別のスキルについては同時に演習を行う場合がある。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】活動やプロジェクトの内容を理解し、目標設定を明確にする(60分)
【事後学修】グループ内でのふりかえりを行い、個人としての反省点も明確にする(60分)

評価方法および評価の基準

担当教員が、活動・実践状況50%、実際の制作物50%を評価対象とし、
総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用しない。必要に応じてプリントの配布を行う。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

適宜、プロジェクトが企画されるので積極的に情報収集すること。

科　目　名	ワークショップⅡ		
担当教員名	川瀬　基寛		
ナンバリング	KJh366		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	2Bクラス
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

このワークショップは学科留学生編入生を対象に開講される。演習Ⅰ・演習Ⅱ・卒業研究等の授業受講の基礎となる日本語能力を育成する。繰り返し受講が可能である。

②科目の概要

さまざまな資料（新聞、雑誌の記事、自ら撮影した写真など）をもとに、自分の考えを的確にまとめ、表現するとを目標に、総合的な日本語力を高める。

③授業の方法（ALを含む）

留学生を対象にし、学内外の事物、事柄、記事などの材料を通し、日本語の読解力、表現力、発話力の向上を目指し、学習を進める。通常の授業形態で行うが、時に教室外での調査なども行う。【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【フィールドワーク】

④到達目標

１．学生が日本語で表現する力を向上させる。

２．学生が他人の言葉に耳を傾け、理解する能力（柔軟性）を向上させる。

３．学生が「日本語力」を向上させ、日本語能力試験などの資格試験合格を目指す。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

①-1読み解く力　①-3 メディアの特性の理解　⑥-3グローバルマインド

内容

日本文化、日本社会に関連したテーマをもとに、授業はグループワーク、発表ディスカッションなどの形態をとって行う。形に残る制作物を作成する。

1-3回　「読む」：様々な分野からの読み物を理解し、意見を発表する。

4-6回　「聞く」：日常の話し言葉からプレゼンテーションなどの公的な内容のものまで、さまざまな階層の日本語を聞

き取る練習を行う。
7-9回　「話す」：発音練習を行いながら、公的な場での発表練習を行う。
10-12回　「書く」：日頃「書く」機会が少ないので、メールの書き方からレポート作成まで練習を行う。メール送信、ＰＣ作業の確認も同時に行う。
13-15回　「資格」：上記に学習と同時に、基本的な文法、語彙の練習も継続する。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】各回のテーマ（日本の紹介、気になるニュースなど）にかんして、課題を完成させるためのプランを考えて、ノートにまとめる。［45分］
【事後学修】添削を受けた提出物を、次回までにワードで完成させる。［45分］

評価方法および評価の基準

【評価方法・評価基準】授業への取り組み（グループワーク、ディスカッション）：30%、課題への取り組み（各回のテーマ課題）：70%とし、総合評価60点以上を合格とする。
【フィードバック】提出された課題はコメントを記載し、翌週以降に授業内で返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は第１回目の授業の際に指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	**演習Ⅰ**		
担当教員名	棚谷　祐一		
ナンバリング	KJh467		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	3	ク　ラ　ス	1Aクラス
開　講　期	前期	必修・選択の別	必修＊
授 業 形 態	演習	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

卒業研究に向けての応用力を高める。当科目は学科ディプロマポリシーの①-3.4
、②-2.3、③-2に該当する。

②科目の概要

ゼミのテーマである音楽、音響コンテンツ制作のためのより専門的な知識と技術を獲得しつつ、作品制作を行います。

③授業の方法（ALを含む）

講義、グルオープワーク、ディスカッション、演習等、多角的な学びを通じて創造力を養う。

④到達目標

音楽制作のプロセスを理解し、制作ツールを使いこなしてコンテンツを制作することができる。
情報発信者としてのリテラシーを身につける。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

内容

授業は演習中心に講義とディスカッションを取り入れつつ行う。

1.MIDI入力とエディット

2.音源（ソフトシンセ）のエディット

3.オーディオ素材のエディット

4.エフェクト研究

5.ミキシング、エンコード

6.SoundCloudへのアップロードとシェア→スマートフォンアプリとの連携
7.ブラウザによる音楽制作
…Webアプリ、audiotoolを用いた音楽作品制作
8.ボーカロイド演習
…ボーカロイドのエディット、作品制作、アップロード
9.BGM制作
…映像付随音楽の研究。オーディオループ素材、MIDI入力などを総合的に活用して動画に対してBGMを制作する

進度は各自の学習状況に合わせて調整します。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】日常的にクリエイター目線で能動的かつ分析的に音楽作品を聴きこむ（毎日40分程度）。
【事後学修】課題に取り組むことによって技術をしっかりと身に付ける（各授業に対し60分）。

評価方法および評価の基準

テーマ毎に演習課題を提出する。その内容を総合評価し、６０点以上を合格とする。
【フィードバック】各回の冒頭に質疑応答を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】いちばんわかりやすいDTMの教科書 松前公高　著　リットーミュージック

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	**演習Ⅰ**		
担当教員名	安達　一寿		
ナンバリング	KJh467		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	3	ク　ラ　ス	1Dクラス
開　講　期	前期	必修・選択の別	必修＊
授 業 形 態	演習	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

メディアコミュニケーション学科専門科目（必修）で、卒業研究に向けての学修を進める科目である。

②科目の概要

卒業研究につながる演習として、メディアと教育、社会に関する様々な事柄を幅広く学びます。

③授業の方法（ALを含む）

個人ごとにテーマを設定し、研究活動を進める。

④到達目標

・メディアと教育に関する理論背景を説明することができる。
・関連するICT技術を習得し、データ分析や教材開発ができる。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①-1　メディアの役割、利用方法
②-1　情報収集・情報選択、集約
③-1　社会問題への関心・意識

内容

ICT（情報通信技術）の普及により、教育分野（学校、生涯学習）では、e-learningに代表される様々な教育方法が実践されています。その目的は、メディアは情報を伝えるコミュニケーションの手段と捉え、それを効果的活用することにより如何に高い教育効果をあげることができるか、ということです。そのためには、単にコンピュータやインターネットを活用することだけではなく、対象となる学習者の状況を知ること、どのような教材（コンテンツ）であればいいのか、活用の方法はどうしたらいいか等、様々なこと（要因）を検討する必要があります。ゼミでは、こうしたICT活用に関する教育の背景や理論とICT活用の技術（Webページ、アニメーション、編集）を学びます。
内容にかかわる基礎的な部分は、他のゼミと合同で実施する場合もある。

毎回追究するテーマを設定し、それに関する調査分析、発表を行う。

空き時間などは積極的に学習の機会を作り、目的意識を持って問題に取り組んでほしい。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】テーマに関する資料の準備(60分)
【事後学修】事後評価(60分)

評価方法および評価の基準

レポートの状況、および日常の学習の状況で判断する。当然のことながら、毎回出席すること。
合計60%以上で合格とする。

・日常のゼミでの取り組み状況　30%
・メディアと教育に関する理論背景を説明することができる。 →プレゼンテーション　20%
・関連するICT技術を習得し、データ分析や教材開発ができる。　→課題レポート　50%

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

指定しない

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	**演習Ⅰ**		
担当教員名	田総　恵子		
ナンバリング	KJh467		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	3	ク　ラ　ス	1Eクラス
開　講　期	前期	必修・選択の別	必修＊
授 業 形 態	演習	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

３年次演習として、現代社会や文化の動向を深く理解する。

②科目の概要

この演習では、現代社会の諸問題を取り上げる。グローバリゼーションが進む中、国際社会の出来事と日本国内の動きが密接な関係を持つようになってきた。政治、経済、社会、文化の側面で今何が起きているのか。地域社会、国、国際社会などのレベルでの動きを検討し、個々の問題の特徴を捉えていく。個人のレベルでの行動が国や国際社会の動向にどのように関連しているか、現代社会の問題を体系的に捉える視点を重視したい。

③授業の方法（ALを含む）

ディスカッションやプレゼンを通じて、現代社会の諸問題を自ら発見し、理解を深める。【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】

④到達目標

現代社会の諸課題を理解する。

課題設定から調査法、結果のまとめ方など、レポート、論文の書き方の基本について修得する

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

①－１メディアの役割、利用方法　②－１　情報収集・情報選択、集約　③－１　社会問題への関心・意識

内容

この授業では、ディスカッションやグループワークを通じて、現代社会の諸問題を自ら発見し、それについての理解を深める。

第1回～第3回：自己紹介とテーマ設定

第4回～第11回：基本的文献についての討論、参考文献、情報の収集方法

第12回～第14回：ゼミ・レポートの執筆と提出

第15回：レポート講評

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】課題の文献を読んで、内容をまとめ、わからなかった点をメモしておく。（各授業に対して45分）

【事後学修】演習でのディスカッションを参考にして、わからなかった点についての説明を記録する。（各授業に対して30分）

評価方法および評価の基準

発表、討論への参加（40%）、レポート（60%）で評価し、60点以上を合格とする。

【フィードバック】翌週の授業で講評

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】　適宜資料を配布

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	**演習Ⅰ**		
担当教員名	川口　英俊		
ナンバリング	KJh467		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	3	ク　ラ　ス	1Cクラス
開　講　期	前期	必修・選択の別	必修＊
授 業 形 態	演習	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

本科目はマスメディア、ネットメディアなどの役割や影響、社会での利用方法について学ぶ。情報を集め取捨選択し、まとめる力を身につける。現代社会の諸問題に興味を持ち、問題意識を持つなどの力を育成するものである。

②科目の概要

時事問題の検討、現場訪問としてのフィールドスタディ、本を読みレジュメを作成しての発表、自分の関心により選んだテーマで論文の技法に則ってのレポート作成などを予定している。

③授業の方法（ALを含む）

学生が設定したテーマに基づく課題解決に取り組む、学生が研究対象に関連した場所を訪れ調査・聞き取り等を行う、レポート作成、レポート内容のプレゼンテーション

【PBL】【フィールドワーク】【レポート(表現)】【プレゼンテーション】

④到達目標

1.学生が自分の興味・関心からテーマを選び、自分で調べ考え文章にまとめていく力を身につける

2.学生が自分の視点でものごとを捉えること・主張する力を身につける

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

①-1メディアの役割、利用方法　③-1社会問題への関心・意識

内容

この授業は自分のテーマを研究して議論する、時事問題を取り上げその問題と解決策を議論しながら現代社会への理解を深めていく。

・時事問題-各自の関心に沿ってテーマを選び、議論を行う事によって理解を深める。

・学外訪問-少子高齢化に関わるサービス事業者や介護・保育の現場、裁判の傍聴など学生の関心によって訪問先を決め現場の人に学ぶ

・本を読みレジュメを作成しての発表-学生の関心に沿って本を選び発表する。著者の主張の理解、自分の視点からの問題提起を行う。
・レポート-自分の関心によりテーマを選定、論文・レポートの技法に則ったレポートの作成

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】自分のテーマについて基礎知識を修得し、問題点を把握する。(各授業に対して45分)
【事後学修】自分のテーマについて授業での議論から問題点、解決策を再検討する。(各授業に対して45分)

評価方法および評価の基準

平常点（40%）とゼミでの発表・提出物（60%）の総合評価とし、総合評価60点以上を合格とする。
【フィードバック】毎回の授業で取り上げる問題への疑問・意見などに回答する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】山田昌弘「新平等社会」文藝春秋 文春文庫

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	**演習Ⅰ**		
担当教員名	石野　榮一		
ナンバリング	KJh467		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	3	ク　ラ　ス	1Bクラス
開　講　期	前期	必修・選択の別	必修＊
授 業 形 態	演習	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

地方新聞社での取材、編集経験がある。人脈を生かし地域をテーマにした課題に取り組みやすく、取材力、文章作成力をアップする指導ができる。社会人の心構えを伝えることができる。

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

本学科の専門科目と連動させ、演習を通じて特に地域メディアをより深く理解し、コミュニケーション能力を磨く。

②科目の概要

地域課題をテーマに取り上げ、積極的にかかわることで地域社会の理解を深め、社会人基礎力を身につける。メディア全般の深い理解、情報発信力の涵養も目標とする。

③授業の方法（ALを含む）

テーマごとに地域と積極的にかかわる活動。同じテーマでの文章作成。就職活動を意識したディスカッション。【討議・討論】【グループワーク】【創作・制作】

④到達目標

１．地域の課題を知り、解決するために必要なことは何かを考えることができる。

２．文章の理解力・表現力、コミュニケーション能力を着実に挙げることができる。

３．卒業研究の足がかりにすることができる。

４．就職活動に生かすことができる。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

①－１メディアの役割・利用法　②－１情報収集・情報選択、集約　③－１社会問題への関心・意識

内容

この授業は、資料収集・分析、フィールドワーク、グループワークを中心に進める。

本ゼミでは、マスコミ4媒体（新聞・テレビ・ラジオ・雑誌）およびインターネットメディアのそれぞれの歴史、役割、特徴を大枠で理解する。その上で、限定したエリアを対象とした「地域メディア」を取り上げ、地域性とメディアの関連性、生活とメディアの関係性などを全国各地の具体的な事例を調べながら理解を深めていく。また、コミュニケーション能力や表現力を養うため、ゼミ新聞等の制作にも取り組む。

さらに、現場感覚を理解するため実際に新聞社、出版社、テレビ局等の見学に加え、本学で展開しているフリーペーパー制作やWEB制作等の取材にゼミ生の立場から学生記者として積極的に関わる。

これら座学・学外授業の連環性と相乗効果の中で、一年後の「卒業研究」テーマを設定し、情報・資料収集に努め、卒研の骨格づくりを進める。就職を意識し、必要な準備にも随時取り組む。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】提示する課題の予習を行う。日々のニュース報道に自主的に接すること。(各授業に対して60分ほど）

【事後学修】学んだテーマを掘り下げる。ニュースを通じて社会の動向、事象の背景などを考察する。取材を踏まえた原稿の作成に取り組む。（各授業に対し60分ほど）

評価方法および評価の基準

各自が設定した地域の課題への取り組み50点、ゼミ運営への貢献度50点とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業ごとに前回授業の内容を確認し、学生の質問を受けながら理解を深める。作成した原稿は添削し返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

地方紙、フリーペパーなどの地域メディアを参考にする。必要に応じてメディア関連の書籍を紹介する。

【参考図書】記者ハンドブック（共同通信社刊）

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	**演習Ⅰ**		
担当教員名	加藤　亮介		
ナンバリング	KJh467		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	3	ク　ラ　ス	1Fクラス
開　講　期	前期	必修・選択の別	必修＊
授 業 形 態	講義・演習	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

ウェブ・映像等のメディアデザイン領域の実務経験と本授業の内容が関連する。

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

「卒業研究」の前段階として，研究テーマについて個別・グループで検討していく科目である。

②科目の概要

「テーマ」を設定して，実際に調査・発表・議論を行う。

各々の卒業研究のテーマ、手法については演習内で議論し，より良いものにしていく。

また、卒業研究領域に関係する専門技能の獲得・資格取得などにも目を向ける。

③授業の方法

メディア分析に関してはテーマごとに輪講を行い、制作に関してはグループによる企画・制作を行う。

【PBL】【グループワーク】【討議・討論】【制作】

④到達目標

１．問題意識を持ってテーマを見つけ，それを調査する意義を見出すことができる。

２．調査・発表・議論の方法を理解し，よりよい結果に向けてグループで議論することができる。

３．それぞれの「制作」の手法を自分で選択し、専門知識・技能を習得することができる。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

①-1.メディアの 役割，利用方法，②-1.情報収集・ 情報選択,集約，③-1.社会問題 への関心・ 意識

内容

１５回のゼミを、以下のスケジュールで行う予定である。

（１）イントロダクション１

（２）イントロダクション２

（３）～（14）　メディア研究
（15）まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

事前　自分の研究テーマについて、定期報告の準備を行ってくる(60分)
事後　定期報告、ディスカッションの内容を必ず消化して、次回報告へと繋げる(60分)

評価方法および評価の基準

出席50%
到達目標に準じた課題・提出物等50%
計100点満点中、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用しない。必要に応じてプリントの配布を行う。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	**演習Ⅰ**		
担当教員名	川瀬　基寛		
ナンバリング	KJh467		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	3	ク　ラ　ス	1Gクラス
開　講　期	前期	必修・選択の別	必修＊
授 業 形 態	演習	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

クリエイティブディレクター及びグラフィックデザイナー経験を持つ教員が、クリエイティブな視点を交えながら、実際のデザイン技術とデザインに関する基礎的な知識に関する演習を行う。

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

メディアコミュニケーション学科演習科目である。

３年次後期の演習2および4年次の卒業研究に向けての応用力を育成する。

②科目の概要

ゼミのメインテーマ（映像、グラフィックデザイン等の制作およびメディア・リテラシー研究）に関する知識および作品制作を行う。

自主的に調査・研究する→計画的に制作する→発表するという３つを円環的に行い、アクティブラーニングとしてのグループワークを通じて、実社会への適応能力を育成する。

③授業の方法(ALを含む)

演習を中心として、各個人でもグラフィック作品を制作していく。グループによるディスカッションを取り入れ自説発表や議論を行う。【ICT】【創作、制作】【グループワーク】【フ? レセ? ンテーション】

④到達目標

1.クリエイティブマインドを持った制作プロセスを理解し、デザイン理論を応用した作品制作をすることができる

2.メディア・リテラシー能力を向上させ、情報発信者として様々なメディア表現をすることができる

3.先行研究調査や要約を習得し、自説発表や豊かな議論することができる

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

①-1メディアの役割、利用方法 、②-4企画・情報発信 、③-4協働、問題解決

内容

4年次の卒業研究に向けて、各自でテーマを選択し発表・制作を行います。

企画構成演習やデザイン理論の発展形、映像技術や写真技術を学び、メディア・リテラシーおよびメディア表現能力の向上を目指します。

作品制作は主にグラフィックデザイン、実写映像、写真を重視していきます。

第1回～第7回
卒業研究に向けて、図書館の利用、本の読み方、レポートの書き方、要約、レジュメ、先行研究の調査など、スタディスキルを前半で身につけていきます。
中間発表もあるので主体的に取り組む姿勢が不可欠です。

第8回～第15回
地域連携として外部への作品提供、外部コンペティションへの応募など、作品制作の機会を設けます。
クリエイティブ系への就職を規模する学生は、同時にポートフォリオ作成（作品集）の準備をしていきます。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】課題・ポートフォリオ作成（作品集）のための準備を怠らない。（90分程度）
【事後学修】課題・ポートフォリオ作成（作品集）のための準備を怠らない。（90分程度）

評価方法および評価の基準

ディスカッション・発表(30%)、課題・作品(40%)、参加度(30%)とし、総合評価60点以上を合格とする。
到達目標1：課題・作品により評価する
到達目標2：課題・作品、授業参加度により評価する
到達目標3：ディスカッション・発表、課題・作品により評価する
【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の意見や振り返りをすることで、様々な視点から理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用しない。必要に応じてPDFファイルや資料の配布を行う。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

レジュメ・レポート執筆や作品制作における参考文献、作品制作における素材・画材等は、その都度指示します。

科　目　名	**演習Ⅰ**		
担当教員名	北原　俊一		
ナンバリング	KJh467		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	3	ク　ラ　ス	1Hクラス
開　講　期	前期	必修・選択の別	必修＊
授 業 形 態	演習	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

メディアコミュニケーション学科3年前期の必修科目である。後期の「演習II」、4年次の「卒業研究」に接続させるために専門分野に関する知識や技術を学ぶ。

②科目の概要

カリキュラムで設定されている情報関連分野について理解を深め、自主的に問題解決する力を身につけていく。

③授業の方法

グループでの議論を中心に進める。必要に応じてコンピュータの演習を行う。

④到達目標

(1)学修体系を解釈でき、各自で問題点を発見し、述べることができる。

(2)問題解決に向けて、グループ内でコミュニケーションする。

(3)解決の手段を選択し応用、工夫することができる。

(4)問題解決に向け協調できる。

⑤ディプロマポリシーとの関連性

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

②-1情報収集・情報選択、集約　②-3メディア選択・活用　③-3協働・問題解決

内容

メディアコミュニケーション学科3年前期カリキュラムが網羅する分野において、自分なりの問題点を把握する。それらの問題をグループで共有し、解決法を議論する。議論した解決方法に関する資料を集め、解決方法を実践する。

また、興味ある分野についてより進んだ学修をする。

1週 ゼミ進行を確認する。

2-5週 2年生後期カリキュラムを分析し、各自問題点を把握する

6-7週 各自問題点をゼミメンバーで共有し、解決方法を議論する

8-9週 各自問題解決に向けて、必要な情報を検索、関連書籍を調べる。

10-14週 各自で問題解決に向け学習・作業を進めると同時に、問題解決に向けて適宜ゼミナールの中でコミュニケーションを行う。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前学修】事前に関連情報を検索する。(各授業で60分)

【事後学修】授業で取り扱った内容について、学習カードにまとめる。(各授業で60分)

評価方法および評価の基準

自分の取り組みを学習カードに記入していく。
到達目標(1) 学習への取り組み(10点/100)
到達目標(2) 議論への参加度(10点/100) 学習カード(20点/100)
到達目標(3) 議論への参加度(10点/100) 学習カード(30点/100)
到達目標(4) 議論への参加度(20点/100)
以上の配分で評価し、60点以上を合格とする。
【フィードバック】提出物に対してのフィードバックとして、様々な意見を紹介して考え方・見方の違いを共有する。またそれに対するコメントを行い、学修を深める。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に紹介する。各自のテーマによる。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	**演習Ⅱ**		
担当教員名	棚谷　祐一		
ナンバリング	KJh567		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	3	ク　ラ　ス	2Aクラス
開　講　期	後期	必修・選択の別	必修＊
授 業 形 態	演習	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

卒業研究に向けての応用力を高める。当科目は学科ディプロマポリシーの①-3.4
、②-2.3、③-2に該当する。

②科目の概要

ゼミのテーマである音楽、音響コンテンツ制作のためのより専門的な知識と技術を獲得しつつ、作品制作を行います。

③授業の方法（ALを含む）

講義、グルオープワーク、ディスカッション、演習等、多角的な学びを通じて創造力を養う。

④到達目標

音楽制作のプロセスを理解し、制作ツールを使いこなしてコンテンツを制作することができる。
情報発信者としてのリテラシーを身につける。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

内容

授業は演習中心に講義とディスカッションを取り入れつつ行う。
1.ブラウザによる音楽制作
…Webアプリ、audiotoolを用いた音楽作品制作
2.ボーカロイド演習
…ボーカロイドのエディット、作品制作、アップロード
3.BGM制作
…映像付随音楽の研究。オーディオループ素材、MIDI入力などを総合的に活用して動画に対してBGMを制作する

進度は各自の学習状況に合わせて調整します。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】日常的にクリエイター目線で能動的かつ分析的に音楽作品を聴きこむ。また、映画鑑賞やテレビ番組を視聴する際も背景の「音」に着目してみることを習慣にする（毎日40分程度）。
【事後学修】課題に取り組むことによって技術をしっかりと身に付ける（各回に対し60分）。

評価方法および評価の基準

テーマ毎に演習課題を提出する。その内容を総合評価し、６０点以上を合格とする。
【フィードバック】各回の冒頭に質疑応答を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】いちばんわかりやすいDTMの教科書 松前公高　著　リットーミュージック
ボーカロイドを思い通りに歌わせる本 Nagie 著　リットーミュージック

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	**演習Ⅱ**		
担当教員名	安達　一寿		
ナンバリング	KJh567		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	3	ク　ラ　ス	2Dクラス
開　講　期	後期	必修・選択の別	必修＊
授 業 形 態	演習	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

メディアコミュニケーション学科専門科目（必修）で、卒業研究に向けての学修を進める科目である。

②科目の概要

卒業研究につながる演習として、メディアと教育、社会に関する様々な事柄を幅広く学びます。

③授業の方法（ALを含む）

個人ごとにテーマを設定し、研究活動を進める。

④到達目標

・メディアと教育に関する理論背景を説明することができる。
・関連するICT技術を習得し、データ分析や教材開発ができる。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①-1　メディアの役割、利用方法
②-1　情報収集・情報選択、集約
③-1　社会問題への関心・意識

内容

ICT（情報通信技術）の普及により、教育分野（学校、生涯学習）では、e-learningに代表される様々な教育方法が実践されています。その目的は、メディアは情報を伝えるコミュニケーションの手段と捉え、それを効果的活用することにより如何に高い教育効果をあげることができるか、ということです。そのためには、単にコンピュータやインターネットを活用することだけではなく、対象となる学習者の状況を知ること、どのような教材（コンテンツ）であればいいのか、活用の方法はどうしたらいいか等、様々なこと（要因）を検討する必要があります。ゼミでは、こうしたICT活用に関する教育の背景や理論とICT活用の技術（Webページ、アニメーション、編集）を学びます。
内容にかかわる基礎的な部分は、他のゼミと合同で実施する場合もある。

毎回追究するテーマを設定し、それに関する調査分析、発表を行う。

空き時間などは積極的に学習の機会を作り、目的意識を持って問題に取り組んでほしい。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】テーマに関する資料の準備(60分)
【事後学修】事後評価(60分)

評価方法および評価の基準

レポートの状況、および日常の学習の状況で判断する。当然のことながら、毎回出席すること。
合計60%以上で合格とする。

・日常のゼミでの取り組み状況　30%
・メディアと教育に関する理論背景を説明することができる。 →プレゼンテーション　20%
・関連するICT技術を習得し、データ分析や教材開発ができる。　→課題レポート　50%

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

指定しない

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	**演習Ⅱ**		
担当教員名	田総　恵子		
ナンバリング	KJh567		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	3	ク　ラ　ス	2Eクラス
開　講　期	後期	必修・選択の別	必修＊
授 業 形 態	演習	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

　演習Ｉに続けて履修し、卒業研究の準備を行う。

②科目の概要

　現代社会における政治、経済、社会、文化の動きに関連したテーマを取り上げて話し合い、個々に論文のテーマになりそうな分野を絞り始める。それぞれのテーマについてさらに話し合い、卒業論文につながる研究、調査の計画を立てていく。個々のテーマ、調査法について互いに意見を述べ合う機会を重視して、議論中心に演習を進める。

③授業の方法（ALを含む）

　ディスカッション、ディベート、プレゼンを通じて、現代社会の諸問題についての理解を深め、それを発表する能力を身につける。【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】

④到達目標

前期に引き続き、現代社会の諸問題を深く理解する。

学期末に発表する論文を、卒業研究の第１段階と位置づけられるものとして作成する。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

　この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

　①－１メディアの役割、利用方法　②－１　情報収集・情報選択、集約　③－１　社会問題への関心・意識

内容

この授業では、ディスカッション、ディベート、プレゼンを通じて、現代社会の諸問題についての理解を深め、それを発表する能力を身に付ける。

第1 回～第4 回：後期ゼミ・レポートのテーマ選択、問題提起

第5 回：テーマ発表

第6 回～第13 回：リサーチの経過報告・卒論への展開

第14 回：レポート体裁確認・提出

第15 回：レポートの最終発表

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】 それぞれのテーマについての情報を集め,Ａ５１枚に記録する。（各授業に対して60分）

【事後学修】 発表に対するコメントを参考に、情報を整理、分析し、Ａ４１枚にまとめる。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

発表・討論への参加（30%）レポート（70%）で評価し、60点以上を合格とする。

【フィードバック】発表後講評

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】白井利明・高橋一郎　『よくわかる卒論の書き方』第２版　ミネルヴァ書房　2013年

【参考図書】藤田真文　『メディアの卒論』　ミネルヴァ書房　2011年

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	**演習Ⅱ**		
担当教員名	川口　英俊		
ナンバリング	KJh567		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	3	ク　ラ　ス	2Cクラス
開　講　期	後期	必修・選択の別	必修＊
授 業 形 態	演習	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

本科目はマスメディア、ネットメディアなどの役割や影響、社会での利用方法について学ぶ。情報を集め取捨選択し、まとめる力を身につける。現代社会の諸問題に興味を持ち、問題意識を持つなどの力を育成するものである。

②科目の概要

時事問題の検討、現場訪問としてのフィールドスタディ、本を読みレジュメを作成しての発表、自分の関心により選んだテーマで論文の技法に則ってのレポート作成などを予定している。

③授業の方法（ALを含む）

取り等を行う、レポート作成、レポート内容のプレゼンテーション

【PBL】【フィールドワーク】【レポート(表現)】【プレゼンテーション】

④到達目標

1.学生が自分の興味・関心からテーマを選び、自分で調べ考え文章にまとめていく力を身につける

2.学生が自分の視点でものごとを捉えること・主張する力を身につける

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

①-1メディアの役割、利用方法　③-1社会問題への関心・意識

内容

この授業は自分のテーマを研究して議論する、時事問題を取り上げその問題と解決策を議論しながら現代社会への理解を深めていく。

・時事問題－各自の関心・視点による切り口から問題提起を行い質問・議論を行う事によって理解を深める。

・ディベート－効果的な討論の仕方を学ぶ。

・ゼミ論－自分の関心によりテーマを選びレポートを作成、その内容をゼミで発表・議論する。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】自分のテーマについて基礎知識を修得し、問題点を把握する。(各授業に対して45分)

【事後学修】自分のテーマについて授業での議論から問題点、解決策を再検討する。(各授業に対して45分)

評価方法および評価の基準

平常点（40%）とゼミでの発表・提出物（60%）の総合評価とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎回の授業で取り上げる問題への疑問・意見などに回答する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】池上彰「ニュースの読み方使い方」新潮社 新潮文庫

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	**演習Ⅱ**		
担当教員名	石野　榮一		
ナンバリング	KJh567		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	3	ク　ラ　ス	2Bクラス
開　講　期	後期	必修・選択の別	必修＊
授 業 形 態	演習	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

新聞社での取材、編集経験がある。人脈を生かし地域をテーマにした課題に取り組みやすく、取材力、文章作成力をアップする指導ができる。社会人の心構えを伝えることができる。

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

本学科の専門科目と連動させ、演習を通じて特に地域メディアをより深く理解し、コミュニケーション能力を磨く。

②科目の概要

地域課題をテーマに取り上げ、積極的にかかわることで地域社会の理解を深め、社会人基礎力を身につける。メディア全般の深い理解、情報発信力の涵養も目標とする。

③授業の方法（ALを含む）

テーマごとに地域と積極的にかかわる活動。同じテーマでの文章作成。就職活動を意識したディスカッション。【討議・討論】【グループワーク】【創作・制作】

④到達目標

１．地域の課題を知り、解決するために必要なことは何かを考えることができる。

２．文章の理解力・表現力、コミュニケーション能力を着実に挙げることができる。

３．卒業研究の足がかりにすることができる。

４．就職活動に生かすことができる。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

①－１メディアの役割・利用法　②－１情報収集・情報選択、集約　③－１社会問題への関心・意識

内容

この授業は、資料収集・分析、フィールドワーク、グループワークを中心に進める。

本ゼミでは、マスコミ4媒体（新聞・テレビ・ラジオ・雑誌）およびインターネットメディアのそれぞれの歴史、役割、特徴を大枠で理解する。その上で、限定したエリアを対象とした「地域メディア」を取り上げ、地域性とメディアの関連性、生活とメディアの関係性などを全国各地の具体的な事例を調べながら理解を深めていく。また、コミュニケーション能力や表現力を養うため、ゼミ新聞等の制作にも取り組む。

さらに、現場感覚を理解するため実際に新聞社、出版社、テレビ局等の見学に加え、本学で展開しているフリーペーパー制作やWEB制作等の取材にゼミ生の立場から学生記者として積極的に関わる。

これら座学・学外授業の連環性と相乗効果の中で、一年後の「卒業研究」テーマを設定し、情報・資料収集に努め、卒研の骨格づくりを進める。就職を意識し、必要な準備にも随時取り組む。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】提示する課題の予習を行う。日々のニュース報道に自主的に接すること。(各授業に対して60分ほど）

【事後学修】学んだテーマを掘り下げる。ニュースを通じて社会の動向、事象の背景などを考察する。取材を踏まえた原稿の作成に取り組む。（各授業に対し60分ほど）

評価方法および評価の基準

各自が設定した地域の課題への取り組み50点、ゼミ運営への貢献度50点とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業ごとに前回授業の内容を確認し、学生の質問を受けながら理解を深める。作成した原稿は添削し返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

地方紙、フリーペパーなどの地域メディアを参考にする。必要に応じてメディア関連の書籍を紹介する。

【参考図書】記者ハンドブック（共同通信社刊）

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	**演習Ⅱ**		
担当教員名	加藤　亮介		
ナンバリング	KJh567		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	3	ク　ラ　ス	2Fクラス
開　講　期	後期	必修・選択の別	必修＊
授 業 形 態	講義・演習	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

ウェブ・映像等のメディアデザイン領域の実務経験と本授業の内容が関連する。

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

「卒業研究」の前段階として，研究テーマについて個別・グループで検討していく科目である。

②科目の概要

「テーマ」を設定して，実際に調査・発表・議論を行う。

各々の卒業研究のテーマ、手法については演習内で議論し，より良いものにしていく。

また、卒業研究領域に関係する専門技能の獲得・資格取得などにも目を向ける。

③授業の方法

メディア分析に関してはテーマごとに輪講を行い、制作に関してはグループによる企画・制作を行う。

【PBL】【グループワーク】【討議・討論】【制作】

④到達目標

１．問題意識を持ってテーマを見つけ，それを調査する意義を見出すことができる。

２．調査・発表・議論の方法を理解し，よりよい結果に向けてグループで議論することができる。

３．それぞれの「制作」の手法を自分で選択し、専門知識・技能を習得することができる。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

①-1.メディアの 役割，利用方法，②-1.情報収集・ 情報選択,集約，③-1.社会問題 への関心・ 意識

内容

１５回のゼミを、以下のスケジュールで行う予定である。

（1）イントロダクション１

（2）イントロダクション２

（３）～（14）　メディア研究
（15）まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

事前　自分の研究テーマについて、定期報告の準備を行ってくる(60分)
事後　定期報告、ディスカッションの内容を必ず消化して、次回報告へと繋げる(60分)

評価方法および評価の基準

出席50%
到達目標に準じた課題・提出物等50%
計100点満点中、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用しない。必要に応じてプリントの配布を行う。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	**演習Ⅱ**		
担当教員名	川瀬　基寛		
ナンバリング	KJh567		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	3	ク　ラ　ス	2Gクラス
開　講　期	後期	必修・選択の別	必修＊
授 業 形 態	演習	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

クリエイティブディレクター及びグラフィックデザイナー経験を持つ教員が、クリエイティブな視点を交えながら、実際のデザイン技術とデザインに関する基礎的な知識に関する演習を行う。

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

メディアコミュニケーション学科演習科目である。

4年次の卒業研究に向けての応用力を育成する。

②科目の概要

ゼミのメインテーマ（映像、グラフィックデザイン等の制作およびメディア・リテラシー研究）に関する知識および作品制作を行う。

自主的に調査・研究する→計画的に制作する→発表するという３つを円環的に行い、アクティブラーニングとしてのグループワークを通じて、実社会への適応能力を育成する。

③授業の方法(ALを含む)

演習を中心として、各個人でもグラフィック作品を制作していく。グループによるディスカッションを取り入れ自説発表や議論を行う。【ICT】【創作、制作】【グループワーク】【フ? レセ? ンテーション】

④到達目標

1.クリエイティブマインドを持った制作プロセスを理解し、デザイン理論を応用した作品制作をすることができる

2.メディア・リテラシー能力を向上させ、情報発信者として様々なメディア表現をすることができる

3.先行研究調査や要約を習得し、自説発表や豊かな議論することができる

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

①-1メディアの役割、利用方法 、②-4企画・情報発信 、③-4協働、問題解決

内容

4年次の卒業研究に向けて、各自でテーマを選択し発表・制作を行います。

企画構成演習やデザイン理論の発展形、映像技術や写真技術を学び、メディア・リテラシーおよびメディア表現能力の向上を目指します。

作品制作は主にグラフィックデザイン、実写映像、写真を重視していきます。

第1回～第7回
卒業研究に向けて、先行研究の調査や作品制作における立案などをします。
主体的に取り組む姿勢が不可欠です。

第8回～第15回
卒業研究に向けての作品制作や論文ドラフトの機会を設けます。
クリエイティブ系への就職を規模する学生は、同時にポートフォリオ作成（作品集）の完成をさせます。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】課題・ポートフォリオ作成（作品集）のための準備を怠らない。（90分程度）
【事後学修】課題・ポートフォリオ作成（作品集）のための準備を怠らない。（90分程度）

評価方法および評価の基準

ディスカッション・発表(30%)、課題・作品(40%)、参加度(30%)とし、総合評価60点以上を合格とする。
到達目標1：課題・作品により評価する
到達目標2：課題・作品、授業参加度により評価する
到達目標3：ディスカッション・発表、課題・作品により評価する
【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の意見や振り返りをすることで、様々な視点から理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用しない。必要に応じてPDFファイルや資料の配布を行う。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

レジュメ・レポート執筆や作品制作における参考文献、作品制作における素材・画材等は、その都度指示します。

科　目　名	**演習Ⅱ**		
担当教員名	北原　俊一		
ナンバリング	KJh567		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	3	ク　ラ　ス	2Hクラス
開　講　期	後期	必修・選択の別	必修＊
授 業 形 態	演習	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

メディアコミュニケーション学科3年後期の必修科目である。前期の「演習I」に続く科目であり、4年次の「卒業研究」に接続させるために専門分野に関する知識や技術を学ぶ。

②科目の概要

カリキュラムで設定されている情報関連分野について理解を深め、自主的に問題解決する力を身につけていく。

③授業の方法

グループでの議論を中心に進める。必要に応じてコンピュータの演習を行う。

④到達目標

(1)学修体系を解釈でき、各自で問題点を発見し、述べることができる。

(2)問題解決に向けて、グループ内でコミュニケーションする。

(3)解決の手段を選択し応用、工夫することができる。

(4)問題解決に向け協調できる。

⑤ディプロマポリシーとの関連性

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

②-1情報収集・情報選択、集約　②-3メディア選択・活用　③-3協働・問題解決

内容

メディアコミュニケーション学科3年後期カリキュラムが網羅する分野において、自分なりの問題点を把握する。それらの問題をグループで共有し、解決法を議論する。議論した解決方法に関する資料を集め、解決方法を実践する。

また、興味ある分野についてより進んだ学修をする。

1週 ゼミ進行を確認する。

2-5週 2年生後期カリキュラムを分析し、各自問題点を把握する

6-7週 各自問題点をゼミメンバーで共有し、解決方法を議論する

8-9週 各自問題解決に向けて、必要な情報を検索、関連書籍を調べる。

10-14週 各自で問題解決に向け学習・作業を進めると同時に、問題解決に向けて適宜ゼミナールの中でコミュニケーションを行う。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前学修】事前に関連情報を検索する。(各授業で60分)
【事後学修】授業で取り扱った内容について、学習カードにまとめる。(各授業で60分)

評価方法および評価の基準

自分の取り組みを学習カードに記入していく。
到達目標(1) 学習への取り組み(10点/100)
到達目標(2) 議論への参加度(10点/100) 学習カード(20点/100)
到達目標(3) 議論への参加度(10点/100) 学習カード(30点/100)
到達目標(4) 議論への参加度(20点/100)
以上の配分で評価し、60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出物に対してのフィードバックとして、様々な意見を紹介して考え方・見方の違いを共有する。またそれに対するコメントを行い、学修を深める。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に紹介する。各自のテーマによる。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	**卒業研究**		
担当教員名	安達　一寿		
ナンバリング	KJh568		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	4	ク　ラ　ス	0Dクラス
開　講　期	通年	必修・選択の別	必修＊
授 業 形 態	講義	単　位　数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

学科専門科目の必修科目である。専門科目での総合的な学修のまとめとなるかもくである。

②科目の概要

３年次までに修得した知識・技術に基づき、学生自らが特定の具体的課題に対して主体的に取り組み、最終的にその成果を卒業研究としてまとめる。学部での学修の集大成として、この1 年間を実りあるものにすることを期待する。

③授業の方法（ALを含む）

個人ごとにテーマを設定し、研究活動を進める。【論文】【プレゼンテーション】

④到達目標

卒業研究、卒業論文を仕上げることができる。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①-3　メディアの特性の理解

②-2　メディア選択・活用

③-3　協働・問題解決

内容

内容としては、メディア、インターネットなどといった情報技術を応用して、主に教育分野（学校、生涯）へ適応できる情報システム、コンテンツのあり方、及び開発を念頭に置く。

方法は、実験を主とした研究、調査を主とした研究、測定を主とした研究、資料・文献による研究、作品・コンテンツを中心とした研究、などによる。

いずれも論文と成果物（作品、コンテンツ、プログラム）を必要とし、研究にあたり各自テーマを設定し、計画的に進めることが必要である。

３年次終了時に、仮テーマを決定する。
４年前期は、基本的な情報収集、開発するコンテンツやシステムの設計、研究テーマ、目的・研究方法の確立をし、夏休み前には具体的な計画に従って研究が遂行できるように準備を進める。
４年後期は、それぞれの計画に従って研究を進め、最終的な研究を仕上げる。

研究テーマは、学生各自で異なるので、適当な時間を使いながら定期的にうち合わせ、進捗状況の報告などを行うこととする。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】卒業研究に必要な調査、実験、制作などをおこなう(60分)
【事後学修】論文等の形式で正課をまとめる(60分)

評価方法および評価の基準

卒業研究として内容・方法が適切なものであるか、また、論文・作品が期日までに提出され、卒研発表会でのプレゼンテーションが適当であったかを評価の対象にする。論文の内容・成果物を60%、発表会でのプレゼンテーション40%とし、
合計評価が60%以上で合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

指定しない

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	**卒業研究**		
担当教員名	田総　恵子		
ナンバリング	KJh568		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	4	ク　ラ　ス	OEクラス
開　講　期	通年	必修・選択の別	必修＊
授 業 形 態	演習	単　位　数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格　3 年次の「演習Ⅰ・Ⅱ」で学んだ日本及び国際社会の特徴についての知識をさらに発展させ、個々のテーマに焦点を当てた調査、研究を行う。単なる情報収集の段階から、集めた情報の体系的整理・分類と分析へ進み、分析結果の社会的及び学問的意義の検証の段階へと発展させていく。

②科目の概要

　前期は情報収集と整理、後期は集めた情報の体系的分類と分析に重点を置き、分析結果の社会的及び学問的意義の検証を行う。適宜発表を行い、発表者の論文を読者として読み、理解しにくい点を指摘し、改善のための議論を行う。

③授業の方法（ALを含む）

　フィールドワーク、プレゼン、ディスカッションを通じて、現代社会の諸問題を発見、整理し、論文あるいは制作物の形で他者にわかりやすく伝える能力を身につける。【フィールドワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【論文】

④到達目標

各自のテーマについて、他者との議論を通じて理解を深める。
自らの調査結果とその分析をわかりやすい方法で発表できる。

これまでの卒業論文のテーマ

「食と地球環境問題」、「エコロジー流行の実態」、「企業の社会的責任」、「自然と共存する経済」、「異文化理解と教育」、「イラク戦争開戦の背景」、「小国の独立－少数民族の民族意識」、「ディズニーの買わせる技」、「ジブリとディズニーから見る現代に息づく日本の思想」など。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

　この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする　①－３　メディアの特性の理解　①－４　表現技術　③－１　釈迦慰問団への関心・意識　③－３　コミュニケーションへの関与、意欲

内容

前期

第1 回～第5 回：個々のテーマ選択、問題提起
第6 回～第11 回：テーマに関する情報収集
第12 回～第14 回：テーマ発表会用のプレゼンテーション準備
第15 回：テーマ発表会

後期

第1回～第5回：リサーチの経過報告
第6回：テーマの最終決定
第7回～第11回：リサーチ及び論文執筆
第12回～第14回：論文形式の最終確認
第15回：卒論発表会

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】 ぞれぞれのテーマについて情報を収集し、発表の準備をする。（各授業に対して60分）
【事後学修】 発表後の議論で指摘された点を参考に、文章化する。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

発表・討論への参加(25%)、中間報告（25%)、卒業論文または制作物（50%）で評価し、60点以上を合格とする。
【フィードバック】提出物については、翌週以降の授業でコメント

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業で指示。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	**卒業研究**		
担当教員名	川口　英俊		
ナンバリング	KJh568		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	4	ク　ラ　ス	OCクラス
開　講　期	通年	必修・選択の別	必修＊
授 業 形 態	演習	単　位　数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

本科目はマスメディア、ネットメディアなどの役割や影響、社会での利用方法について学ぶ。情報を集め取捨選択し、まとめる力を身につける。現代社会の諸問題に興味を持ち、問題意識を持つなどの力を育成するものである。

②科目の概要

自分の興味関心・問題意識によりテーマを選定し、卒業研究としての卒業論文を完成させていく。卒業論文のテーマ、問題意識、目次構成、参考文献を記した卒論中間報告を作成、その上で卒業論文を作成していく

③授業の方法（ALを含む）

取り等を行う、レポート作成、レポート内容のプレゼンテーション

【PBL】【フィールドワーク】【レポート(表現)】【プレゼンテーション】

④到達目標

学生が十文字学園女子大学において学んできて培った問題意識、研究手法、情報ツールの活用などを卒業論文を完成させることによって結実させ、4年間の総括とする

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

①-1メディアの役割、利用方法　③-1社会問題への関心・意識

内容

この授業は自分の卒業研究テーマについて研究の方向性、意見等を発表し、議論を行いながら理解を深めていく。

・資料収集―基本的文献、論文、ホームページなどを調べ集めていく。

・卒業論文の作成―校正、添削などを通じて推敲していく。

・発表―自分の卒業論文について発表し、議論する。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】自分の卒業研究作成の上での問題点、相談事項等をまとめておく。(各授業に対して45分)
【事後学修】授業での指導を踏まえて卒業研究についての自分の考え・方向性を明確にする。(各授業に対して45分)

評価方法および評価の基準

卒業論文(70%)、卒業論文の発表と平常点(30%)の総合評価とし、総合評価60点以上を合格とする。
【フィードバック】毎回の授業で取り上げる問題への疑問・意見などに回答する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】白井利明・高橋一郎「よくわかる卒業論文の書き方」ミネルヴァ書房

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	**卒業研究**		
担当教員名	石野　榮一		
ナンバリング	KJh568		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	4	ク　ラ　ス	OBクラス
開　講　期	通年	必修・選択の別	必修＊
授 業 形 態	演習	単　位　数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

日刊地方新聞での取材、編集経験と会社管理職の経験がある。こうした経験を踏まえメディア業界の現状、具体的な取り組みを伝えながらメディアの理解を深めることができる。

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

３年次の演習Ⅰ・Ⅱでの学習内容を踏まえ、３年次終了時点で決めた卒業研究テーマについて調査、研究し、卒業研究として仕上げる。

②科目の概要

３年次で決めた研究テーマに沿って資料収集と読み込み、データ分析などに取り組み、卒業研究論文をまとめる。時事問題などディスカッションに積極的に取り組む。【討議・討論】【フィールドワーク】【創作・制作】

③授業の方法（ALを含む）

研究を進める上でのアドバイス。時事問題の解説。

④到達目標

１．学びの集大成でもある卒業研究をまとめることができる。

２．コミュニケーション能力を向上させることができる。

３．卒業後の進路を具体化的に意識できる。

４．社会人としての基本的な素養を身につけることができる。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

①－３メディアの特性の理解　③－１社会問題への関心・意識　③－３コミュニケーションへの関与、意欲

内容

この授業は、グループディスカッション、グループワーク、資料収集・分析を中心に進める。

１．３年次の演習を踏まえ、学生が設定した卒業研究テーマに沿って情報および資料収集を進める。テーマに関しゼミ内で相互に議論を交わすことでテーマの深化を図る。卒業研究を学科の期限までに仕上げる。

２．学外での取材活動を積極的に行い、ゼミ新聞発行などを通じて取材力、表現力などコミュニケーション全般の能力（書く力・読む力・話す力・聞く力)を向上させる。

３．大学時代にこれをやった、と誇ることのできる「集中的な知的作業の達成感」は社会へ巣立つ時の大事な評価である。①社会で競争に勝つ文章力②バランス感覚豊かな編集力から生まれる企画力③人間洞察と数字に裏打ちされた交渉力④日程を踏まえた確かな段取りの力―を能動的な授業を通して総合的に磨き上げ、「就職力・就業力」に収斂させていく。

４．学生が志望する進路が実現できるよう支援する。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】卒業論文のテーマに沿った資料収集、論文制作。（各授業に対して６０分以上を確保）
【事後学修】指摘された課題に関し論文の書き直し、資料を用いた確認作業に取り組む。（各授業に対して６０分以上を確保）

評価方法および評価の基準

各授業回で問題提示・解決する姿勢とディスカッショ40点、卒業研究・論文執筆60点とし、総合評価60点以上を合格とする。
【フィードバック】毎授業ごとに前回授業の内容を確認し、学生の質問を受けながら理解を深める。卒論の進捗状況を見て、学生と意見交換しながら適宜アドバイスをしていく。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は特にない。卒業論文のテーマに沿った資料を担当教員と相談しながら収集する。
【参考図書】日々の新聞

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	**卒業研究**		
担当教員名	加藤　亮介		
ナンバリング	KJh568		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	4	ク　ラ　ス	OFクラス
開　講　期	通年	必修・選択の別	必修＊
授 業 形 態	講義・演習	単　位　数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

ウェブ・映像等のメディアデザイン領域の実務経験と本授業の内容が関連する。

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」の理解・準備を踏まえ、「卒業研究論文」または「卒業制作」を行う。

②科目の概要

「メディア」に関連するテーマを設定して、調査、分析、執筆・制作を行う。

③授業の方法

卒業研究テーマに関してに輪講を行いつつ、各個人の卒業研究をまとめていく。

【制作】【論文】【プレゼンテーション】

④到達目標

卒業研究として「卒業研究論文」または「卒業制作・副論文」のいずれかを完成することができる。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

①_3.メディアの 特性の理 解,②-3.メディア選 択・活用,③-3.コミュニ ケーション への関与、 意欲

内容

１５回のゼミを、以下のスケジュールで行う予定である。

(1)イントロダクション１

(2)イントロダクション２

(3)～(10)各々の、研究論文・制作等について進捗をプレゼンテーションし、

フィードバックを行っていく。

(11)-(14)

論文、制作物についての仕上げ、並びに最終プレゼンテーションの準備を行っていく。

(15)総括

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

事前　自分の研究テーマについて、定期報告の準備をおこなう(60分)

事後　定期報告、ディスカッション、指導の内容を必ず消化して、卒業論文・制作を進捗させる(60分)

評価方法および評価の基準

参加態度（50%）アウトプットにおける評価（50%）

総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用しない。必要に応じてプリントの配布を行う。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	**卒業研究**		
担当教員名	棚谷　祐一		
ナンバリング	KJh568		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	4	ク　ラ　ス	OAクラス
開　講　期	通年	必修・選択の別	必修＊
授 業 形 態	演習	単　位　数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

卒業研究に向け、目標を定めて課題制作に取り組む。当科目は学科ディプロマポリシーの①-3.4
、②-2.3、③-2に該当する。

②科目の概要

ゼミのテーマである音楽、音響コンテンツ制作のためのより専門的な知識と技術を獲得しつつ、作品制作を行います。

③授業の方法（ALを含む）

講義、グルオープワーク、ディスカッション、演習等、多角的な学びを通じて創造力を養う。

④到達目標

音楽制作のプロセスを理解し、制作ツールを使いこなしてコンテンツを制作することができる。
情報発信者としてのリテラシーを身につける。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

内容

授業は演習中心に講義とディスカッションを取り入れつつ行う。

1.オーディオ編集のテクニック
2.エフェクト研究～応用編その１
3.エフェクト研究～応用編その２
4.理論実習
5.スタイル別アレンジ講座
6.卒業作品制作、副論文作成

進度は各自の学習状況に合わせて調整します。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】日常的にクリエイター目線で能動的かつ分析的に音楽作品を聴きこむ（毎日40分程度）。

【事後学修】課題に取り組むことによって技術をしっかりと身に付ける（各回に対し60分）。

評価方法および評価の基準

テーマ毎に演習課題を提出する。その内容を総合評価し、６０点以上を合格とする。

【フィードバック】各回の冒頭に質疑応答を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】いちばんわかりやすいDTMの教科書 松前公高　著　リットーミュージック

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	**卒業研究**		
担当教員名	川瀬　基寛		
ナンバリング	KJh568		
学　　科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学　　年	4	ク　ラ　ス	OGクラス
開　講　期	通年	必修・選択の別	必修＊
授 業 形 態	演習	単　位　数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

クリエイティブディレクター及びグラフィックデザイナー経験を持つ教員が、クリエイティブな視点を交えながら、実際のデザイン技術とデザインに関する基礎的な知識に関する演習を行う。

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

メディアコミュニケーション学科演習科目である。

4年間の集大成として卒業研究を行う。

②科目の概要

ゼミのメインテーマ（映像、グラフィックデザインなどの制作およびメディア・リテラシー研究）から個人テーマを設定し研究計画を立て、作品制作および論文執筆をを行う。

③授業の方法（ALを含む）

演習を中心として、各個人でもグラフィック作品を制作していく。グループによるディスカッションを取り入れ自説発表や議論を行う。【制作】【論文】【フ? レセ? ンテーション】

④到達目標

1.企画力、制作力、論文執筆能力を習得し、成果物として卒業論文・制作を執筆・制作することができる

2.情報発信者として、さらなるメディア・リテラシー能力の向上を目指した卒業研究をすることができる

3.メディア表現の様々な手法とクリエイティブマインドを獲得し、卒業研究をすることができる

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、メディアコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

①-1メディアの役割、利用方法 、②-4企画・情報発信 、③-4協働、問題解決

内容

4年間の集大成として卒業研究を行います。

各自でテーマを選択し研究・制作および発表を行います。

論文の場合はメディア・リテラシー研究やメディア表現研究が中心となり、制作の場合はデザイン系（グラフィックデザイン）、映像系（実写、写真、モーショングラフィックス、アニメーション）が中心となります。

どちらも「テーマ選択→中間発表→卒業研究（卒業制作）完成→発表会」という順で進みます。

第1回～第15回
卒業研究に向けて、先行研究の調査や企画立案をしていきます。
中間発表もあるので主体的に取り組む姿勢が不可欠です。

第16回～第30回
実際の作品制作、論文の執筆などを行い、卒業研究を完成させます。
主体的に取り組む姿勢が不可欠です。

卒業研究は以下のどちらかを選択します。
1.作品制作の場合、①作品　②副論文（字数指定有り、フォーマット指定）
2.論文の場合、①論文（字数指定有り、フォーマット指定）

作品制作の注意事項
・企画書・スケジュールおよびラフデザインの事前提出と審査が必須。
・写真集や絵本などは外部委託による製本を行うこと。（2冊以上）
・映像系はDVD化を行い、パッケージを作成すること。（2枚以上）
・デザイン系の場合はA2~A3パネル化または外部委託による実物作成を行うこと。（2点以上）

論文執筆の注意事項
・テーマを確定するための先行研究調査や事前収集した資料などの提出・審査が必須。
・参考文献リストの作成を行うこと。
・論文ドラフトを作成すること。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】研究計画立案、資料収集を怠らない。（120分程度）
【事後学修】計画を確認し、作品制作および論文執筆を怠らない。（120分程度）

評価方法および評価の基準

研究計画書（企画書、ラフデザイン含む）への取り組み（30%）、研究内容（作品、論文）への取り組み（50%）、研究発表（卒研発表会、中間報告会）への取り組み（20%）で総合的に判断し、60点以上を合格とする。
到達目標1：研究計画書（企画書、ラフデザイン含む）への取り組みにより評価する
到達目標2：研究内容（作品、論文）への取り組みにより評価する
到達目標3：研究発表（卒研発表会、中間報告会）への取り組みにより評価する
【フィードバック】研究計画書や中間報告など、毎時間進捗状況を共有し、より良い卒業研究になるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用しない。必要に応じてPDFファイルやデータファイル、資料の配布を行う。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

論文執筆や作品制作における参考文献等は、その都度指示します。